

Altova MobileTogether Server ユーザーマニュアル

All rights reserved. No parts of this work may be reproduced in any form or by any means – graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or information storage and retrieval systems – without the written permission of the publisher.

Products that are referred to in this document may be either trademarks and/or registered trademarks of the respective owners. The publisher and the author make no claim to these trademarks.

While every precaution has been taken in the preparation of this document, the publisher and the author assume no responsibility for errors or omissions, or for damages resulting from the use of information contained in this document or from the use of programs and source code that may accompany it. In no event shall the publisher and the author be liable for any loss of profit or any other commercial damage caused or alleged to have been caused directly or indirectly by this document.

公開日: 2020

(C) 2020 Altova GmbH

目次

1	Mobi	ileTogether Server へようこそ	6
2	はじる	めに	8
2.1	Mobile	·Together 概要	
2.2	Mobile	Together Server の使用方法	11
3	Mobi	ileTogether Server のセットアップ	13
3.1	プロセ	ッサーコアとライセンス	
3.2	Windov	ws でのセットアップ	
	3.2.1	Windows へのインストール	
	3.2.2	Windows でのライセンス	
3.3	Linux [.]	でのセットアップ	21
	3.3.1	Linux へのインストール	21
	3.3.2	Linux でのライセンス	24
	3.3.3	環境についてのメモ	
3.4	Mac O)S X でのセットアップ	
	3.4.1	macOS へのインストール	
	3.4.2	macOS でのライセンス	30
	3.4.3	環境についてのメモ	
4	サー	バーの手順	34
4.1	Altova	LicenseServer の開始	

4.1	Altova LicenseServer の開始	35
4.2	MobileTogether Server の開始	37
4.3	SSL 暗号化のセットアップ	39
4.4	管理者とモバイル クライアントポートの設定	44
4.5	ユーザーとロール	48
4.6	使用可能な特権	51

4.7	ファイアーウォールの構成	54
4.8	ソリューションを使用する統計	55
4.9	クライアントの情報	60
4.10	MobileTogether Server のバックアップと復元	61
4.11	よくある質問	63

5 Web UI リファレンス

5.1	ワークス	70—	66
5.2	ユーザ・	ーとロール	
	5.2.1	ユーザー	74
	5.2.2	ロール	
	5.2.3	パスワードポリシー	81
	5.2.4	レポート	83
5.3	ユーザ・	ーライセンス	85
5.4	ログ		87
5.5	キャッシ		89
5.6	バックア	7ップと復元	
5.7	設定		
	5.7.1	ネットワーク	
	5.7. 2	ログ	100
	5.7.3	LDAP	101
	5.7.4	認証	
	5.7.5	JWT	103
	5.7.6	キャッシュ	104
	5.7.7	ソース	105
	5.7.8	その他	108
	5.7.9	LicenseServer	111
	5.7.10	構成ファイル設定	111

6 MobileTogether Server コマンドライン 113

6.1	addtorole	115
6.2	applicationid	116
6.3	assignlicense (Windoows $\mathcal{O}\mathcal{H}$)	117

64

6.4	createcontainer	119
6.5	createrole	120
6.6	createuser	122
6.7	debug	124
6.8	deploy	125
6.9	exportresourcestrings	127
6.10	grant	129
6.11	help	130
6.12	install	131
6.13	licenseserver	132
6.14	resetpassword	134
6.15	setdeflang	135
6.16	setpassword	136
6.17	setsmtp	137
6.18	start	138
6.19	uninstall	139
6.20	upgradedb	140
6.21	verifylicense (Windows $\mathcal{O}\mathcal{A}$)	141
6.22	version	142

インデックス

143

1 MobileTogether Server へようこそ

MobileTogether Server は、ケライアントモッイルデッイスに対するMobileTogether ソリューションにサーブします。MS Windows、Linux、およびmacOS マンン上で作動します。Windows、Linux、およびmacOS システムで作動します。

- MobileTogether ソリューションはAltova の<u>MobileTogether Designer</u> アプリケーションで作成され、MobileTogether Designer からMobileTogether Serverへデプロイされます。
- ケライアナ モビルデバスにインストールされている<u>Mobile Together Client アプリ</u>は Mobile Together Server. にデプロ イされたMobile Together ソリューションにアクセスすることができます。

MobileTogether Server はは見やすいWeb UI が搭載されており、サーバープロセスおよびログを管理することができます。このユーザ ーマニュアルはMobileTogether Server のセルアップ方法およびプロセスの管理について説明します。



現在のバージョン: 7.2

このドキュメントについて

このドキュメントは次のセクションに整理されています。

- <u>التلامات</u>⁸
- <u>MobileTogether Server のセットアップ</u>¹³
- <u>サーバーの手順</u>34
- <u>Web UI レファレンス</u>
 ⁶⁴
- コマボラインインターフェイスの使用方法¹¹³

以下も参照してくたさい Mobile Together Server に関するデモデオ3

Altova Web サイト: 🧬 アプルの開発、エクープライズアプリ、エクープライズアプルの開発、RMAD、コードの少ない開発

最終更新日: 2020年12月04日

はじめに 2

はめに

- <u>Mobile Together</u> 概要⁽¹⁾は Mobile Together システムとノステム内の Mobile Together Server について紹介します。
 <u>Mobile Together Serverの使用法</u>⁽¹⁾ セクションは Mobile Together Client アプル使用される Mobile Together Server のセメアップロ必要な手順を大まかに紹介します。

2.1 MobileTogether 概要

Mobile Together は以下のモジュールにと構成されています:

- <u>MobileTogether Designer</u>: モバルクライアトのためのMobileTogether ソリューションが作成され MobileTogether Server ヘデプロイされます。「<u>MobileTogether Designer ユーザーマニュアル</u>を参照してください。
- <u>Mobile Together Server</u>: Mobile Together ソリューションをモレイルデレイストールされた Mobile Together Client アプレーブします。サーバー管理タスクのサーバーの手順³³のセグションを参照してください。
- <u>Mobile Together Client アプリ(モバルデバス</u>): Mobile Together Server は接続して、そのサーバーにデプロイされた Mobile Together ソリューションにアクセスします。 <u>「Mobile Together Client App ユーザーマニュアル」</u>を参照してくだい。



システム必要条件

MobileTogether Designer

Windows	プラ水フォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、 Windows 10
---------	--

プラオフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 ま だは 以降
フ た

MobileTogether Server

Windows	プラオフォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、 Windows 10
Windows Server	プラオフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 ま だはい降
Linux	 CentOS 7 おけお以降 RedHat 7 おけお以降 Debian 8 おけお以降 Ubuntu 16.04 LTS おけお以降
macOS	macOS 10.13 およお以降

MobileTogether Client

iOS	Apple モ イルデ イスコは9 以上
Android	Android モイルディイスコは4.1 以上
Windows RT、Metro	Windows 10; Windows RT タッチが有効化されているPC とタブレナコンピューター
HTML	その他すべてのモッドハデッドスコはHTML ブラウザー

2.2 MobileTogether Server の使用方法

MobileTogether クライアントと使用するためにTo MobileTogether Serverをセットアップする方法:

- Mobile Together Serverのインストールと構成方法
- MobileTogether Designer からMobileTogether Server へのMobileTogether ソリューションのデプロイ
- Mobile Together Server 上のパローションにアクセスするすっかの(モバルデバス上の) Mobile Together Client アプルの 構成

更に詳しい手順

1. MobileTogether Server のんパール方法

Mobile Together Server はW indows、Linux、おびmacOS システムで作動します。Mobile Together Server の最新バージョンをクンネールする前に、前のドージョンをアンインネールはます。W indows へのインネール ⁽¹⁾、Linux <u>へのインネール</u> ⁽²⁾、おび<u>macOS へのインネール</u> ⁽²⁾を参照してくたさい。

2. MobileTogether Server のライセンス

Mobile Together Server のライセンを供与するよりはよ ネトワーク上で License Server は接続可能である必要があ ります。Mobile Together Server を開始して、Mobile Together Server を License Server で登録します。 License Server から Mobile Together Server ヘライセンを割り当てます。 Windows でのライセンス¹⁷、Linux で のライセンス²⁴、およびmacOS でのライセンス³⁰を参照してくたさい。

3. SSL 暗号化のセオアプ

サートとクライアトの通信の暗号化を希望する場合 Mobile Together Server のよめのSSL 暗号化をセオアップする ことができます(<u>SSL 暗号化のセオアップ</u>³³⁾を参照してくたさい). Mobile Together Client アプルを SSL を介して通信す るよう、構成する必要があります。 <u>Mobile Together Client アプリューザーマニュアルを</u>参照してくたさい。

4. 基本設定の定義

基本設定は管理者とクライアトポート4世と他のエミュニケーション設定とセキュリティの設定を説明します。

5. ユーザーアカウトの設定

MobileTogether Server は常に<u>ユーザーアカウト</u>480を介してアクセスすることができます。ですので、ユーザーアカウトを 適切にセルアップする必要が決ます。

- アクセスには2 通りの方法があります:管理者のアクセス:をWeb UI 介しての管理者のアクセスは管理タスケを 実行するために使用されます。管理アクションはエミュニケーション設定、セキューティ設定、およびユーザの管理を含み ます。
- エンドューザーのアクセス・エンドューザーはモレドルデレイスを介してアクセスすることができ、Mobile Together ソリューションをクライアントにダウンロード時に使用されます。サーバー上のノリューションへのアクセスはクライアントがログインするユーザーアカウントにより決定されます。
- 6. MobileTogether ソリューションのMobileTogether Server へのデプロイ

Mobile Together ソリューションは Mobile Together Designer アプリケーション内でデプロイされます。「<u>Mobile Together</u> <u>Designer ユーザーマニュアル」</u>を参照してくたさい。

7. MobileTogether Server にアクセスするためのMobileTogether Client アプリの構成

モ イルデ・イス上のMobileTogether Client アプルは MobileTogether Server 小接続できるよう構成されて、なければないません。MobileTogether Client アプルの構成に必要な MobileTogether Server 情報はクライアトの情報⁶⁰のセクションで説明されています。 おこ、「MobileTogether Client アプリューザーマニュアル」も参照ください。

サーバーIP アドレスとやトワークファイアーウォールの設定

使用中のサードは(イターネトを介してアクセスすることのできる)公開されたIP アドレス およびがおけよ(例えば、企業内ネトワーク内のW iFi など、プライベートのネトワーク内でアクセスすることのできる)プライベートのIP アドレスを持つことができます。もし、モーバイルクライアトデバイスがインターネトにサーバーのプライベートのIP アドレスを使用して、アクセスした場合、アクセスようまにしきません。これは、プライベートのIP アドレスは、インターネト上では知られておらず、解決することができないからです。クライアトデバイスが、プライベートのIP アドレスを使用する場合、ケライアトデバイスはプライベートネトワークへのアクセスを既に取得している必要があります。

サーバーへのアクセスを確実にするために、以下を行ってくたさい

- インターネットを介してアクセスできるように、サーバーン公開されたIP アドレスを与えます。クライア・トデバスでは、この公開 されたIP アドレスを使用してサーバーこアクセスします。
- ファイアーウォールを使用しており、Mobile Together Server をサーバーコプライベート IP アドレスを使用して、プライベートのネトワーク内にコークストールする場合、ネトワークのファイアーウォールを使用して、公開されたIP アドレスポートの組み合わせに送信されたリクエストを使用中のMobile Together Server サーバーゴ転送します。クライアントデバイスでは、公開されたIP アドレスを使用してくたさい。

Mobile Together Client 通信のために使用されるサーバーポートが使用されてサーバーへのアクセスか許可されるようにファイアーウォールの構成されていることを確認してください。Mobile Together Server で使用されるポートは、Mobile Together Server のWeb UIの設定ページで指定することができます。(*Mobile Together Serverユーザーマニュアルを参照してくたさい*)。 クライアートデバイスでは、これはアクセスするサーバーポートとして指定されている必要があります。

ヒント: ポート 80 はデフォルトで通常ほとんどのファイアーウォールに対して開かれています。ですから、ファイアーウォールの設定で問題 かあり、ポート 80 が他のサービスコン・インドされていない場合、ポート 80 をクライアントとの通信用の Mobile Together Server ポ ートとして指定することができます。

3 MobileTogether Server のセットアップ

このセグタンはインストール、ライセンス許与および他のセットアップの手順について説明しています。このドキュメトは以下のセグタンに整理されています。

- Windows のセットアップ¹⁵
- <u>Linux 上のセナアップ²¹</u>
- <u>macOS 上のセットアップ</u>²⁸

3.1 プロセッサーコアとライセンス

Altova サード、製品へのライセス供与は(ロジカルはコアの数量ではなく製品マシントで使用することのできる物理的なプロセッサーの コアの数量をベースしています。例えば、デュアルコアプロセッサーイコは、ケアドコアプロセッサー4コア、ヘキサコアるコアなどの2つのコアか存在 します。製品にライセンス供与されたコア数は、物理ませま板想マシントに関わらず、サードーマシントで使用することのできるコアの数量と同 数、ませま、それ以上である必要があります。例えば、サードーが8コア持つ場合、8コアライセンを購入する必要があります。コアの数量を 満たすためにライセンスを組み合わせることもできます。ですから、2つの4コアライセンスを使用して、8コアライセンスの代わり13コアを達成する こともできます。

処理する容量は少ないが、CPUコアの大きなコンピューターサーバーを使用している場合、少ない数量のコアは割り当てられている仮想マ シンを作成し、その数量のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイの場合、もちろん、コンピューターのすべてのコアを使用する場 合に北ベニのようなデプロイの処理スピードは遅いです。

メモ 各 Altova サーバー製品ライセンスは、使用されていないライセンス供与能力が存在する場合でも、Altova サーバー製品がインストールされているマシンで、一度に1つのグライアントマシンのためにのみ使用することができます。例えば、10 コアライセンスが6 CPU コアを持つマシンのために使用されている場合、残りのライセンス許与能力の4 コアは、他のグライアントマシンのために同時 に使用することはできません。

<u>Mobile Together Server Advanced Edition のためのメモ</u> サービス機能のため、Mobile Together Server Advanced Edition はつまたは以上のコアを持つマシン上でのみ作動します。

単ースレド実行

Altova サーバー製品が単ースレドの実行を許可すると*単ースレドの実行を*使用できるようないます。この場合、Altova サーバー製品ライセンスようイセンスプール内でにコアのみ使用することができます。複数のコアを持つマンノはこのにコアライセンスに割り当てることができます。このような場合、その製品を作動するマンノは単一コアで作動します。(複数のコアで可能な)処理はマルチスレバを使用できないすっか 遅いです。製品はそのマンンとで単ースレバモードで実行されます。

マルチコアマシノに単一コラティセンスを割り当てるコよその製品のためにLicenseServer内で「単一スレッド実行に制限する」チェックボックスを選択してくたさい。

MobileTogether Server コアライセンスのナダの単一スレンド実行が選択されている場合、MobileTogether Server に一台のモンド ルデバイスのみが接続することができます。この場合、2番目のデバイスが接続され、2番目のデバイスかライセンスを受け取ります。この場合 MobileTogether Sever に接続されている2台目のデバイスは接続不可能にない関連したエラーメッセージが表示されます。

必要とされるコアを見積もる方法

サーバーが扱うことのできるデータの量と処理回数を影響する多くの外部要素が存在します。(例えば、ハードウエア、CPU 上の現在のコード、サーバー上で作動する他のアプリケーションのメモレの割り当てなどか挙(応れます)。パフォーマンスを正確に測定するために、データの量、 条件、およびビジネスの環境にらし、状態でアプリケーションをテストしてくたさい。

以下の情報によい必要なコアを見積もることができます。<u>Altova MyCollections アプリ</u>はAndroid で使用することができます。 MobileTogether Server のiOS およびWindows プラナフオームはコアマシンで作動するマシスニインストールされます。このドキュメントの作成時(2019年3月)Google Play 統計によると<u>MyCollections アプリ</u>はAndroid クライア・トデ・イスニダウムロードされて します(iOS とWindows データは対応するストアによい公開されていません)。統計を考慮し、<u>MyCollections アプリ</u>内の機能を評価 すると、MobileTogether Server 機能に関連するコアの処理能力を見積もることができます。

3.2 Windows でのセットアップ

このセクションはWindows システムへのMobileTogether Server のインストール 5 とライセノス 12 について説明します。

Windows ヘクインストール

- システム必要条件¹⁵
- インストーノレMobileTogether Server¹⁵
- Altova LicenseServer¹⁵
- LicenseServer 15
- · トライアルライセス
- アプケーションフォルダーの場所¹⁵

Windows でのライセンス

- <u>ServiceController</u>の開始¹¹
- LicenseServer の開始¹⁷
- MobileTogether Serverの開始¹¹
- MobileTogether Serverの登録¹⁰
- ライセスの割川当て17
- メモ バージョン 7.1 以降から Mobile Together Server の32 ビオバージョンは64 ビオバージョンにインストールすることはできません。 せん、おけは64 ビオバージョンを32 ビオバージョンにインストールすることはできません。(i) 新しい デジョンをインストールする 前に古い デジョンを削除する、おけは(ii) 古いインストールと同じビオバージョンを新規のデージョンに更新する必要があります。

3.2.1 Windows へのインストール

MobileTogether Server はWindows システム~インストールすることができます。インストールとセオアップについては以下で説明されます。

- ▼ システム必要条件
 - ▼ <u>Windows</u> プラオフォーム更新済みのW indows 7 SP1、W indows 8、W indows 10
 - <u>Windows Server</u>

プラオフォーム更新済みのW indows Server 2008 R2 SP1 おけお以降

▼ MobileTogether Serverのインストール

MobileTogether Server をインストールするゴよ、Altova ダウロードセター(<u>http://www.altova.com/ja/download.html</u>) からインストールッケージをダウンロードして、画面上の手順に近いインストールにます。

インストール後、実行可能な Mobile Together Server はデフォルトで以下で見つけることができます:

<ProgramFilesFolder>\Altova\MobileTogetherServer\bin\MobileTogetherServer.exe

- Altova LicenseServer
 - MobileTogether Server が作動するためコよネトワークのAltova LicenseServer からライセンスを供与される必要がおます。
 - MobileTogether Server をW indows システムにインストールするは、Altova LicenseServer を MobileTogether Serverをダウムードしてインストールするオプションがあります。
 - Altova LicenseServer が既にネットワークにインストールされている場合、新しいシンゴンのAltova LicenseServer が必要ない限り、再度インストール必要におりません。(次のポイント?, <u>LicenseServer のビージョンを参照してくたさい。</u>)
 - Mobile Together Server のインストール中、適宜 Altova License Server のインストールのオプションをチェックしてく たさい。
 - a. Altova LicenseServer かぜごんストールされていない場合、デフォルの設定を保持してください。 ウィザードか最新バージョンのAltova LicenseServer をウィザードを作動しているコンピューターにインストールします。
 - b. Altova LicenseServer かまたインストールにわていなく、他のエレビューターにAltova LicenseServer をインストールする場合、「使用中のコンピューターにAltova LicenseServer をインストールする」チェックボックスをクリアして、「後で登録」を選択します。この場合、Altova LicenseServer のインストールと MobileTogether Server の登録を個別に行う必要があります。
 - c. Altova LicenseServer が既に使用中のエピューターにインストールされているが、インストールウィザードにより示さ れている、デジョンよりも低い場合は、デフォルトの設定を保持してください。この場合、インストールウィザードが自動 的にLicenseServer バージョンをダイアログボックスに表示されたパージョンにアップグレードします。既存の登録およ びライセンス情報はアップグレードの後も保存されます。
 - d. Altova LicenseServer が閉口使用中のエンピューター、おけよ ネットワークにインストールされており、ウィザードに 示される、デジョンと同じの場合は、以下を行ってくたさい
 - i. 「使用中のコンピューターに Altova License Server をインストールする」チェックボックスをクリックしてクリアします。
 - ii. 「この製品を登録する」からMobileTogether Server を登録するAltova LicenseServer インスタンスを 選択、おけよ「後で登録」を選択してくたさい。LicenseServer への関連を無視し、MobileTogether Server のインストールを継続する場合、「後で登録」を常に選択することかできます。

Mobile Together Server のAltova License Server への登録とライセンス供与の詳細に関しては、セクション<u>Windows で</u> のライセンス¹¹⁷を参照してくたさい。

- ▼ LicenseServer バージョン
 - Altova サート 製品はインストールされた Mobile Together Server バージョン 適切な License Server の デジョン おさよ License Server の最新の デジョンが要です。

 - LicenseServer の新しいデションをインストールする前に、古いデジョンはアンインストールされる必要があます。 LicenseServer インストーラーは古いデジョンを検出すると自動的に行います。
 - LicenseServer バージョンは下位互換性があります。MobileTogether Server の全ての古いシージョンと作動します。
 - MobileTogether Server の新しい
 ・ジョンを
 ・クストールする
 場合、
 そして、
 インストールされている
 LicenseServer
 ・
 ・ジョン
 は
 に
 は
 ら、
 Altova Web
 サイトから
 利用可能な
 最新

 ・
 ジョンを

 ンストール
 ます。
 - LicenseServer をアンインストールする際、古レッージョンのLicenseServer のすべての登録とライセンス情報はサーバーマシーンのデータベースに保存されます。このデータは新しレットジョンがインストールされる際、自動的に新しレットジョンにインポートされます。
 - 現在インストールされているLicenseServerの、デジシ番号はLicenseServer構成ページ(全てのダブ)の下部に あます。

現在のバージョン: 3.5

▼ トライアルライセス

インストール中、30日間のMobileTogether Server のトライアルライセンをリクエストすることができます。リクエストを送信すると、登録した電子メールフドレストライアルライセンスが送信されます。

▼ アプケーション フォルダの場所

アプケーションは以下のフォルダーにインストールされます

Windows 7、8、10	C:\Program Files\Altova\
64 ビナ OS 上の32 ビナバージョン	C:\Program Files (x86)\Altova\

3.2.2 Windows でのライセンス

MobileTogether Server は作動するためにAltova LicenseServer にライセンスされている必要があります。ライセンス供与は以下の2 つのステップから構成されています:

- 1. MobileTogether Server にLicenseServer を登録します。MobileTogether Server から登録することができます。
- 2. MobileTogether Server のライセンスを割り当てます。ローカルマンンませま、やトワーク上のマンノにインストールされる必要 のあるLicenseServer からライセンスを割り当てることかできます。

実行するステップお以下に手短に説明されています。詳細は、Altova Web サイトのユーザーマニュアルを参照してくたさい。

▼ ServiceController の開始

Altova ServiceController はAltova LicenseServer とAltova MobileTogether Server を開始するために必須です。

Altova ServiceController(略してServiceController)はWindowsシステム上でAltovaサビスを便利に開始、停止、 構成できるアプリケーションです。

ServiceController は Altova LicenseServer とおよび サービスとし てインストールされる Altova サーバー製品 (FlowForce Server, RaptorXML(+XBRL) Server, and Mobile Together Server).スタート | Altova LicenseServer | Altova ServiceController をクトックして開始されます。(このコマンドは「開始」メニューフォルダーでも使用することができます サービスとし てインストールされる Altova サーバー 製品(FlowForce Server, RaptorXML(+XBRL) Server, and Mobile Together Server)。)ServiceController か開始した後、システムトレイからアクセスすることができます。 (下部スクリーンショント)。



システムログイン時にServiceController の自動開始を指定するコよシステムトレイのServiceController アイエンをクトック して ServiceController メニューを表示します(ア部スクノーンショット)。スタートアップ時にAltova ServiceController を作動する(Run Altova ServiceController at Startup)コマンドに切り替えます。(このコマンドはデフォリルで切り替えられてい ます。)ServiceController を終了するコよシステムトレイのServiceController アイエンをクトックして、表示されるメニューから Altova ServiceController の終了(Exit Altova ServiceController)をクトックします(ア部スクリーンショント参照)。



▼ LicenseServer の開始

LicenseServer を開始するコンステムトレイの [ServiceController] アインをクリックします。メニューの [Altova LicenseServer] にポイントすると、(ア部スクリーンショント参照) がポップアップします。サブメニューから [Start Service] (サー ビスの開始) を選択します。LicenseServer か既に作動している場合、Start Service オプションは無効化されます。

۲	Altova FlowForce Server		
$(\mathbf{\hat{c}})$	Altova FlowForce Web		
	Altova LicenseServer	Configure	
Ø	Altova MobileTogether Server	Start service	
<u>@</u>	Altova RaptorXML+XBRL Server	Stop service	
	Exit Altova ServiceController		
~	 Run Altova ServiceController at startup 		
EI	N 🔺 🤮 🀑 🎲 11:00 AM		

▼ MobileTogether Server の開始

MobileTogether Server を開始するコよシステムトレイの[ServiceController] アイエンをクトックします。メニューの Altova MobileTogether Server にポイント すると サブメニュー(下部スクリーンショント参照) がポップアップします。 MobileTogether Server サブメニューから[Start Service](サービスの開始)を選択します。 MobileTogether Server か既に作動している場合、 Start Service オプションは無効化されます。



▼ MobileTogether Server の登録

MobileTogether Server をコマドラインインターフェイスから登録する場合、licenseserver コマドを使用します: MobileTogetherServer licenseserver [options] ServerName-Or-IP-Address

例えば localhost がLicenseServer がひストールされているサーバーの名前の場合、: MobileTogetherServer licenseserver localhost

おけよ MobileTogether Server を <u>MobileTogether Server のW eb UI の設定タブ¹⁹³³</u>からインストールすることができま す。基本的には(i) MobileTogether Server を ServiceController を使用して開始し、(前のポイント参照)、(ii)セナ アップページニアクセスするけっかの マワードを入力し、(iii) LicenseServer 名おけはストレスを選択して、「LicenseServer を 登録する」をクトックします。

登録に成功した後、LicenseServer構成ページのServer Management(サーバーの管理)タブへ移動して MobileTogether Server ヘライセンな割り当てます。

▼ ライセノスの割川当て

MobileTogether Server の登録に成功した後、LicenseServer の構成ページのServer Management (クライアントの管理タブ)にリストされます。移動して MobileTogether Server にライセンスの割り当てを行います。

Altova サード、製品へのライセンスは製品マンで使用可能なプロセッサコアの数をベースしています。例えば、デュアルコアプロセッサはコアが2 つ、ケア・ド コアプロセッサはコアが4 つ、ヘキサコアプロセッサはコアが6 つ等々。特定のサードーマントの製品 にライセンスされたコアの数は、物理ませば仮想マンで、サードーで使用可能なコア数よりも多くませば同数である必要があります。例 えば、サードーが8 コア、オケタルコアプロセッサの場合、少なくとも8-コアライセンズを購入する必要があります。また、ライセンズを合 計してコア数を満たすこともできます。2 つの4-コアライセンスは、8-コアライセンスの代わりにコケッルコアサードーで使用できます。

大きいCPU コアを持つエピューターサードーを使用し、少量を処理する場合、少ないコアを割り当てる仮想マンンを作成し、その数のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイは、もちろん、サーバーの全ての利用可能なコアか利用されている場合によれ べ処理スピードが落ちます。

メモ 各 Altova サーバー製品のライセンスは、使用されていないライセンス容量があっても、1度に1つのクライアトイマンスオビ いしか使用することができません。例えば10-コアライセンスが6 CPU コアのクライアトトマンスは使用される場合、残りの 4 コアライセンスは他のマンンで同時に使用することができません。

<u>MobileTogether Server ライセンス</u>

サイドーマンクロア数をベースして Mobile Together Servers に割り当てられます。上の例を参照してくたさい。上の説明を参照してくたさい。コアライセンスは、無制限の数量の Mobile Together クライア・トディイスによりサイドーへの接続を許可します。しかしなから、「単一スレンドの実行」チェックボックスがチェックされていると、1度にしかしなから、「単一スレンドの実行」チェックボックスが チェックされていると、1度に Mobile Together Server に接続できるモレイルディイスは1台です。これは、評価といき、規模のテストを行う際に役に立ちます。

3.3 Linux でのセットアップ

このセクションは inux システム (Debian、 Ubuntu、 CentOS、 RedHat) への Mobile Together Server の インストール 20 とライセン ス²⁴ について説明します。

Linux へのインストール²¹

- システム必要条件²¹
- Altova サーバー製品の古し バージョンのアンインストール²¹
- Linux パッケージのダウノロード²¹
- <u>MobileTogether Serverのインストール</u>21
- <u>Altova LicenseServer</u>²¹
- LicenseServer $\mathcal{O} \leftarrow \mathcal{I} \sim 2^{21}$
- · トライアルライセス21

Linux でのライセンス 24

- <u>LicenseServer</u>の開始²⁴
- MobileTogether Server の開始⁽²⁴⁾
- MobileTogether Server の登録²⁴
- ライセスの割り当て25

環境についてのメモ 26

3.3.1 Linux へのインストール

MobileTogether Server のLinux システムへのインストールは利用可能です。インストールとセナアップについては以下で説明されます。

- ▼ システムの必要条件
 - <u>
 Linux
 </u>
 - CentOS 7 およお以降
 - RedHat7 おより降
 - Debian 8 おより以降
 - Ubuntu 16.04 LTS おけよ以降

次のライブラルはアプリケーションをインストールし実行するために必要とされるライブラルです。下のパッケージが使用中 Linux の マシンで使用できない場合、yum(おけよ、適用できる場合、apt-get をコマイを実行してインストールしてくけざい。

₩ <u></u> ~, [×] ~	CentOS, RedHat	Debian	Ubuntu
MobileTogether Server	qt5-qtbase-gui, krb5-libs	libqt5gui5, libgssapi- krb5-2	libqt5gui5, libgssapi- krb5-2, libldap-2.4 (メ <i>- 正を参照</i>)

メモ Altova チャート機能を使用する場合、チャートが正確に表示されるように少なくともフォントの」つかシステム上にインストールされている必要があります。インストールされているフォントをリストするには、例えばFontconfig ライブラルのfc-listコマイを使用してくたさい。

▼ Altova サーバー製品の古し バージョンアンインストールする方法

前のデジョンをアンインストールする場合、以下の手順を踏んてくたさい。Linux コマボラインインターフェイス(CLI)で、Altova サーンデ製品がインストールされているか、以下のコマボで確認できます:

[Debian, Ubuntu]: dpkg --list | grep Altova [CentOS, RedHat]: rpm -qa | grep server

Mobile Together Server がインストールされていない場合、以下の Mobile Together Serverのインストールで説明されている手順を踏んでくたい。

MobileTogether Server が開これており、MobileTogether Server の新しい、デジンをインストールたい場合、古い、デジンを以下のコマイでアンインストールてくたとい

[Debian, Ubuntu]: sudo dpkg --remove mobiletogetherserver [CentOS, RedHat]: sudo rpm -e mobiletogetherserver

Altova LicenseServerの古いージョンをアンインハールする場合、以下のコマイで行ってくたさい

[Debian, Ubuntu]: sudo dpkg --remove licenseserver [CentOS, RedHat]: sudo rpm -e licenseserver

Debian とUbuntu システムでは、MobileTogether Server がインストール後にインストール済みの製品と、フレストする場合が あます。この場合、 purge コマイを実行して MobileTogether Server をリストからクレアします。 purge コマイドを上記の remove コマイドのinstead 代わりに
使用することもできます。

[Debian, Ubuntu]: sudo dpkg --purge mobiletogetherserver

▼ Linux パッケージのダウノロード

以下のMobileTogether Server のLinux システムへの ジケージは Altova Web サイト で使用可能です。

配布	パッケージ拡張子
Debian	.deb
Ubuntu	.deb
CentOS	.rpm
RedHat	.rpm

Linux パッケージのダウロード後、Linux システムニ直接コピーしてくたさい。 MobileTogether Server を作動するけっという Altova LicenseServer が必要なけっか、 <u>Altova Web サイト</u>から、 MobileTogether Server をダウレロードと同時に LicenseServer をダウレロードしてくたさい。

▼ MobileTogether Server のインストール

ターミナルウイボウで、Linux パッケージをコピーしたい デルクトリン切り替えてくたさい。例えば、MyAltova と称されるユーザーディ レオーリニピーしたとします、(例えば/home/User デルクトリン存在するとします)、デルクトリを以下のようこスイッチします: cd /home/User/MyAltova

以下のコマドを使用して Mobile Together Server インストールする

[Debian]: sudo dpkg --install mobiletogetherserver-7.2-debian.deb

```
[Ubuntu]:sudo dpkg --install mobiletogetherserver-7.2-ubuntu.deb[CentOS]:sudo rpm -ivh mobiletogetherserver-7.2-1.x86_64.rpm[RedHat]:sudo rpm -ivh mobiletogetherserver-7.2-1.x86_64.rpm
```

```
MobileTogether Server パッケージはフォルダミインストールされます:
/opt/Altova/MobileTogetherServer
```

Altova LicenseServer

MobileTogether Serverを含むAltova サーン・製品を作動するコよ サーン・製品はボットワークでAltova LicenseServer を介して、ライセンズを与えられなければよりません。

Linux システムでは、Altova LicenseServer は個別にインストールされる必要があります。 <u>Altova Web サイト</u>から LicenseServer をダウムロードして、パッケージをLinux システムのディレクトリニコピーします。 MobileTogether Server 同様 インストーールます、前のステップ参照)。

[Debian]: sudo dpkg --install licenseserver-3.5-debian.deb
[Ubuntu]: sudo dpkg --install licenseserver-3.5-ubuntu.deb
[CentOS]: sudo rpm -ivh licenseserver-3.5-1.x86_64.rpm
[RedHat]: sudo rpm -ivh licenseserver-3.5-1.x86_64.rpm

```
LicenseServer パッケージは以下にインストールされます:
```

/opt/Altova/LicenseServer

Mobile Together Server を Altova License Server で登録して、ライセンを与えることで関しての詳細は、セケンョン Linux でのライセンス²³を参照してくたさい。

- LicenseServer バージョン
 - Altova サーバー製品はインストールされた Mobile Together Server バージョン 適切な License Server の デジョン、 おけよ License Server の最新の デジョンが必要です。

 - LicenseServer の新しい デションをインストールする前に、古い デションオアンインストールされる必要があります。 LicenseServer インストーラーは古い デジョンを検出すると自動的に行います。
 - LicenseServer バージョンは下位互換性があります。MobileTogether Server の全ての古し バージョンと作動します。
 - MobileTogether Server の新しい

 バージョンが適切な LicenseServer バージョン

 バージョンが適切な LicenseServer バージョン

 バージョン

 バージョン

 ハージョン

 ホージョン

 ホージョン
 - LicenseServer をアンインストールする際、古いレージョンのLicenseServer のすべての登録とライセンス情報はサーバーマシーンのデータベースに保存されます。このデータは新しいレージョンがインストールされる際、自動的に新しいレージョンにインポートされます。
 - 現在インストールされているLicenseServerの
 ・ジョン番号はLicenseServer構成ページ(全てのダブ)の下部に あます。

現在のバージョン: 3.5

3.3.2 Linux でのライセンス

MobileTogether Server は作動するためにAltova LicenseServer にライセンスされている必要があります。ライセンス供与は以下の2 つのステップから構成されています:

- 1. MobileTogether Server にLicenseServer を登録します。MobileTogether Server から登録することかできます。
- 2. MobileTogether Server のライセンスを割り当てます。ローカルズシンませま、ネトワーク上のマシントニインストールされる必要のあるLicenseServer からライセンスを割り当てることができます。

実行するステップは以下に手短に説明されています。詳細は Altova Web サイトのユーザーマニュアルを参照してくたさい。

▼ LicenseServer の開始

MobileTogether Server をLicenseServer に正しく登録しライセス与えるせかには、LicenseServer はやオワークのデーモンとて開始していたい。以下のコマドで、LicenseServer をデーモンとて開始していたい

[< Debian 8]	<pre>sudo /etc/init.d/licenseserver start</pre>
[≥ Debian 8]	sudo systemctl start licenseserver
[< CentOS 7]	sudo initctl start licenseserver
[≥ CentOS 7]	sudo systemctl start licenseserver
[< Ubuntu 15]	sudo initctl start licenseserver
[≥ Ubuntu 15]	sudo systemctl start licenseserver
[RedHat]	sudo initctl start licenseserver

LicenseServer を停止する必要がある場合、上記のコマドのstart をstop と置換えてけきい。例えば: sudo /etc/init.d/licenseserver stop

▼ MobileTogether Serverの開始

MobileTogether Server を以下のコマイを使用してデーモンとて開始します:

[< Debian 8]	<pre>sudo /etc/init.d/mobiletogetherserver start</pre>
[≥ Debian 8]	sudo systemctl start mobiletogetherserver
[< CentOS 7]	sudo initctl start mobiletogetherserver
[≥ CentOS 7]	sudo systemctl start mobiletogetherserver
[< Ubuntu 15]	sudo initctl start mobiletogetherserver
[≥ Ubuntu 15]	sudo systemctl start mobiletogetherserver
[RedHat]	sudo initctl start mobiletogetherserver

MobileTogether Server をセオアゾルて、構成する場合、Web UI (セオアゾ) ページのWeb UI ページ URL をインター ネオブラウザーのアドレス いーに入力します: http:///serverIPAddressOrName>:8085.

ファイアーウォールのメモ

Mobile Together Server 構成のため、セナアップページを初めて使用する場合、Mobile Together Webのランダムなポートアドレスが、ファイアーウォールにブロックされることなく、開始されていることを確認してください。

- ▼ MobileTogether Serverの登録
 - コマボラインインターフェイスから Mobile Together Server を登録する場合、licenseserver コマボを使用します: sudo /opt/Altova/MobileTogetherServer/bin/mobiletogetherserver licenseserver [options] ServerName-Or-IP-Address
 - 例えば localhost がLicenseServer のインストールされたサードの名前である場合: sudo /opt/Altova/MobileTogetherServer/bin/mobiletogetherserver licenseserver localhost

上記のコマイで、localhost がLicenseServer のインストールされたサーバーの名前です。MobileTogether Server 実行可能の場所を確認してたさい /opt/Altova/MobileTogetherServer/bin/

Mobile Together ServerのWeb UI の設定タブ⁽³³⁾。原則: (i) ServiceController を介して Mobile Together Server を開始します(前述のポイント参照)。(ii) パワードを入力してセオアップページニアクセスします。(iii) LicenseServer の名前おゴゴズドレスを選択して[LicenseServer により登録]をクリックします。

登録に成功した後 LicenseServer の構成ページのカライアント管理タブに移動し MobileTogether Server にライセンを割り 当てます。

▼ ライセスの割り当て

登録に成功した後 LicenseServer の構成ページのカライアント管理タブに移動し MobileTogether Server にライセンズを割り 当てます。

Altova サード、製品へのライセンスは製品マンで使用可能なプロセッサコアの数をベースしています。例えば、デュアルコアプロセッサはコアが2 つ、ケアド、コアプロセッサはコアが4 つ、ヘキサコアプロセッサはコアが6 つ等々。特定のサードーマントの製品 にライセンスされたコアの数は、物理ませば反想マンで、サードーで使用可能なコア数よりも多くませば同数である必要があります。例 えば、サードーが8 コア、オケタルコアプロセッサの場合、少なくとも8-コアライセンズを購入する必要があります。また、ライセンズを合 計してコア数を満たすこともできます。2 つの4-コアライセンスは、8-コアライセンスの代わりにコケサル、コアサードーで使用できます。

大きいCPU コアを持つエピューターサーバーを使用し、少量を処理する場合、少ないロアを割り当てる仮想マンンを作成し、その数のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイは、もちろん、サーバーの全ての利用可能なコアが利用されている場合によとべ、処理スピードが落ちます。

メモ 各 Altova サーバー製品のライセンスは、使用されていないライセンス容量があっても、1度に1つのクライアトイマンスオビ いしか使用することができません。例えば10-コアライセンスが6 CPU コアのクライアトトマンスに使用される場合、残りの 4 コアライセンスは他のマンンで同時に使用することができません。

<u>Mobile Together Server ライセンス</u>

サーバーマンのコア数をベースして Mobile Together Servers に割り当てられます。上の例を参照してくたさい。上の説明を参照してくたさい。コアライセンスは、無制限の数量の Mobile Together クライアント デ・イスによりサーバーへの接続を許可します。しかしなから、「単一スレンドの実行」チェックボックスがチェックされていると、1度にしかしなから、「単一スレンドの実行」チェックボックスが チェックされていると、1度に Mobile Together Server に接続できるモレイルデバイスは1台です。これは、評価といき、規模のテストを行う際に役に立ちます。

3.3.3 環境についてのメモ

フォルダー

以下が MobileTogether Server セオアップの重要なフォルダーのノストです。

<u>−1ンスト−ルル+</u>

/opt/Altova/MobileTogetherServer/

🛯 <u>ライセンスファイル</u>

/var/opt/Altova/MobileTogetherServer

□ <u>環境設定</u>

/etc/profile.d/jdbc.sh

(通常 jdbc.sh と称される)環境設定ファイルはシステムの起動時に実行されます。内部の定義は、使用する特定の環境に指定される必要があります。上の、なのサンプルは一般的なガイドとして使用してください。

メモ 環境設定ファイルはンステム上のすべてのユーザーの変数を設定するため、設定する際は注意してくたさい。例えば、このファイル内でクラスパンを変更すると、変更はシステム全体に適用されます。MobileTogether Server ためこのみ変更を加える場合、ユニットファイルの使用を考慮してくたさい(JDBC 接続のセグンヨンで説明されています)。

ファイルシステムトリガーカ実行されるコは、Mobile Together Server サービス(altovamobiletogetherserver)を開始したユー ーザーカ次のトージンタンを所有している必要がおよす:

- トリガーされたフォルダーのための 読み取りと実行
- トリガーされたファイル 読み取り
- トリガーされたフォルダーの祖先フォルダー: 読み取りと実行

ファイルベースのデータベース

(SQLite データベースなどの) ファイルベースのデータベースは、MobileTogether Server の設定タブでサーバー側のノリューションの作業 ディレクトリ ⁽³³⁾として定義されたファイルに存在しなくてはよりません。デフォルトではこのファイルは、次の通りです:

/var/opt/Altova/MobileTogetherServer/SolutionFiles

CentOS上のMobileTogether サービスにクラスパスを追加する

MobileTogether Server がCentOS にインストールされている場合、

(/usr/lib/systemd/system/mobiletogether.service にある) mobiletogether.service ファイル ンクラス 父を 追加する必要がみます

クラスィマを次のように追加します

- 1. mobiletogether.service ファイル内で、"PIDFile=/var ..." 出始する [Service] セクションを検索しま す。
- 2. [Service] セクションの上にライン Environment="CLASSPATH=<classpaths-go-here>" を追加します。

データベースへの接続

Linux 上では、以下のデータベース接続かりポートされています

- JDBC Microsoft Access 以外のサポートされているすべてのデータベースにJDBC を使用することができます。
- ネイティブな接続 SQLite とPostgreSQL データベースのために使用することができます。
- •

JDBC を使用する場合、以下の点に注意してくたさい

- Java Runtime Envioronment おけまSDK がインストールされる必要があります。
- ターゲナ データベースのためのJDBC-接続がインストールされる必要がみます。
- 次の環境変数が環境のために正しく設定される必要がみます:
 - o CLASSPATH: JDBC データベースへ接続する.jar ファイルを検索するココントを行います; .jar ファイルを以下として入 カすることができます(i) システムの起動時に実行される(jdbc.sh などの) 実行可能スタレフト、おコよ (ii) MobileTogether Server がサービスとして開始される際に実行されるユニットファイル。.jar ファイルを指定するナダのユニッ トファイルの使用は、MobileTogether Server のJDBC 接続のナッカコンタティールが既存のシステムの構成を変更する ことなく使用できる利点があります。ユニットファイルは下にコストされています。
 - o PATH: JRE を検索します。しかし、インストールによっては必要のよい場合があります。
 - o JAVA HOME: ヘノストールコネじて必要な場合設定します。

重要なファイルのノスト

以下のシェルスクレト(おは、ユニナトファイル)がフォルダー/opt/Altova/MobileTogetherServer/etc によーされ、既存の 構成ファイルを上書きします。必要に応じて必要な変更を加えます。 およ、上のセクション JDBC 接続を参照してくたさい。 青で イライト された環境固有であり、使用中の環境に合うよう調整されなければなりません

■ シェルスタノプト (ユニットファイル)

#- jdbc - environment export PATH=/usr/local/jdk1.7.0_17/bin:/usr/lib64/qt3.3/bin:/usr/local/bin:/bin:/usr/bin:/usr/local/sbin:/usr/sbin:/sbin:/home/qa/bin
export JAVA_HOME=/usr/local/jdk1.7.0_17
export
CLASSPATH=/usr/local/jdbc/oracle/ojdbc6.jar:/usr/local/jdbc/oracle/xdb.jar:/usr/local
/jdbc/oracle/xmlparserv2.jar:/usr/local/jdbc/postgre/postgresql-9.0801.jdbc4.jar:/usr/local/jdbc/mssql/sqljdbc4.jar:/usr/local/jdbc/iseries/lib/jt400.ja
r:/usr/local/jdbc/mysql/mysql-connector-java-5.1.16bin.jar:/usr/local/jdbc/sqlite/sqlitejdbcv056.jar:/usr/local/jdbc/Informix_JDBC_Driver/lib/ifxjdbc.jar:/usr/local/jdbc/sybase/
jconn7/jconn4.jar:/usr/local/jdbc/db2/db2jcc.jar:/usr/local/jdbc/db2/db2jcc_license_c
u.jar:./:

3.4 Mac OS X でのセットアップ

このセクタンはMobileTogether Server のmacOS システムへの インストール23 とライセス30 につて説明します。

<u>macOS へのインストール28</u>

- システム必要条件²⁸
- <u>古いデジョンのAltova サーバ 製品のアンインストール</u>28
- MobileTogether Serverのインストール²⁸
- Altova LicenseServer²⁸
- LicenseServer \mathcal{O}
- トライアルライセス²⁸

macOS でのライセンス 30

- <u>LicenseServer</u>の開始³⁰
- MobileTogether Server の開始³⁰
- MobileTogether Serverの登録³⁰
- ライセンスの割り当て30

環境についてのメモ32

3.4.1 macOS へのインストール

MobileTogether Server のmacOS へのインストールは利用可能です。インストールとセナアップについては以下で説明されます。

- ▼ システム必要条件
 - ▼ <u>macOS</u>

macOS 10.13 おけお以降 Java for macOS (最新バージョン)

▼ Java for OS X のインストール

MobileTogether Server か動作するかはは、「Java for OS X」をインストールする必要があます。最新の、ジュンは (Java for OS X 2014-001) 以下で確認することができます: <u>http://support.apple.com/kb/DL1572</u>。 Apple にお提供 される Java for OS X の最新、ジュンは <u>Apple W eb サ小</u>で<u>Java for OS X を検索します</u>。(この Java version for OS X は Sun Microsystems にお提供される最新の、ジョンではない可能性がありますが、インストールに必要な、ジョン です)。

▼ Altova サーバー製品の古いビージョンのアンインストール

MobileTogether Server をインストールする前に、サービスを以下のコマイで停止します:: sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist

サービスが停止されたか確認するコま、アクティビティモニターターミナルを開き、MobileTogether Serverがリストレスにとを確認します。アプリケーションターミナルで、%APPNAME%>アイエンを右クリックし、「ごみ箱へ移動」を選択します。アプリケーションはごみ箱に移動されます。しかし、usrフォルダーからアプリケーションを削除しなければよりません。このためココお以下のコマンドを使用します。

sudo rm -rf /usr/local/Altova/MobileTogetherServer/

Altova LicenseServerの古いシンシンをアンインストールする場合、サービスとしての作動を停止しなければなりません。このためにはおい下のコマンドを使用します。

sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist

サービスが停止されたか確認するコよ、アクティビティモニターターミナルを開き、LicenseServer がノストレナル ことを確認します。 MobileTogether Server の説明と同じ手順でアンインストールします。

▼ ディスクイメージファイルのダウノロード

Altova Web サイトからディスクイメージファイル(.dmg)をダウンロードします(http://www.altova.com/ja/download.html)。

▼ MobileTogether Server のインストール

ダウンロードされナディスクイメージ(.dmg)をクリックして開きます。これによりMobileTogether Server インストーラーが使用中のコ ンピューター上で新規の仮想ドライブとして表示されます。新規の仮想ドライブ上で、インストーラー・ペケージ(.pkg)をダブルクリックし ます。インストーラーウィザードに従します。これらは、続行するナックに必要なライセンス使用許諾書への同意が必要なステップを含むす くじ3理解することのできるステップです。インストール後、ドライブを取り出すコは、右クリックして取り出しを選択します。

MobileTogether Server パッケージはフォルダー内にインストールされます /usr/local/Altova/MobileTogetherServer (アプケーションバイナル /var/Altova/MobileTogetherServer (データファイル・データベースとログ)

MobileTogether Server サー・デーモルがインストール後とマシンの再起動後に自動的に開始されます。次のコマンドを使用して MobileTogether Server をデーモンとして開始することができます。

sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist

MobileTogether Server サーバーデーモを開始した後、MobileTogether Server を構成するためこMobileTogether Server のWeb UI ページを開くことかできます。検索内のアプリケーションフォルダーゴ移動し、MobileTogether Server アイコン ダブルクトックして、Web UI ページを開きます。

Altova LicenseServer

MobileTogether Serverを含むAltova サーバー製品を作動するコよ、サーバー製品はネットワークでAltova LicenseServer を介して、ライセンズを与えられなければなりません。

macOS システムでは、Altova LicenseServer は個別にインストールされる必要があります。Altova Web サイト から Altova LicenseServer をダウンロードして、インストーラー・シケージをダブルクトックし、インストールを開始します。インストールを続行するためコよ 使用許諾契約書に合意する必要があります。

Altova LicenseServer をAltova Web サイトからダウロードし個別にインストールすることもできます (http://www.altova.com/ja/download.html)。

LicenseServer パッケージは以下のフォルダーにインストールされます: /usr/local/Altova/LicenseServer

MobileTogether Server を Altova LicenseServer に登録し、ライセンを供与するには macOS でのライセンス⁶⁰⁰のセクションを参照してくたさい。

LicenseServer バージョン

- Altova サーバー製品はインストールされた Mobile Together Server バージョン 適切な License Server のデジョン、おけよ License Server の最新のデジョンが密です。
- MobileTogether Server の特定の デションは適切な LicenseServer の デションがMobileTogether Serverの インストール中表示されます。
- LicenseServer の新しいデションをインストールする前に、古いデジョンはアンインストールされる必要があります。 LicenseServer インストーラーは古いデジョンを検出すると自動的に行います。
- LicenseServer バージョンは下位互換性があります。MobileTogether Server の全ての古い デョンと作動します。
- MobileTogether Server の新しい

 バージョンが適切な LicenseServer バージョン

 メージョンが適切な LicenseServer バージョン

 メージョンが適切な LicenseServer バージョン

 メージョン

 オートから利用可能な最新バージョンをインストール
- LicenseServerをアンインストールする際、古しい・・ジョンのLicenseServerのすべての登録とライセンス情報はサーバーマシーンのデータベースに保存されます。このデータは新しい、・・ジョンがインストールされる際、自動的に新しい、・・ジョンにインポートされます。
- 現在インストールされているLicenseServerのデジョン番号はLicenseServer構成ページ(全てのタブ)の下部に あます。

現在のバージョン: 3.5

3.4.2 macOS でのライセンス

MobileTogether Server は作動するためにAltova LicenseServer にライセスされている必要があります。ライセス供与は以下の2 つのステップから構成されています:

- 1. MobileTogether Server にLicenseServer を登録します。MobileTogether Server から登録することができます。
- 2. MobileTogether Server のライセンスを割り当てます。ローカルマシンませま、ネトワーク上のマシントにインストールされる必要のあるLicenseServer からライセンスを割り当てることができます。

実行するステップは以下に手短に説明されています。詳細は、Altova Web サイトのユーザーマニュアルを参照してくたさい。

▼ LicenseServer の開始

MobileTogether Server をLicenseServer に正しく登録しライセンス与えるけっかコま LicenseServer はネトワークのデー モノムて作動していなければなりません。以下のコマイで、LicenseServer をデーモノムて開始してくたさい sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist

LicenseServerを停止する必要がある場合、上記コマイのloadをunloadと置換えてけざい sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist

▼ MobileTogether Serverの開始

MobileTogether Server サーバーモルゲンストール後とマンの再起動後に自動的に開始されます。次のコマンドを使用して MobileTogether Server をデーモンと、て開始することができます。

sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist

MobileTogether Server を停止する必要がある場合、次を使用します: sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist MobileTogether Server をセオアップし構成する場合、次の方法を使用してWeb UI (Setup) ページを開きます:

- 検索のアプリケーションフォルダー内のMobileTogether Server 7.2 アイコンをダブルクトックします。
- ・ インターネットブラウザーのアドレスバー内のWeb UI ページにURL を入力します:
 http://<serverIPAddressOrName>:8085

<u>ファイアーウォールに関するメモ</u> ファイアーウォールによげポートアドレスカジロックされていないてとを確認してくたさい。

▼ MobileTogether Server の登録

コマボラインインターフェイスから MobileTogether Server を登録する場合、licenseserver コマボを使用します: sudo /usr/local/Altova/MobileTogetherServer/bin/MobileTogetherServer licenseserver [options] ServerName-Or-IP-Address

例えば localhost がLicenseServer のインストールされたサーバーの名前である場合: sudo /usr/local/Altova/MobileTogetherServer/bin/MobileTogetherServer licenseserver localhost

上記のコマイで、localhost がLicenseServer のインストールされたサーバーの名前です。MobileTogether Server 実行可能の場所を確認してくたさい

/usr/local/Altova/MobileTogetherServer/bin/

<u>MobileTogether ServerのW eb UI の設定タブ</u>333。原則: (i) ServiceController を介して MobileTogether Server を 開始します (前述のポイント参照)。(ii) パマワードを入力してセナアップページにアクセスします。(iii) LicenseServer の名前 まけよアドレスを選択して [LicenseServer により登録] をクトックします。

登録に成功した後、LicenseServer 構成ページのカライアント管理タブに移動して、MobileTogether Server ヘライセンを割り当てます。

▼ ライセスの割り当て

MobileTogether Server の登録に成功した後、LicenseServer の構成ページのカライアト管理タブロストされます。移動して MobileTogether Server にライセンを割り当てます。

Altova サードを製品へのライセスは製品マンで使用可能なプロセッサコアの数をベースしています。例えば、デュアルコアプロセッサはコアが2 つ、ケアド コアプロセッサはコアが4 つ、ヘキサコアプロセッサはコアが6 つ等々。特定のサードーマントの製品 にライセスされたコアの数は、物理ませば反想マンで、サードーで使用可能なコア数よりも多くませば同数である必要があります。例 えば、サードーが8 コズオケタルコアプロセッサの場合、少なくとも8-コアライセンを購入する必要があります。また、ライセスを合 計してコア数を満たすこともできます。2 つの4-コアライセンスは、8-コアライセンスの代わりにコケットーで使用できます。

大きいCPU コアを持つエピューターサーバーを使用し、少量を処理する場合、少ないコアを割り当てる仮想マンンを作成し、その数のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイは、もちろん、サーバーの全ての利用可能なコアか利用されている場合によれべ、処理スピードが落ちます。

メモ 各 Altova サーバー製品のライセンスは、使用されていないライセンス容量があっても、1度に1つのクライアトイマンメンだ いしか使用することができません。例えば10-コアライセンスが6 CPU コアのクライアトトマンメン使用される場合、残りの 4 コアライセンスは他のマンンで同時に使用することができません。

<u>Mobile Together Server ライセンス</u>

サーバーマンのコア数をベースして Mobile Together Servers に割り当てられます。上の例を参照してくたさい。上の説明を参照してくたさい。コアライセンスは、無制限の数量の Mobile Together クライアント デバイスによりサーバーへの接続を許可します。しか

しなから「単ースレイの実行」チェックボックスかチェックされていると、1度にしかしなから「単ースレイトの実行」チェックボックスが チェックされていると、1度にMobileTogether Server に接続できるモレイルデバイスは1台です。これは、評価と小さ、規模のテスト を行う際についてもます。

3.4.3 環境についてのメモ

フォルダー

以下がMobileTogether Server セオアップの重要なフォルダーのノストです。

<u> _1ンスト−ルル+</u>

/usr/local/Altova/MobileTogetherServer/

∃ <u>ライセンスファイル</u>

/var/Altova/MobileTogetherServer

□ <u>環境設定</u>

/Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist 環境設定ファイルは特定の環境に応じて定義してください。上記の例の、マは一般的なガイドとして使用してくたさい。 メモ これらの環境変数は、MobileTogether Serverとして定義されたファイルに存在しなくてはなりません。デフォルトではこのファイルは、次の通りです:

<u>ファイルシステムトリガーと トーミッション</u>

ファイルシステムトリガーカ実行されるコよ、Mobile Together Server サービス(altovamobiletogetherserver)を開始したユー ーザーカ次のトミッションを所有している必要がおます:

- トリガーされたフォルダーのための 読み取りと実行
- トリガーされたファイル 読み取り
- トリガーされたフォルダーの祖先フォルダー 読み取りと実行

ファイルベースのデータベース

(SQLite データベースなどの) ファイルベースのデータベースは、Mobile Together Server の設定タブで、サーバー側のノリューションの作 業ディレクトリ⁶³³ として定義されたファイルに存在しなくてはなりません。デフォルトではエのファイルは、次の通りです:

/var/Altova/MobileTogetherServer/SolutionFiles

データベースへの接続

MacOS 上では、以下のデータベース接続がサポートされています。

- JDBC Microsoft Access 以外のサポートされているすべてのデータベースにJDBC を使用することができます。
- ネイティブな接続 SQLite とPostgreSQL データベースのために使用することができます。

JDBC を使用する場合、以下の点に注意してくたさい

- Java Runtime Envioronment おけまSDK がインストールされる必要があります。
- ターゲオデータベースのためのJDBC-接続がインストールされる必要があります。
- 次の環境変数が環境のために正しく設定される必要があります。
 - o CLASSPATH: JDBC データベースへ接続する.jar ファイルを検索するコお以下を行います; .jar ファイルを以下として入 カすることができます(i) システムの起動時に実行される(jdbc.sh などの) 実行可能スクリプト、まけよ(ii) Mobile Together Server かサービスとして開始される際に実行されるユニットファイル。.jar ファイルを指定するオ・ダのユニット ファイルの使用は、Mobile Together Server のJDBC 接続のナッグコンタなファイルが既存のシステムの構成を変更するこ どなく使用できる利点があります。ユニットファイルは下にリストされています。
 - O PATH: JRE を検索します。しかし、インストールによっては必要のは、場合かあります。
 - o JAVA HOME: ヘノストールコ応じて必要な場合設定します。

重要なファイルのノスト

Plist ファイルは/Library/LaunchDaemons フォルダーニインストールされます。青で イライトされた環境固有であり、使用中の環境に合うよ調整されなければなりません

```
E Plist ファイル
```

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE plist PUBLIC "-//Apple//DTD PLIST 1.0//EN"
"http://www.apple.com/DTDs/PropertyList-1.0.dtd">
<plist version="1.0">
   <dict>
      <key>Label</key>
      <string>com.altova.MobileTogetherServer</string>
      <key>ProgramArguments</key>
      <array>
<string>/usr/local/Altova/MobileTogetherServer7.2/bin/MobileTogetherServer</string>
         <string>debug</string>
      </array>
      <key>KeepAlive</key>
      <true/>
      <key>UserName</key>
      <string> altovamobiletogetherserver</string>
      <kev>EnvironmentVariables</kev>
      <dict>
         <key>CLASSPATH</key>
<string
>/usr/local/jdbc/oracle/ojdbc6.jar:/usr/local/jdbc/oracle/xdb.jar:/usr/local/jdbc/ora
cle/xmlparserv2.jar:/usr/local/jdbc/postgre/postgresgl-9.0-
801.jdbc4.jar:/usr/local/jdbc/mssql/sqljdbc4.jar:/usr/local/jdbc/iseries/lib/jt400.ja
r:/usr/local/jdbc/mysql/mysql-connector-java-5.1.16-
bin.jar:/usr/local/jdbc/sqlite/sqlitejdbc-
v056.jar:/usr/local/jdbc/Informix JDBC Driver/lib/ifxjdbc.jar:/usr/local/jdbc/sybase/
jconn7/jconn4.jar:/usr/local/jdbc/db2/db2jcc.jar:/usr/local/jdbc/db2/db2jcc license c
u.jar:./</string>
      </dict>
```

```
</dict>
</plist>
```

4 サーバーの手順

このセクションは重要なサーイの手順について説明します。Mobile Together Serverに既にライセンスが供与されているのとします。 メモ しかし、Mobile Together Serverにアクセスするには、License ServerとMobile Together Serverの両方が開始され、サービスが作動していなければなりません。

- <u>Altova LicenseServer の開始</u>³⁵
- <u>MobileTogether Server</u>の開始³⁷
- <u>SSL 暗号化のセオアプ³⁹</u>
- 管理者とも イルクライアト ポト
- <u>ユーザ と</u>ロール⁴⁸
- 使用可能な特権⁵¹
- ファイアーウォールの構成⁶⁴
- ソリューションを使用する統計⁵⁵
- ケライアトの情報⁶⁰
- Mobile Together Serverのバックアップと復元の方法⁶¹

ビデオデモ

下のレクによりMobile Together Serverの構成方法を示す Altova Web サイト上のビデオとプログのポストに移動することができます。

- <u>Mobile Together Server のインストールと構成</u>. Mobile Together Server とAltova License Server をインストールし、Mobile Together Server を企業のファイアウォールの背景で作動する方法について説明しています。
- <u>Mobile Together Serverをネットワーク上で構成する方法</u>. Mobile Together Sever がネトワークの外部および内部の 両方から接続できるようにするためにポートをセットアップする方法について説明しています。
- <u>Altova ブログポスト</u>はMobileTogether Server をやトワーク内で構成する方法について説明しています。

4.1 Altova LicenseServer の開始

インストー」を実行する方法 Altova サード 製品(i) FlowForce Server; (ii) RaptorXML(+XBRL) Server; (iii) MobileTogether Server; (iv) MapForce Server; (v) StyleVision Serverのインストールを実行する場合、ネトワーク上の Altova LicenseServer によりインストー」がライセンスが供与されていなければなりません。接続されたMobileTogether Server のイ ンストールが実行されるためゴま、LicenseServer はサービスとして、常時作動している必要かあります。LicenseServer を停止すると、 すてべの接続されたMobileTogether Server インストールが停止されます。この状態が発生した場合、LicenseServer を再起動する 必要があります。そして、停止されたMobileTogether Server インストールを再起動します。

LicenseServer の開始および停止は以下の通りです:

Windows

システムトレイにあるAltova ServiceControllerからLicenseServerを開始することができます。

最初に「スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | Altova ServiceController] をクトックして Altova ServiceController を開始すると、システムトレイにアイエカ表示されます(ア部スクリーンショナ参照)。スタートアップ時に Altova ServiceController を作動する(Run Altova ServiceController at Startup)オテノョンを選択すると、Altova ServiceController はンステム起動時に開始され、以降システムトレイで使用可能といます。



LicenseServer を開始するコよシステムトレイのサービスエトローラー(ServiceController)アイエンをクリックします。ポップアッ プレナメニューのAltova LicenseServer をポイントして、(下部スクリーンショント参照)、LicenseServer サブメニューからサ ービスの開始(Start Service)を選択します。LicenseServer か既に作動している場合、「Start Service」オプションか無 効化されます。

LicenseServer を停止するコよ LicenseServer サブメニューから「サービスの停止」(Stop Service) を選択します(上 部スクリーンショント参照)。

Linux

LicenseServerをLinuxシステムでサービスとして開始する場合、ターミナルウイドウで以下のコマンドを実行します:

sudo systemctl start licenseserver

(LicenseServerを停止する場合、上記コマイで startをstop に置換えてください。)

macOS

LicenseServer をmacOS システムでサービスとて開始する場合、ターミナルウイドウで以下のコマドを実行します: sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist

LicenseServer を停止する必要がある場合、以下を使用してけ込い sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist
4.2 MobileTogether Server の開始

MobileTogether Server を作動するコよ、MobileTogether Server をサービスとして開始する必要があります。更に、 MobileTogether Server のW eb UI を使用する場合、W eb UI もサービスとして開始されなければなりません。手順は以下の通りです。

Windows

システムトレイにある Altova Service Controller から Mobile Together Server を開始します。

最初に「スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | Altova ServiceController] をクトックして Altova ServiceController を開始すると、システムトレイにアイエカ表示されます(ア部スクリーンショナ参照)。スタートアップ時に Altova ServiceController を作動する(Run Altova ServiceController at Startup) オプノョンを選択すると、Altova ServiceController はンステム起動時に開始され、以降システムトレイで使用可能とひます。

٢	Altova FlowForce Server	·		
۲	Altova FlowForce Web	L		
A	Altova LicenseServer			Configure
Ð	Altova MobileTogether Server	·Г	I	Start service
2	Altova RaptorXML+XBRL Server		1	Stop service
	Exit Altova ServiceController			
Run Altova ServiceController at startup				
E	🗏 🔺 🚔 🐑 🕼 11:00 AM			

MobileTogether Server を開始するコよシステムトレイのサービスコトローラ(ServiceController)アイコンをクリックします。 ポップアップしたメニューのMobileTogether Server をポイントして、(*下部スクリーンショル参照*)、MobileTogether Server サブメニューからサービスの開始(Start Service)を選択します。MobileTogether Server か既に作動している場合、*Start Service* オプションは無効化されます。

MobileTogether Server を停止するコよ、MobileTogether Server サブメニューから「サービスの停止」(Stop Service) を選択します(*上部スクリーンショント参照*)。

Linux

MobileTogether Server をLinux システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウイドウで以下のコマイを実行します:

sudo systemctl start mobiletogetherserver

(Mobile Together Server を停止する場合、上記コマイで start をstop に置換えてください。)

macOS

MobileTogether Server をmacOS システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウイドウで以下のコマドを実行します:

sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist

MobileTogether Server を停止する場合以下を使用します: sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist

メモ Mobile Together Server にライセンスが割り当てられていない場合、then Mobile Together Server は起動後24時間後に自動的にシャナダウンされます。このようなシャナダウンの後、上記で説明される通りにMobile Together Server を再起動します。Mobile Together Server のライセンスの供与後、24時間後に自動的にシャナダウンされることはありません。

4.3 SSL 暗号化のセットアップ

Mobile Together Server と Mobile Together Client デバイスの通信が暗号化された SSL プロトコールの使用を必要とする場合、以下の手順が必要です:

- SSL秘密キーを生成し、SSL公開キー証明書ファイルを作成する。
- SSL 通信のため Mobile Together Server をセナアップする。

手順は以下に説明されています。

Mobile Together はオープンノースの OpenSSL toolkit を使用して、SSL 暗号化を管理します。したかって、 OpenSSL が利用可能なエピュータで以下のステップは実行される必要が決ます。 OpenSSL は通常、 Linux とmacOS エピューターでは既にインストー ルされています。 おこ、<u>Windows で動作するコピューターにインストール</u>することができます。 バイナルのインストーラーのダウムロードのレク 「 理しては <u>OpenSSL Wiki</u> を参照してくたさい。

1. 秘密キーの生成

SSL MobileTogether Server に秘密キーがインストールされることを必須とます。この秘密キーは、MobileTogether Client アプレト送信されるすべてのデータを暗号化するために使用されます。秘密キーを作成するには、以下のOpenSSLコ マイドを使用します:

openssl genrsa -out <mark>private.key</mark> 2048

これによりprivate.key とら、秘密キーを含むファイルが作成されます。ファイルの保存場所をメモレてくたさい。秘密キーは以下で必要です(i)証明書署名要求(CSR)の生成、および(ii)MobileTogether Server ヘインストールする際以下ステップ8参照。

2. 証明書の署名要求 (CSR)

証明書署名要求(CSR)は<u>VeriSign</u> おされ<u>Thawte</u>などの証明機関(CA)に送信されます。CSR は秘密キーに基 っき、組織の情報を含みます。以下のDpenSSL コマナ(ステップ1 でパラメータの1 つとして作成された秘密キーファイル) の手順を踏んで CSR を作成します:

openssl req -new -nodes -key private.key -out my.csr

CSR の生成中、以下にリストされる所属組織の情報を提供する必要があります。この情報は企業のアイデンティティーを検証するために使用されます。

- 国名
- *地域*(ビジネスが位置する都市)
- 組織(企業名)。特殊文字を使用しないでくたさい、証明書が無効しています。
- 共通名(サーバーのDNS 名)。サーバーの公式名、つまりライアントアプルサーバーは接続する際使用する DNS 名、と一致する必要かあります。
- チャレンジノペワード。このエトリは空白してくたさい!
- 3. SSL 証明書の購入

SSL 証明書は<u>VeriSign</u> ませま<u>Thawte</u> などの認識された証明機関(CA)から購入してくたさい。ここからの手順に関しては、VeriSign 手順に従ってくたさい。他の証明機関での手順も類似しています。

- <u>VeriSign Web サイト</u>に移動します。
- SSL 証明書の購入をクルクします。

- 異なる種類のSSL 証明書が使用可能です。MobileTogether Server はよSecure Site おはSecure Site おけまSecure Site Pro 証明書で十分です。拡張検証(EV)は、ユーザーが閲覧できる「緑のパドレスドー」が存在しないための要ありません。
- 署名手続きの手順に従い、注文に必要な情報を入力してくたさい。
- (ステップ2 で作成された) CSR がプロンプトされた場合、my.csr ファイルのエンテトを主文フォームニピーして貼り付けてくたい。
- クジャカードで証明書の支払をしてくたさい。

証明書の取得には時間がかめる場合があります

キー証明書をSSL 証明機関(CA)から取得するコよ、通常 2~3営業日 かかります。 Mobile Together Server セオアップの際この点に留意してくたさい。

4. 証明機関からの再帰的公開キー

証明機関は2~3営業日で登録プロセスを完了します。この間、電子メールおける電話でDNSドメインでSSL証明書をリケエストする許可かあるかの認証が行われます。このプロセスを完了するために関連機関に協力してくたさい。

認証と登録プロセスが完了すると、SSL 証明書の公開キーを含む電子メールが送信されます。公開キーは書式なしテキスト フォームませは添付された。cer ファイル で送信されます。

5. 公開キーをファイルに保存する

MobileTogether Server との使用の場合、公開キーは.cer ファイルで保存される必要がおます。公開キーかテキストで提供された場合、以下の範囲の全てのラインをコピーして

--BEGIN CERTIFICATE--... --END CERTIFICATE--

mycertificate.cer と呼ばれるテキストファイルは貼り付けてくたさい。

6. CA の中間証明書をファイルに保存する

SSL 証明書を完了するコよ、追加証明書が必要になります: プライマリとセカンダリ中間証明書。証明機関(CA)はWebサイトに中間証明書をリストしています。

- Verisign の中間証明書: <u>https://knowledge.verisign.com/support/ssl-certificates-support/index?</u> page=content&id=AR657&actp=LIST&viewlocale=en_US_
- Verisign のSecure Site 製品の中間証明書: <u>https://knowledge.verisign.com/support/ssl-</u> certificates-support/index?page=content&id=AR1735

両方のプライマルとセカンダル中間証明書をコピーして貼い付け、使用するコンピューターに個別のテキストファイルとして保存します。

7. 1 つの公開キー証明書ファイルに証明書をまとめる

3 つの証明書ファイル

- 公開キー(mycertificate.cer)
- センダー
 センダー

プライマー中間証明書

各証明書は以下のような括弧のユオンラインのテキストブロックを含みます

--BEGIN CERTIFICATE--

```
--END CERTIFICATE--
```

- 3 つすべての証明書を1 つのファイルコ順番にコピーして貼り付けます。シーケンスの順番は重要です:(i)公開キー、(ii)セカンダノ中間証明書、(iii)プライマノ中間証明書。証明書同士の間にラインが無いよう注意してください。
 - --BEGIN CERTIFICATE--公開キーfrom mycertificate.cer (ステップ5 参照) --END CERTIFICATE-- *セカンダリ中間証明書(ステップ6 参照*) --END CERTIFICATE----BEGIN CERTIFICATE-- *プライマリ中間証明書(ステップ6 参照*) --END CERTIFICATE--

結合された証明書テキストにpublickey.cer とらファイル名を与えます。これがSSL 証明書の公開キー証明書ファイル です。このファイルは、CA によぼ証明書を証明する際に使用された公開キー証明書と中間証明書の書式の完全な信頼チェー ンを含みます。公開キーファイルは秘密キーと共にMobileTogether Server にインストールされます。(ステップ8参照)。

8. MobileTogether ServerにSSL証明書をインストールする

SSL 証明書は、以下のファイルに保存された証明書のセナです:

- private.key: 秘密キー証明書を含みます
- publickey.cer: 公開キー証明書おしい証明機関の(プライマルとセカンダ))証明書を含みます。

MobileTogether Server ISSL 証明書をインストールするコよ 以下の手順に従います:

- MobileTogether Server UI (エグインます(デフォ)ルではサーバーのポト 8085)。
- 設定タブン移動します。
- SSL 証明書 (下部スクリーンショナ 参照) から2 つび証明書ファイルをアップロードします。

SSL証明書:
セキュリティ保護付き (SSL) 通信に必要な秘密キーと証明書を選択してください. セキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを使用するため有効な秘密キーと証明書が必要です. 秘密キー/証明書は PEM フォーマットでなければなりません.
秘密丰一:
参照 ファイルが選択されていません。
証明書:
参照 ファイルが選択されていません。
第三者パーティ Let's Encrypt サービスを使用して安全な (SSL) 通信に必要な自動的に無料の証明書を取 得することができます。 Encrypt サービスを使用するには、HTTP ポート 80 を使用する必要があります。
Let's Encrypt 証明書

- の秘密キーゴズステップ1 で作成済み) private.key を選択します。
 の証明書にズステップ1 で作成済み publickey.cer を選択します。
- 一般設定セクション下部にある「保存」をクリックして変更を保存します。
- 9. サーバーのHTTPS ポートを設定する

SSL証明書をインストールた後、SSL クライアント通信のサーバーポートを指定することができます。以下の手順を踏みます:

- MobileTogether Server UI コングインします(デンオルトでは サーバーのポート 8085 使用)。
- 設定ダブン移動します。
- もイルクライアナポー(下部スクリーンショナ参照)でHTTPSポートが指定できます。

モバイル クライアント ポート:	
モバイル クライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) てください. これらのポートは管理のために使用できません!	とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択し
✓ HTTP バインドアドレスを有効化する	
● 全てのインターフェイス~ ○	ポート: 8082 😫
HTTPS バインドアドレスを有効化する	
● 全てのインターフェイス ○	ポート: 8084 🚖
✓ 匿名で自動的にログイン □ カスタム化されたログインとインデックスページを使用	
🗌 /mt-login を使用して MobileTogether のログインを許可する	

HTTPS からMobileTogether Server ヘアクセスできるようこファイアウォールの設定を許可してください。

10. SSL 通信のテスト

SSL テストツールを使用して、HTTPS を介したサーバーからの安全な通信が作動しているかテストしてくたさい。例えば、プラウザーを使用する場合、以下のSSL テストサイトを使用することができます: https://ssitools.websecurity.symantec.com/checker/views/certCheck.jsp

これにより以下か把握できます:(i)公開キーファイルが適切にステップ7の中間信頼チェーシと共に構築されているか、および (ii)サーバーが適切にファイアウォーリを介して接続できるか。

11. MobileTogether ClientのSSL の使用を有効化する

SSL-有効化された-MobileTogether Server と通信する MobileTogether Client アプレでは SSL 暗号化 チェックボックスをチェックすることで SSL 通信が有効となります。 このチェックボックスを検索する コよ MobileTogether Client ドキュメンテーションを参照してください。

4.4 管理者とモバイル クライアントポートの設定

管理者ポートはMobile Together ServerのWeb UI は接続するために使用されますが、モビイルクライアントポートはモビイルデバイスがMobile Together Serverのサービスは接続するために使用されます。

管理者ポートの設定

管理者ポートは以下の目的のためこアクセスを提供します

- サー、ーのWeb UI に接続して、ユーザーとロール22などの設定などの管理機能を実行します。
- Mobile Together デザインを(Mobile Together ソリューションとして) サーイにデプロイレます。Mobile Together Designer はデザインをデプロイするためのMobile Together Server のアドレスとポートを指定する設定があります。

管理者ポート:		
管理者が使用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュ	リティ保護付き (HTTPS) ポートを選択してくださ	
サーバー構成、ユーザー、ロール、ユーザーライセンスの フローのシミュレーションのためにこれらのポートを使用)管理、ワークフローのデプロイ、およびワーク することができます。	
✓ HTTPS バインドアドレスの有効化		
● 全てのインターフェイス~ ○	ポート: 8085 单	
✓ HTTPS バインドアドレスの有効化		
● 全てのインターフェイス→ 〇	ポート: 8086 😫	
ホスト名:		
Altova ServiceController から管理者ページを開く際にホスト名を指定してください。これにより、URL に証 明書が一致しない際に表示されるブラウザー警告を回避することができます。		

HTTP ポートはセキューティ保護なしポート; HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用するコはSSL 暗号化 33 をセルアップする 必要があります。HTTPS ポートを設定し、URL に一致しないSSL 証明書に関する警告を回避するコよ MobileTogether Server 構成ページが開かれるコンピューターのホスト名を指定します。

サーバーが特定のIP プドレス、おけよ、全てのインターフェイスとIP プドレスを使用するかを指定することができます。単一のIP プドレスが使用される場合、デジオポタンの2番目のフィールドに入力してください。

もイルクライアノトポートの設定

サイドー接続するかなモレドルデバスの使用するポト。HTTPポトはセキュレティ保護なしポト。HTTPSは保護付きポトです。 HTTPSを使用するコはSSL暗号化 きをセオアップする必要があります。サイドーが特定のIPアドレス、おけよ、全てのインターフェイスとIPアドレスを使用するかを指定することができます。単一のIPアドレスか使用される場合、デジオボタンの2番目のフィールドに入力してく がさい。



<u> 匿名として自動的にログインする</u>

選択された場合、ケライアトに自動的にanonymous²¹とてログインされます。ログインページがタキップされると、サーバーの最初のページが直接表示されます。最初のページおレトフォルダーを表示する基準のページ、おけは定義されたカスタムページを表示します、次の点参照)。このオプションが選択されていない場合、ケライアトは適切な資格情報必要とするデフォルトのログインページからログインます。もし、匿名のログインが選択されている場合、対応する特権²¹をanonymous²¹のために設定してくたさい。

ユーザーによりカスタム化されたログインとインデックスページ

カスタム化されナニウインページと最初のページが使用される場合このオプタンを選択します。これにより、自身のエトリポイトをクライアトのナッパニデザインすることができます。カスタム化されナページを以下のようにセットアップします

- 1. 2つのHTML ページを作成します。それぞれ login.html とindex.html 名前をつけます。
- 2. MobileTogether Server アプリケーションデータフォルダー内にある、インデックス フォルダーゴイルシンクのファイルを保存します(アのテーブル参照)。イメージファイルとCSS ファイルなどの追加ファイルは、インデックス、フォルダーのサブフォルダーご保存 することがはいてしょう(例えば、static と呼ばれる仮定しましょう)。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サンプルログインページとサンプルの最初(index)のページのコードのリストは以下に表示されています。リストは、基本的かつ変更する事が可能です。

```
<title>Customized Login</title>
  </head>
  <body>
   <div>
     <h1>Sign in</h1>
     A bare-basics custom page for client logins to MobileTogether Server.
Modify this page as required, and use the Static sub-folder to save CSS
stylesheets, images, etc.
     <form method="post" action="/do login" name="loginform">
       <!-- The user to login -->
         >
           <label for="username">Username:</label>
          <input type="text" name="username" id="username" size="30"/>
           <!-- The password of the user -->
         >
          <label for="password">Password:</label>
          <input type="password" name="password" id="password" size="30"/>
          <!-- The Active Directory domain details -->
       <h2>Active Directory Login:</h2>
       >
          <label for="providernameprefix">Domain prefix:</label>
           <input type="text" name="providernameprefix"</pre>
id="providernameprefix" value=""/>
          <label for="providernamesuffix">Domain suffix:</label>
           <input type="text" name="providernamesuffix"</pre>
id="providernamesuffix" value=""/>
          <!-- The Sign-In button -->
       <input type="submit" value="Sign in"/>
       <!-- The page to redirect to after a successful login. -->
       <input type="hidden" name="from page" value="/index"/>
     </form>
   </div>
  </body>
</html>
```

```
index.html
<html>
```

```
<ntml>
<head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
    <title>Custom Index</title>
</head>
<body>
    <img alt="Logo" src="/index/static/logo.png"></img>
    <hr/>
    <a href="/do_logout">Logout</a>
    <hl>MobileTogether Custom Login</hl>
    <a href='/run?d=/public/About'>Start the About app</a>
    <a href='/run?d=/public/DateCalc'>Start the Date Calculator app</a>
    <a href='/run?d=/public/WorldPopulation'>Start the World Population
```

メモ ユーザーがドメインユーザーの場合、ログインの資格情報は以下のような書式になります:domainPrefix@domainSuffix。 例:ドメインユーザがsomeUserName@somedomain.altova.comの場合、ドメインプルフィックスはsomeUserNameでドメインサ フィックスは@somedomain.altova.comです。

/mt-login を使用してログインすることを許可する

このオプションは、ログインが、カスタム化されオニログインとインデックスページを使用せずに、デフォルトのログインページと最初のページを使用して 行われることを指定します。このオプションにより、login.html とindex.html ファイルを保存先に保管しつへ、デフォルトページを使用 することができます。ケライアントませまプラウザー設定は、この設定の効果を有効にするセックに、プラウザーのキャッシュを削除することを必要と するかもしれないてとて注意してください。

4.5 ユーザーとロール

ユーザーアカウトはログイン名とパワードで定義され、関連したアクセスの権利を持ちます。ユーザーは Mobile Together Server に管理のためにませるケライアントのエンドユーザーとしてアクセスします。

アクセスの権利はユーザに与えられた特権により決められます。ユーザイは以下の方法で特権を得ることができます:(i) ユーザーがシンドーで あるロールから継承された特権、(ii) ユーザイニ直接割り当てられた特権。ロールは特権のセナから定義されています。ロールは特権を直 接割り当てられるか、メンバーである他のロールから継承されます。特権は多種のMobile Together Server 管理機能およびサービスにア クセスする権利です。特権の例: サーバー設定の管理、ユーザーの マワード設定、サーバーでのシミュレーションの実行。

ロールの使用により、ユーザー特権は階層的に定義されます。例えば、SimpleAdminのロールはサーバー設定の管理の特権を許可で きます。AdvancedAdminがSimpleAdminのメンバーの場合、サーイ設定の管理を継承し、追加的にユーザーの管理、ロールと特権などの特権を割り当てることができます。階層的なチェーンは更に展開できます。特権のリストに関しては使用可能な特権⁽⁵¹⁾を参照して ください。

▼ ユーザー 撰して

ユーザーは名前とマワードの組み合わせことに定義されます。Mobile Together Server のユーザーアクセスコは2 つの方法があります:

- Web UI アクセス·Web UI はMobileTogether Server の管理インターフェイスです。Web UI にエグオンすること 名前と マワードの組み合わせが必要です。このため、ユーザーとして実行されます。
- サービス インターフェイズ HTTP サービスインターフェイスにより、 Mobile Together Server のサービス 通常モッドルデ バイスの Mobile Together Client アプリ、か公開されます。ユーザーは 名前と ペワードを使用してサービスインターフェイ スにアクセスします。公開されるサービスは通常Mobile Together のノリューションと関連したデータへのアクセスです。

2 つの特別なユーザーは定義済みです:

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユー ザーの追加やロールの設定を行うことができます。 このユーザーの最初の名前と タワードは root-root です。 パタワードは地時変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウトで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスにアクセス します。このユーザーは、最初の・ペワードがなりナウストップレベルのWeb UI はコロウインすることができま せん。

▼ 特権に関して

特権はコーザーが実行を許可されたアクティビティです。 MobileTogether Server 特権はコよ定数があり、ゆーざーゴよゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーゴ直接特権を割り当てるより、ローリの川ご特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーゴ直接特権を割り当てるより、ローリの川ご特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。 か推奨されます、以下のセクション参照)。特権とローリの割り当ては最初にこの特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。 最初はユーザーがこの特権を有します。

以下のスクレーシンコットにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権

□ ユーザー、ロール、特権の管理 ✓ セキュリティの制限を無視 ☑ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。) ✓フィルター処理なしのログの表示 ☑ 概要のキャッシュの表示 □ ユーザーライセンス概要の表示 □ユーザーとロールの読み取り ✓ サーバー設定の管理 □ワークフローのトレース ("ファイルヘログ" オプションが有効化されている場合,ファイルへ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する) ☑ 統計の読み取り (サーバーの統計の読み取りを有効化します) ✓データベース構造の読み取り ☑グローバルリソースの読み取り ☑グローバルリソースの書き込み ✓デザイナーからワークフローを開く ✓デザイナーからのワークフローの保存 ☑ サーバー シミュレーションの実行

タブ<u>ユーザーとロール/レポート/特権レポート⁸³ですべての</u>特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユー ザー/ロールと共にリストされています。

▼ ロールは関して

ロールは特権のセナです。ロールは他のロールおけはユーザー「書い当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールはけよ そのロールを書い当てられたユーザーに与えられます。ユーザーゴはくつでもロールを書い当てることができます。その結果、ユーザーは、 割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです

- authenticated はanonymous 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前と マワードを 持つユーザーゴはauthenticated ロールは割り当てられます。
- all はanonymous を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- workflow-designer はMobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザー(書)り当てられます。
 このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、おとサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- workflow-user はモンドルデンドイスでフークフローを実行しているユーザーは、リーンドーンコンを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- admin は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用か想定されています。

4.6 使用可能な特権

特権は多種のMobileTogether Server 管理機能およびサービスにアクセスする権利です。ユーザーがWeb UI おけよサービスインター フェイスを介して)MobileTogether Server にログインすると、ユーザのアクセス権利がユーザーの特権によって決められます。特権はユーザ ーニ直接的にまけは<u>ユーザーとロール</u>プロシタブのロールを介して割り当てられます。

特権

☑ ユーザー、ロール、特権の管理

☑ セキュリティの制限を無視

☑ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する(アプリケーション開始時に認証を必要としない。)

✓ フィルター処理なしのログの表示

☑ 概要のキャッシュの表示

✓ ユーザーライセンス概要の表示

☑ユーザーとロールの読み取り

☑ サーバー設定の管理

□ワークフローのトレース (*"ファイルへログ"オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する*)

☑ 統計の読み取り (サーバーの統計の読み取りを有効化します)

✓データベース構造の読み取り

☑グローバルリソースの読み取り

☑グローバルリソースの書き込み

☑ デザイナーからワークフローを開く

☑ デザイナーからのワークフローの保存

☑ サーバー シミュレーションの実行

使用可能な特権については下で説明されています。

□ <u>ユーザー、ロール、特権の管理</u>

この特権を有するユーザーは、ユーザーとロール、特権の割り当て、パスワードの作成、削除、および編集することができます。これは管理特権でMobileTogetherの管理者のみに割り当てられます。デフォルトでは、ユーザー "root"のみかごの特権を持ちます。

∃ <u>ノ ���</u>≁の設定

この特権を持つユーザーは自身の ペワードを変更できます。この特権を持たないユーザーの ペワードはMobile Together 管理者 か設定します。デフォルト では、 "認証された" ローリと、したがって、 "anonymous" 以外のすべてのユーザーアカウト かごの特権を 持ちます。

□ <u>セキュリティの上書き</u>

(C) 2020 Altova GmbH

この特権を持つユーザーは、セキュリティー書き込み、パーミッションを必要とせず、コンテナーの階層内のパーミッションを変更することができます。これにより、MobileTogether 管理者は間違ってアクセス不可のユーザーに与えられてしまオミリノースを取り戻すことができます。これは管理特権でMobileTogether の管理者のみに割り当てられます。デフォリトでは、rootのみがこの特権を有しています。

□ クライアントに保存されたい なワードの使用の許可

ユーザーにクライアントに保存されたいなワードを使用することを許可します。ユーザは認証が必要ありません。

■ フィルター処理無しのログの表示

デフォルトでは、ユーザーば、読み込み、アクセスのある構成に関連するログエトリのみを確認することができます。この特権を与えると、 ユーザーは、特定の構成に関連しないすべてのログエトリを閲覧することができます。デフォルトでは、rootのみかごの特権を有して します。

□ <u>++ッシュ概要のビュー</u>

ユーザーにサーバーでのキャッシュの概要の閲覧を許可します。

---ザーライセンスのビュー

ユーザーにサーバーでのライセンスの概要の閲覧を許可します。

□ <u>ユ</u>─ザ─と□─ルの読み取り

デフォルトでは、ユーザーは、自身のユーザーアカウトとメンバーであるロールのみを閲覧することができます。この特権を与えるとユーザーーは、全ての定義済みのユーザーとコールを閲覧することができます。デフォルトでは、rootのみかこの特権を有しています。

□ サーバー設定の管理

ユーザーにサーバーの設定⁹³³の編集を許可します。

ロググループの設定ダイアログボックスの「ファイルディレクトリへのログ」オプションが有効化されている場合、ファイルへログする詳細付き ワークフローを許可します。

□ <u>統計の読み取り</u>

サー、・の統計は、内部データベースでトラックされており、statistics.mtd ソリューションを開くことには、読み取ることができます。この特権によりユーザーはサーバーの統計の読み取りを許可されます。統計がトラックされる期間をゼロではよい、数字に設定する⁹³³ことによりにの機能を有効化します。詳細に関しては統計設定の説明⁹³³を参照してくたさい。

■ データベース構造の読み取り

サーバー上のデータベースへの読み取り/書き込みアクセスをユーザーに許可します(管理者ポートとサーバー設定の管理を介してサー バーニアクセスする特権が与えられていることが前提で、書き込みアクセスは明示的にないます)。この特権が与えられていない場合<u>サ</u> <u>ーバー側のDB 接続⁹³³</u>は表示されません。

□ <u>グロー/ ヾレノソースの読み込み</u>

この特権を持つユーザーにサーバーからグローバリリノースエイリアス人構成の読み込みを許可します。

<u>グロー/ ジレノノースへの書き込み</u>

この特権を持つユーザーにサーバーからグローバリリノースエイリアス、構成に書き込み、保存することを許可します。

□ <u>デザイナーからワークフローを開く</u>

ユーザーにMobileTogether デザインファイルをサーバーから開くことを許可します。ホストログイン詳細はメニューオプション「ファイル| MobileTogether サーバーから開く」を選択します。

■ <u>デザイナーカらワークフローを保存する</u>

ユーザーにMobileTogether デザインファイルをサーバーへ保存/デプロイすることを許可します。ホストログイン詳細はメニューオプション「ファイル| MobileTogether サーバー(ニデプロイする」を選択します。

サーバーシミュレーションの実行

この特権を持つユーザーはブラウザーからシミュレーションを実行し、結果をパビュー)することができます。ブラウザーを戻すことによりエンテナービューイニ戻ることができます。

4.7 ファイアーウォールの構成

サーバーIP アドレスとやオワークファイアーウォールの設定

使用中のサードは(イクーネトを介してアクセスすることのできる)公開されたIP アドレス およびがおけよ(例えば、企業内ネトワーク内のW iFi など、プライベートのネトワーク内でアクセスすることのできる) プライベートのIP アドレスを持つことができます。もし、モーバイルクライア・トデッドイスがインターネットにサードーのプライベートのIP アドレスを使用して、アクセスした場合、アクセスようまし、きません。これは、プライベートのIP アドレスは、インターネット上では知られておらず、解決することができなしからです。 クライア・トデッドイスが、プライベートのIP アドレスを使用する場合、 クライア・トデッドイスはプライベートネットワークへのアクセスを既に取得している必要があります。

サーバーへのアクセスを確実にするために、以下を行ってくたさい

- インターネットを介してアクセスできるように、サーバーご公開されたIP アドレスを与えます。クライア・トデバスでは、この公開 されたIP アドレスを使用してサーバーニアクセスします。
- ファイアーウォーリを使用しており、Mobile Together Server をサーバーコプライベート IP アドレスを使用して、プライベートのネットワーク内にコークストーリレする場合、ネットワークのファイアーウォーリを使用して、公開されたIP アドレスポートの組み合わせに送信されたリクエストを使用中のMobile Together Server サーバーゴ転送します。クライアントデバイスでは、公開されたIP アドレスを使用してくたさい。

Mobile Together Client 通信のかり 使用されるサード・ポートが使用されてサードーへのアクセスか許可されるよう ニアイアーウォール 構成されていることを確認してください。Mobile Together Server で使用されるポートは、Mobile Together Server のWeb UIの設定ページで指定することができます。(*Mobile Together Serverユーザーマニュアルを参照してください*)。 クライア・トデバイスでは、これはアクセスするサーバーポートとして指定されている必要があります。

ヒント: ポート 80 はデフォルトで通常ほとんどのファイアーウォールに交して開かれています。ですから、ファイアーウォールの設定で問題 かあり、ポート 80 が他のサービスコンドインドされていない場合、ポート 80 をクライアートとの通信用のMobile Together Server ポ ートとして指定することができます。

4.8 ソリューションを使用する統計

ソリューションを使用する統計はデフォルトで /admin コンテナー内にある Statistics ソリューションで確認することができます。 Statistics ソリューションは、ユーザーにより選択された期間の個々のノリューションについての統計を表示します。ユーザーの数、デバイス まけよオペレーションシステムの種類、ピークタイムの使用状況など多種のフィルターを使用することができます。

下のスクレーンショナはStatistics ソレーションの紹介ページを表示しています。

o 戻 る	はじめに	送 信
	MobileTogether 統計	
MobileTogether 統計アプリにようこそ このアプリは統計の使用方法と MobileTogether Server 上でアプリを作動するための他のデータを提供します。各アプ リの実例の的確な使用方法を把握することができます。		
アプリは与えられたフレーム内でユーザー、デバイス、アプリの開始、サーバーリク エストなどの数量を統計やチャートで表示します。 段階的なフィルターによりオペ レーティングシステム、アプリの種類、特定の期間ごとに統計を確認することができ ます。		
■ このイントロを今後表示しない		
次のページ		

統計ソリューション、セトアプ

MobileTogether Server バージョン4.0 以降からstatistics ソリューションはMobileTogether Server にデプロイ済みでノリューションは /admin コンテナービニ存在します。statistics ソリューションは レポートを向上するためご定期的に更新されます。 ソリューションの最新のバージョンの機能を活用するために Statistics ソリューションの最新のバージョンにで載することが奨励されます。

使(4.0 よりたい デジョンであるかが) 用中の デジョンが Statistics ソリューションをデプロイしていない場合、おけよ ソリューションの最新/デジョンに更新する場合は、以下を行います:

- 1. 最新の デション(現在は7.2)にMobileTogether Server ソストウェアにを更新します。
- 2. URL: http://<serverIPAddressOrName>:8085/ を入力して、Web ブラウザーからMobileTogether Server 管理者 <u>クターフェイス</u>⁶⁴ にアクセスします。
- 3. ログイン情報を入力し、ワークフロータブ⁶⁶⁰に移動します。
- 4. 「コンテナーの作成」、をクリックして、コンテナー名として admin を入力し、「保存して移動する」をクリックします。

- 5. MobileTogether Designer 内で、Statistics.mtd ファイルを開きます。このファイルはMobileTogether Server AppData フォルダーのハリューション フォルダー内にあります(アのテーブル参照)。
- 6. ファイル Statistics.mtd が Mobile Together Designer 内で開かれると、 Mobile Together Server の/admin コ ンテナー(ニデプロイします。 Mobile Together Designer のメニューコマナド「ファイル | Mobile Together Server にデプロ イする」を使用して行います。
- 7. MobileTogether Server 管理者インターフェイス⁶⁴内で設定⁶³タブニ移動し <u>その他のタブの統計ペイン⁶⁰⁸内で統計の</u> 制限を正の整数に設定し統計データのトランキングを有効化します。
- ソリューション統計を今後確認するは、Statistics ソリューションを開始し以下を行います:以下の手順を行ってけたい、 MobileTogether Server 管理者インターフェイス内で、設定 タブに移動し、統計ペイン内で、set 統計の制限 を正の整数 に設定し、統計データのトランキングを有効化します。ませは、以下のURL を入力します: http://<serverIPAddressOrName>:8085/run?d=/admin/Statistics/。
- メモ Statistics ソリューションを希望するコンテナーにデプロイすることができます。ソリューションを実行するコよ 正確なコンテナーに 移動するためにノリューションのURLを変更します。

<u> 異なるオペレーティングシステム上でのMobileTogether Server AppData フォルダーのロケーション</u>

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Мас	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

統計ソリューション:詳細

Statistics ソリューション インターフェイス(アのスクリーンション)はつのタブから構成されています。

- ユザ/デバスルクエスト
- 時間別の使用状況
- OS/製造元/プラオフォーム/デバイスの種類

アクティブなタブが赤い色で表示されます(スクリーンショント参照)。



各タブコよ 2つまけ」おつのフィルターが存在します。各タブ内のフィルターの1つは、常にンリューションフィルターです。これにより、サーバーに デプロイされている全てのノリューションから単一のノリューションを選択することができます。他のフィルターにより表示する統計のカテゴルを選択 することができます。統計か表示される間隔の時刻を選択することができます。

<u>ユーザー/デバイス/リクエスト</u>

プラオフォームは異なる色にとは表示されています(*上のスクレーンショナを参照)。すべてのプラオフォームを表示のチェックを*解除する と、プラオ・フォームフィルターを使用して表示するプラオ・フォーム(iOS、Android、Web、Windows、およびWindows Phone)を選 択することができます。 レポーチ フィルター内で、以下から選択することができます:

- *ユーザー* ユーザーの数量。
- デバイズ・デバイスの数量。
- リクエストのカウト:リクエストの数量。
- リケエストの合計時間(秒): リケエストを処理するために使用された合計時間(秒)。
- リクエストの平均時間(ミリ秋):単一のリクエストを処理するための平均時間(ミリ秋)。
- リクエストの最大時間(ミル):処理に最も長くかかオミノクエストの処理時間(ミル)。
- 開始するソリューション、プラオフォーム別に整理された開始するソリューション。
- 受信トラフィック(MB): MT クライアントからの受信トラフィックの総量(MB)。サーバーからMT サーバーへのHTTP トラフィック は含まれていません。
- 送信トラフィック(MB): MT ケライアントへの送信トラフィックの総量(MB)。MT サーバーから他のサーバーへのHTTP トラフィック りは含まれていません。
- 既読のファイル・サーバー上のすべての既読のファイルの総量。
- 書き込まれたファイル・サーバー上の書き込まれたファイル数量。
- 書き込まれたファイル サイズ(MB): サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
- 書き込まれたファイルサイズ(MB):サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
- データベースの読み取り書き込み、ソリューション内で使用されているDB への読み取り書き込みの数量。ませま、DB からの読み取り書き込みの数量からの数量。MT 内部データベースは含まれていません。
- HTTP リクエスト: MT サーバーから他のサーバーへのHTTP リクエストの数量。
- *HTTP リクエスト受信トラフィック(MB):* 他のサーバーからMT サーバーへの受信 HTTP トラフィック(MB)。MT クライアント とのトラフィッグは含まれません。
- MT クライアントとのトラフィックは含まれません。他のサーバーからMT サーバーへの出力 HTTP トラフィック(MB)。MT クライ アトとのトラフィッグは含まれません。
- イメージMT クライア・トとのトラフィックは含まれません。
- イメージサーバー上でロードされたイメージの数量。
- チャート作成の合計時間(秒): サーバー上でチャートを生成するために使用された合計時間(秒)。
- チャート作成の平均時間(ミル):単一のチャートを生成するための平均時間(ミル)。
- チャート作成の最長時間(ミル):単一のチャートを生成するためこ必要とされた最長時間(ミル)。

すべてのプラナフォームを同時に表示するを選択した場合、すべてのプラナフォーム(iOS、Android、Web、Windows、および Windows Phone)がつのイメージ内に表示され、各プラナフォームが異なる色で表示されます。プラナフォームを同時に表示する オプションの選択が解除されている場合、各プラナフォームのオメのイメージはプラナフォームフィルター内で対応するプラナフォームを個別 に選択することに、おます。

<u>時間別の使用状況</u>

選択されたソリューションの使用状況を、過去の週の各日のため224時間を2時間の単位で表示しています。 オベてのプラオフォームを表示のチェックを解除すると、 プラオ・フォームフィルターを使用して表示するプラオ・フォーム(iOS、Android、Web、Windows、およびWindows Phone)を選択することができます。 レポーナ フィルター内で、以下から選択することができます:

- *ユーザー*: ユーザーの数量。
- *デバス*·デバスの数量。
- リクエストのカウント:リクエストの数量。
- リクエストの合計時間(秒): リクエストを処理するために使用された合計時間(秒)。
- リケエストの平均時間(ミリ称):単一のリケエストを処理するための平均時間(ミリ称)。
- リクエストの最大時間(ミリ秋):処理に最も長くかかオミノクエストの処理時間(ミリ秋)。
- 開始するソリューション、プラオフォーム別に整理された開始するノリューション。
- 受信トラフィック(MB): MT クライアントからの受信トラフィックの総量(MB)。サーバーからMT サーバーへのHTTP トラフィック

は含まれていません。

- 送信トラフィック(MB): MT クライアントへの送信トラフィックの総量(MB)。MT サーバーから他のサーバーへのHTTP トラフィックは含まれていません。
- 既読のファイル・サーバー上のすべての既読のファイルの総量。
- 書き込まれたファイル・サーバー上の書き込まれたファイル数量。
- 書き込まれたファイルサイズ(MB):サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
- 書き込まれたファイルサイズ(MB): サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
- データベースの読み取り/書き込み: ソリューション内で使用されているDB への読み取り/書き込みの数量。ませま、DB からの読み取り/書き込みの数量からの数量。MT 内部データベースは含まれていません。
- HTTP リクエスト: MT サーバーから他のサーバーへのHTTP リクエストの数量。
- *HTTP リクエスト受信トラフィック(MB):* 他のサーバーからMT サーバーへの受信 HTTP トラフィック(MB)。MT クライアント とのトラフィッグは含まれません。
- MT クライアントとのトラフィックは含まれません。他のサーバーからMT サーバーへの出力 HTTP トラフィック(MB)。MT クライ アントとのトラフィッグは含まれません。
- イメージMT クライア・トとのトラフィックは含まれません。
- イメージサーバー上でロードされたイメージの数量。
- チャート作成の合計時間(秒): サーバー上でチャートを生成するために使用された合計時間(秒)。
- チャート作成の平均時間(ミリ秋):単一のチャートを生成するための平均時間(ミリ秋)。
- チャート作成の最長時間(ミル教):単一のチャートを生成するためコ必要とされた最長時間(ミル教)。

<u>OS/製造元/プラオフォーム/デバイスの種類</u>

各必要条件(OS, 製造元、プラオフォーム、およびデバイスの種類)は、必要とされるインスタンスの選択されたソリューションの使用状況に ついて表示します。例えば、プラオフォームの必要条件のために、各プラオフォームは総合の使用状況に対して表示されます。それぞれの ケースここを、円グラフで表示され、必要条件のインスタンスは円グラフの一部として表示されます。レポーチフィルター内で、以下から選択す ることができます:

- OS: 各 OS は異なる色で表示されます。
- 製造元:各製造元は異なる色で表示されます。
- プライトフォーム、各プライトフォームは異なる色で表示されます。
- デバイスの種類:各デバイスの種類は異なる色で表示されます。

4.9 **クライアントの情報**

モ イルデ・イス上の Mobile Together Client アプルは Mobile Together Server へ接続可能である必要かあります。 Mobile Together Client アプルにより次のサーマー情報が必要とされています。

IP ア ドレス	MobileTogether Server のP プドレス
<i>ポ</i> −≁	<u> モバルクライアント ポート 40 設定によ 脂定されて る HTTP お</u> は HTTPS ポート
SSL	通信を <u>SSL 暗号化するしない</u> 39
ユーザー名	ユーザーのログイノニ使用され、アクセス権利を決定する。ユーザーとロール4回を参照。
ノ&ワード	ユ - ザ- ፖታታሉの

メモ ウェブクライアントに保存されているデータは、(Webストレージとして知られる)ブラウザのローカルストレージに保存されています。 HTML 5.0 ローカルストレージは以下のブラウザーでサポートされます:

IE 8.0+	Firefox	Safari	Chrome	Opera	iPhone 2.0+	Android
	3.54	4.0-	4.0+	10.34		2.0+

クライアントデバイス上でサーバー設定の更新を行う

クライアトデバスがリューションを実行するコま、サーバーへのアクセスの設定がそのデバイスで構成される必要があります。サーバー設定が 変更された場合、例えば、 Mobile Together Server が、異なるIP アドレスを有する他のマシンム移動された場合、ケライアントデバイ ス上のサーバー設定は必要に応じて変更されなければなりません。Mobile Together Designer では、 Mobile Together 関数 mtserver-config-url を使用して、次のような新しいサーバー設定を含む URL を生成することができます。

mobiletogether://mt/change-settings?settings=<json encoded settings>。このURLをケライアトユーザ ーに電子メールレクとして送信することができます。リングがタップされると、ケライアト上のサードー設定は、自動的に更新されます。ケライア ント上のレンがタップされると、設定は自動的に更新されます。URL生成に関しての詳細は、<u>MobileTogether Designer ユーザーマ</u> ニュアルを参照してください。

Web クライアント上で複数のフークフローを実行する方法

Web クライアトは個別のタブで複数のフークフロー(ソレコーション)を並列に実行することができます。更に、前のフークフローはセシションが アクティブは間、メモリ内で保管されます。前のフークフローはF5(再ロード)を押すことに以再ロードされます。以下の点に注意してくたさい (i) 並列に複数のフークフローを実行すると、サーバーのメモルを使い切ります。(ii) アクティブなタブ内でのノレューションの実行中、背景タブ内 のノレーションはタイムアナトする可能性があります。

4.10 MobileTogether Server のバックアップと復元

このセクションではMobileTogether Server の、シクアップおよび復元の方法が説明されます。

- MobileTogether Server の シグアップは 重要なアプリケーション データ ファイルを安全な場所にピーすることより構成され ています。
- MobileTogether Server の復元は、バックアップされたファイルを新しいインストールされた場所にエピーすることに以構成されてします。
- クライアントからサーバーへの接続をアップデートします。

これらの手順は下で説明されています。

MobileTogether Server のバックアップ

バックアップする前に、MobileTogether Server を停止する必要があります。(作業中のファイルとバックアップファイル間のDBの状態の 不整合を防くためこの手順は必要です。)バックアップが必要な¥ MobileTogether Server ファイルをデフォルトでアプリケーションデータ フォルダーでロケートすることができます(下を参照。.cfg 構成ファイルは、<u>Web 管理インターフェイス</u>³³³ またコマイドライン インターフェ イスを使用して設定を変更する代わりにテキストエディターで編集することができます。

アプリケーションデータフォルダーの場所はオペレーションシステムとプラオフォームにおます。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Мас	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

下のテーブルはアプリケーションデータフォルダー内のメインのファイルとフォルダーのノストを表しています。

cache	ソリューションのキャッシュのデフォルトのディノオリ。キャッシュか使用できなは、場合は、ランタイム に自動的に作成されます。		
logs	ログファイルのオーダのデフォルトのディレクトリーはファイル ディレクトリニログ中 ⁹³³ オプションが 有効化されている場合、一般 MobileTogether Server ログのオーダコン作成されます。		
SolutionFiles	デプロイされたノリューションから参照された、XML おさはイメージ ファイルのデフォルトのディレクトリ。		
cert.pem	安全な(SSL)通信に必要なPEM ファイル。		
key.pem	安全な(SSL)通信に必要な秘密キーを持つPEM。		
mobiletogether.db	これは、MobileTogether Server オブジェクト システム ユーザーデータ、デプロイされたソ リューション、ファイル および他を保管する、主なデータベースファイル(SQLite) です。		
mobiletogetherlog.db	MobileTogether Server ログを保管するデータベースファイル(SQLite) です。		
mobiletogetherserver.cfg	(ポト番号、ソリューション デルクトリなどの) MobileTogether Server グロー・ シル <u>構成</u> 設定 ⁸³³ を保管します。		
mobiletogetherserver.licsi d	LicenceServer ¹³ ケライアナトに登録されたID を持つファイル。		
mobiletogetherserver.licsv r	指定されている場合、LicenseServer ビフェールオー・・のアドレスを含むファイル。		

MobileTogether Server の各バージョンのインストールの前に、上記のファイルとフォルダーは、デフォルトで、アプリケーションデー 灹 タフォルダー内のバックアップフォルダーイニピーされます(上を参照)。個々のバックアップフォルダーの名前にはバックアップデー 刻か含まれています。次回のインストールまでに自動バックアップを無効化するコよ「設定の設定セクションの更新」その他」 タブで設定します。

MobileTogether Server の復元

バックアップファイル(上を参照)から前のMobileTogether Server 構成を復元するコお以下を行います:

- 1. バックアップする Mobile Together Server_の同じバージョンをインストールします(上記参照)。
- 2. <u>Mobile Together Server</u>を停止します³⁷。
- バックアップファイルを新規のインストールニピーします(上記参照)。
 Mobile Together Server を開始します⁽³⁷⁾。

クライアントからサーバーへの接続のアップデート

MobileTogether Server を他のマシンゴ新しいIP アドレスなどの新規文字列などと共にう移動した場合、MobileTogether Server は接続する際クライアントデバイスの設定をアップデートする必要があります。詳細に関してはクライアントの情報 ⁰⁰⁰を参照してくだ さい

4.11 よくある質問

▼ サーバー上に複数のワークフローが存在します。IBM DB2 データベースに接続するための、ADO 接続が新しいッシュン が追加されました。クライアントがシリューションにアクセスしようと試みると、Mobile Together Server がウラッシュします。ワーク フローの削除を行っても改善されません。サーバーを再起動しない限り問題は解決されません。しかし、クライアントがシリューショ ンにアクセスを試みる都度、同じ問題が発生します。どう対応したらよいのでしょうか?

これは既知の問題であり、IBM DB2 まけまInformix データベースに関する問題です。ADO 接続を含むワークカローは、ワークフ ローカ最初にサーバーにデータベースへの接続を命じるとクラッシュを起こす可能性かあります。問題がワークカローの削除後も発生する 場合は、サーバーのメモリ内に接続データの一部が保管されているからです。この接続データはサーバーか再起動された後にのみに削 除されます。

5 Web UI リファレンス

MobileTogether Server Web ユーザーインターフェイス(Web UI)によりMobileTogether Server を簡単に構成することができます。Web UI はすべてのインターネル ブラウザーで開くことができ、サポートされるオペレーティングシステム 9 で作動します。

MobileTogether Server のWeb UI へのアクセス

Web UI へのアクセスは Mobile Together Server がインストールされているオペレーティングシステムにおます。

Windows

Web UI にアクセスするコゴシステムトレイのServiceController アイコンをクリックします。(下のスクレーシンヨオ参照)。メニュ ーのAltova MobileTogether Server をポイントしたときに表示されるMobileTogether Server サブメニューポップアップから 「Configure」を選択します。もし、MobileTogether Server が作動していない場合、Start Service オプションを選択して MobileTogether Server を開始してくたさい。

۲	Altova FlowForce Server	٢	
()	Altova FlowForce Web	١	
	Altova LicenseServer	۱	
Ø	Altova MobileTogether Server	۲	Configure
<u>@</u>	Altova RaptorXML+XBRL Server	۲	Start service
	Exit Altova ServiceController		Stop service
~	Run Altova ServiceController at startup		
E	N 🔺 🔝 🧼 띆 🅼 11:00 AM		

サインインするコは、パワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。アクティブディノケリログイン¹³³を介した1つ以上のドメインが定義されている場合、(i) 定義されオドメインから選 択、ませま(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコンボボックスを使用することができます。

Linux

Web UI にアクセスするコは ブラウザーのアドレスバーにURL を入力して、「Enter」を押します。(管理アクセス)のオックのデフォルトは、Web UI ページのURL です: http://<serverIPAddressOrName>:8085/

サインインするコよ、パワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。アクティブ ディレクトリログイン⁹³⁹を介した1つ以上のドメインカ定義されている場合、(i) 定義されたドメインから選 択、ませま(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコンボボックスを使用することができます。

Mac OS X

Web UI にアクセスするコは ブラウザーのアドレスバーにURLを入力して、「Enter」を押します。(管理アクセス)のオングのデフォルトは、Web UI ページ URL のです:

http://<serverIPAddressOrName>:8085/

サインインするコよ、パワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root / root 。 アクティブ ディレクトリログイン⁸³⁰を介した1 つ以上のドメインが定義されている場合、(i) 定義されオドメインから選 択、ませま(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコンボ・ボックスを使用することができます。

Web UI ダブ

Web UI はMobileTogether Server の管理者インターフェイスです。多種の管理機能は以下のWeb UI タブで使用可能です。

- ワークフロー 60: サーバーのコンテナー構造とコンテナーのパーミッションを管理する イクーフェイス。
- <u>ユーザーとロール(48)</u>: ユーザーアカウトとロール ユーザーとロールに関連した特権をセオアップします。ユーザーのアクセス権はこのダブで定義されます。
- ユーザーライセス85:現在ライセノスを取得しているモリイルデバイスおよびライセノスの詳細を表示します。
- 1018: 選択されたついゆーン基づき、ログされたサーバーアグランを表示します。
- <u>キャッシュ¹⁶³:</u> このタブはサーバー上で現在使用可能なキャッシュの詳細を表示します。キャッシュ」はアクティブ化/非アクティブ化お よび削除することができます。
- 設定⁶³³:アクセスポート、ログ設定、とサーバーセッションのタイムアナなどのMobile Together Server 設定がこのタブでできます。

5.1 ワークフロー

(Advanced エディションを表示している以下のスクリーンショナト) ワークフロー タブにより MobileTogether Server のroot フォル ダーのエンテナー構成および各エンテナーのアクセス権(パーミッション)を管理するインターフェイスが表示されます。エンテナーはサブエンテナーお よび/おけばデザインファイルまけは.mtd ファイルとして知られる) ソリューションを含むフォルダーです。MTD ファイルはサーバーのWeb UI か らエンテナーイに追加することはできず、MobileTogether Designer からサーバーにデプロイされます。デプロイ時、完全一致するエンテナー への なが指定されなければなりません。これにより MobileTogether Designer 内の必要とされるエンテナーを参照することが容易してより ます。

コンテナー /	/								検索語の入力	検索 ▼ 再帰的
28	779	アプリのパー ジョン ≑	30. 99	デザインの パージョン	前回のデブロイ時	グローバル リ ソース構成	永續データ	自動化された テスト	ブラウザーで実行	
🔲 🛅 contacts									パーミッション	
🔲 🛅 public									パーミッション	
コンテナーの作成 係	存 選択	されたオブジェクト	の剤能					選択項目を口	ックする 選択項目のロックを解除する	パーミッション

- ワークフロータブは 最初に"/" 文字には 康示される root コンテナーを表示します。
- コンテナー名の横の「下向きの」 矢印をクリックし、そのコンテナーのサブコンテナーを表示します。ポップアップリスト内のサブコンテナー ーをクリックし、サブコンテナーに移動します。
- コンテナーに移動する場合、クルックします。
- コンテナーの階層内でレベルを掘り下げると、breadcrumbs パマとしてウインドウの上の部分で表示されます。各レベルの「下向きの」、矢印により、異なるコンテナーイ:簡単に移動できるように、そのコンテナーのサブコンテナーが表示されます。



コンテナーを選択するコは、コンテナーのチェックボックスを選択します。コンテナーの名前の変更、移動、削除のために選択を使用することができます(記の機能の説明を参照してくたさい)。

タブのボタノコお以下の機能が搭載されています

コンテナーの作成	現在のフォルダートニンテナーを作成する。コンテナーをクトックして開く。
保存	詳細の修正などの変更を保存する。
<i>選択されたオブジェク</i> トの 移動、 <i>封土は、名前の</i> 変 更	1つのオブジェイトが選択されると、以下を行うことのできる「名前の変更と移動」ダイアログが開かれます (i) 名前の変更(ii) 新規のコンテナー(つけするオブジェクトの移動。複数のオブジェクトが選択されてい る場合、移動先のコンテナーを選択することのできる移動ダイアログが開かれます。
<i>選択されたオブジェク</i> トの 削除	選択されたコンテナーおけるアイルを削除する
選択項目のロック	新規のデプロイはロックされているノリューションを上書きすることはできません。試みた場合、エラーメッセージがMobileTogether Designer に表示されます。
選択項目のロックの解除	ロックされたノリューションのロックを解除します。
<i>ヽ</i> <u>゚</u> <u>゚ーミッション</u>	ユーザー/ロールが個々のエンテナートニアクセスできるか、おこアクセスのレベルを設定する。
検索	入力された用語を検索する。再帰をチェックして子孫ニンテナーを検索する。

<u>他の利用可能なアクション:</u>

[▼] 機能

- コンテナーの階層を上向きこナビゲートする場合、ワークフロータブの、マ内の必要とされる先祖フォルダーをクトックします。
- コンテナーの階層を下向きにナビゲートする場合、コンテナーをクリックして開きます。
- ソリューションファイルのURLをクトックしてノリューションを実行します。

▼ コンテナー /public/

public エンテナーをクリックして、エンテナーを開きエンテンンを表示します。public は既定義のエンテナーでサンプルのデザインファ イル(ソリューション)を含み、プログラムに含まれています。ソリューションのURLをクリックして実行します。

ワークフロー	ユーザーとに	ールーユ	ーザーライセン	ス ログ キャッシュ	設定 ヘルブ									日本語 🔻
コンテナー / public / (## 図 ###の入力) (## 図 ###の入力)														
81	H 🗢	アプリ	アプリのパー ジョン			巡明	デザインの パージョン	前回のデブロイ時	グローバル リ ソース構成	永綾データ	自動化された テスト	ブラウザー で実行	i	
🔲 🛅 contacts												パーミッション		
🔲 🛅 new												パーミッション		
CityTimes	ViaSOAP			世界の都市の現在の時刻			3.0	2016-10-20 13:25:52	Default 🔻		•	http://127.0.0.1:8085/run?d=/public/CityTime	sViaSOAP	
🔲 🗟 JogTime		JogTime	10	Altova JogTime custom app			3.0	2016-10-20 13:01:38	Default 🔻					
コンテナーの作家	コンテナーの作成 係存 選択者社をオブジェントの開始													

▼ コンテナーのコンテンソの表示

コンテナーはサブコンテナーおよびがおけまデザインファイルおけま、mtd ファイルとして知られるソリューションを含むフォルダーです。各コンテナーのコンテンソは表形式リストとして表示されます。テーブルの列はノリューションのプロノティを表示します

- 名前: MobileTogether Designer で保存されたソリューションの名前
- アプリドージョン(ページの上の最初のスクリーンションを照)アプレアプリドージョンの列はAppStore App がサードーにデプロイされた場合のみ表示されます(<u>Mobile Together Designer ユーザーマニュアル</u>参照)。
 AppStore App とドージョンの名前がそれそれ表示されます。
- *説明*: ソリューションの短い説明
- デザインのバージョン、ソリューションが作成された Mobile Together Designer のドージョン
- 前回のデプロイ: ソリューションが前回最後にデプロイされた日時。
- グロー・ *ジレハノース構成*: ソリューションのために定義されサー・ドーにデプロイされたグロー・ シレハノース。グロー・ シレハノースが 指定されていない場合、Default か表示されます。
- 永続データ、ソリューションを実行中にデータが変更された場合、「データをクリア」ボタンがこの列に表示されます。変更を 元に戻したい場合このボタンをクリックします。
- 自動化されたテスト: 青色のホイールは、そのノリューションの自動化されたテストが、アクティブではありませんが、少なくとも 1つ存在することを示しています。赤いホイールは、使用することのできるテストランの少なくとも1つのテストがアクティブであるこ とを示しています。デザインのテストランのアクティブ化、おけよ、クライアント上でテストランかどのように実行されるか決定するこ は、ソリューションのホイールアイコンをクリックしてくたさい(上のスクリーンショント内で表示されています)。これは、そのノリュ ーションの自動化されたテストを表示するページを表示します(次のセクション参照)。自動化されたテストの情報に関していた、Mobile Together Designer ドキュメントを参照してくたさい。
- ブラウザでの試行: ソリューションファイルがデプロイされるサーバー。クトックしてノリューションを実行します。(Web ブラウザ ーで App Store App を開くことができない サーム App Store Apps のナームりこ URL は表示されません)。
- ▼ 自動化されたテスト

ソリューションの自動化されたテストの別のオイールアイコンをクリックすると、そのノリューションの自動化されたテストを示す構成ページが 表示されます(アのスクリーンションケ)。

ワークフロー ユーザーとロール ユーザーライ								日本語 🔻			
/public/CityTimesViaSOAPのために自動化されたテスト											
8#	クライアント	60 AS	長さ(粉)	V 79717	実行の種類		ログアクション	各 ステップの後で自動的に スナップショットを作成する	スナップショット インフォ セット	スナップショット スタイル	スナップショット クライアン トビュー
CityTimes01-Cities	simulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:11:21	57.965		元の速度	•	v	✓	V	V	✓
CityTimes02-UTC	simulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:16:49	81.562		元の速度	-		v	V	V	V
 CityTimes03-Refresh 	simulating Samsung Galaxy 53	2016-10-14 14:20:02	944.117		元の速度	•	v	1	V	v	V
(2)な 選択項目の削数											

自動化されたテストのページは、選択されたノリューションのためにデプロイされたテストの実行のすべてを表示します。ケライアント上での再生のためのエニのテストの実行を以下のようにセントアップすることができます:

- 1. 「アクティブ」の列から、アクティブ化するテストラをチェックします。これらのテストはクライアスト上で再生されます。クライアスト 上で自動化されたテストが開始される際。自動化された複数のテストラスが選択されると、選択されたすべてのテストランが 再生されます。ソリューションのテストランがアクティブ化されていると、ワークフローのページで、デザインの「自動化されている テスト」の列に赤いホイールのアイエンが表示されます。Web クライアスト上でテストを再生する場合、ワークフローページで 自動化されたテスト列内の再生アイエンをクリックします。
- 2. ランの種類列内でのテストランの速度を設定します。列のヘッダーのドロップダウンリストから速度を選択して全てのテストランのための速度を設定することができます。
- 3. 再生中のログの詳細を設定します。希望する列のチェックボックスをチェックしておこなします。これらのオプタンは関する詳細は、Mobile Together Designer ドキュント内の自動化されたテストのセグションを参照してくたさい。
- 4. 「保存」をクトックして完了します。

テストランを削除する場合は、左側の列のチェックボックスを選択して、「選択項目の削除」をクリックしてください。

<u> パーミッション</u>

自動化されたテスト ページの下の部分で次を指定することができます(アのスクノーンショント): (i) (セキュリティ タズ内)ユーザーと ローリは実行することができる選択されたリリューションのために自動化されたテスト、(ii) (デバイスタズ内で選択することのできる)テストを実行することのできるデバイス。

Security Devices	
Assign Users/Roles	
Users/Roles available	Users/Roles can run tests
Name 🗢	Name 🗢
🗆 🤽 Deploy	🗹 🏖 Tech
4 authenticated	🔲 🤽 all
A workflow-designer	
🔲 🤽 workflow-user	Assign >>
Z LechWriter-01	and Demous
anonymous	<< kemove
🔲 🙎 newuser	
🗆 💄 root	

- ユーザーとコールはセキュリティタブ内で選択され、デバイスタブ内でデバイスは選択されます(上のスクリーンショントを参照)。
- 許可済みのリストにユーザーロール、おけよ、デバイズを割り当てるけよ、左側のペイン内で選択し、「割り当て」をクトックしま す、上のスクリーンショナを参照。
- 許可済みのリストからユーザー/ロール、おけよ、デバイスを「削除」をクリックすることにより、削除することができます。
- 1度に複数の選択を割り当て、おけよ、削除することができます。
- 許可済みのリストにデバイスが割り当てられていない場合、ソリューションのためのテストラノはすべてのデバイストで実行することができます。
- メモ (2018年2月27日にリリースされた)・・・ジョン4.1 にサー・・をアップグレードする前の自動化されたテストには全てのユーザ ーロールのすぶのセキュリティパーミッションが提供されます。すなオちすべてのユーザー/ロールはアップグレード以前と同様に 振る舞う自動化されたテストを実行することができます。・・・ジョン4.1 以降にデブロイされた自動化されたテストではセキュ リティパーミッションはユーザー/ロール無しに設定されています。すなオち自動化されているテストを実行するユーザーおけま ロールお指定されていなければなりません。

パーミッション

パーミッションはアクセス権で、各エンテナーゴ個別に設定することができます。パーミッションはエンテナー(こアクセスできるユーザーおよびロ ール、ユーザーロールがどの種のアクセス、読み込み、書き込み、使用)を持つかを決定します。アクセス権はエンテナー、ワークフロー(ま だはよりューション)、セキュリティへの書き込み、読み込みを設定します。

ユーザーまたはロール名 🗢	パーミッション	
& anonymous	コンテナー: 読み取り,書き込み ワークフロー: 読み取り,書き込み, 産用 セキュリティ: 読み取り	黄亚
& authenticated	コンテナー: 読み取り ワークフロー: 読み取り,書き込み,使用 セキュリティ: 読み取り	安更
& root	コンテナー: 読み取り,書き込み フークフロー: 読み取り,書き込み,使用 以下から提来 & authenticated セキュリティ: 読み取り,書き込み	交更

□ <u>/ パーミッションの継承ルール</u>

- コンテナーのパーミッションは親コンテナーから継承されます。
- ユーザーの トミッションはユーザーがメンバーのコールすべて、おっ直接ユーザーに割り当てられた トミッションから継承されます。
- ユーザーのルールの継承は前例をコンテナー階層ルールより先優先します
- ユーザーがシンドーであるロールのパーミッションが再定義された場合、この特定のパーミッションのコンテナー階層の継承はオーバーライドされます。

パーミッションはすべてのユーザーイントラアクションで確認されます。全ての必要なパーミッションか与えられている場合、ユーザーはアクセスおよびがおけは編集をすることができます。パーミッションは次のグループのために設定されます:

<u> ユンテナー</u>

- 読み込み: ユーザーはコンテナトをリストし、コンテナー内のオブジェケトを検索することができます。
- 読み込み-書き込み: 読み込みに追加して、適応される、トミッションにより、新しいオブンエクトを作成 (そして既存のオブジェクトを削除する) ことかできます。
- 継承: 親コンテナーから いーミッションを継承します。
- アクセス無し、コンテナーからのアクセスか与えられていません。

<u>_____</u>

- 読み込み: ユーザはノ」ューションを実行できます。
- 読み込み書き込み、ユーザーは更にデプロイノリューションであるノリューションを上書きすることができます。
- 継承:親エレテナーからいーミッションを継承します。
- アクセス無し、ワークフローへのアクセスが与えられていません。

<u> セキュリティ</u>

- 読み込み: ユーザーはコンテナーの子オブジェクトのトミッションノストを読み込むことができます。
- 読み込み-書き込み、ユーザーはコンテナーの子オブジェクトのトミッションリストを追加的に変更することができます。
- デフォルトでは、ユーザーは書い当てられたまけはロールのメンバーであるパーミッションを読み込むことを許可されています。ユ ーザーの読み込みとロールの特権が与えられている場合、ユーザーはすべてのパーミッションエトリを読み込むことができます(see <u>ユーザーとロール</u>を参照)。
- 総承: 親コンテナーからトーミッションを継承します。
- アクセス無し:パーミッションへのアクセスが与えられていません。
- □ <u>コンテナーのパーミッションの編集</u>
 - 1. コンテナーの横の「パーミッション」ボタンをクトックします。これによりコンテナーのノ*ーミッションペー*ジに移動します(下部のスクリーンショント)。

ユーザーまたはロール名 💠	パーミッション	
	コンテナー: 読み取り,書き込み	
& anonymous	ワークフロー: 読み取り,書き込み,使用	大王
	セキュリティ: 読み取り	
	コンテナー: 読み取り	
authenticated	ワークフロー: 読み取り,書き込み,使用	東亜
	セキュリティ: 読み取り	
	コンテナー: 読み取り,書き込み	
B root	ワークフロー: 読み取り,書き込み,使用 以下から継承 🏖 authenticated	安亚
	セキュリティ: 読み取り,書き込み	

2. 既に許可されているユーザー/ロールアクセス権を編集するコよ「変更」ポタンをクトックします(上のスクリーンショナ参 照).。新しいユーザー/ロールマトミッションを追加するコよ「パーミッションの追加」をクトックしてくたさい。これらのお ンにより「パーミッションの変更」ペインか開かれます。

パーミッシ	ョンの編集		
			すべてに対してセット:
コンテナー:	読み取り、書き込み	-	継承
ワークフロー:	読み取り、書き込み、使用		フルアクセス
			アクセスなし
セキュリティ:	セキュリティの読み取り	•	
変更の保存	変更の破棄		

- 3. パーミッションの編集ペイン内で、チェックボックスをチェックして、ユーザー/ロールを選択します。既存のパーミッションを編集す る場合、パーミッションはこのユーザー/ロールから継承されます。パーミッションを追加する場合、ユーザー/ロールがつエンテナ ーの許可済みのユーザー/ロールに追加されます。(Mobile Together Server おけま Directory Service)検検索 コンボドックス内で、Mobile Together Server おけよ、有効化済みのデメインのために定義されているユーザー⁷⁴と ロール¹⁷⁷を選択します。ドメインのユーザーとロールはデメインの管理者により定義されます。Active Directory Login 設定¹⁰⁰ か設定タブ¹⁹³で有効化されている場合ペイン内で使用することができます。
- 4. 必要に応じていーミッションを変更します。継承オプノョンはいーミッションか親コンテナーから継承されるいーミッションです。

5.2 ユーザーとロール

ユーザーとロール タブ(下部のスクリーンショナ は Advanced Edition を表示しています) はま4 つのサブタブがあります。タブ() これ らのサブタブはユーザーアケナナトを管理するオーダに共に使用されます。 ユーザーアケナナト は特権のオーダにセナト アップされ構成されます。 レポー トサブタブでアケナナト のサマノーが閲覧できます。 詳細に関しては、サブセグションを参照してください。

ワークフロー	ユーザーとロール	ユーザー ライセンス	ログ	キャッシュ	設定		
管理: ユーザー							
ユーザー ロ	レール パスワードオ	リシー レポート					
ユーサ	۴ <u> </u>						
E & TechW	/riter-01						
🔲 💄 anony	anonymous						
🔲 🚨 root							
ユーザーの作	威 ドメイン ユー	ザーのインボート	選択され	たユーザーの間	11 B£		

▼ ユーザー(潤して

ユーザーは名前とマワードの組み合わせことに定義されます。Mobile Together Server のユーザーアクセスコは2 つの方法があります:

- Web UI アクセス: Web UI は Mobile Together Server の管理イノターフェイスです。Web UI にコグオンするによ 名前と マワードの組み合わせが必要です。このため、ユーザーとして実行されます。
- サービス インターフェイス・HTTP サービスインターフェイスにより、Mobile Together Server のサービス 通常も イルデ バイスの Mobile Together Client アプト、か公開されます。ユーザーは、名前と マワードを使用してサービスインターフェイ スにアクセスします。公開されるサービスは通常Mobile Together のノリューションと関連したデータへのアクセスです。

2 つの特別なユーザーは定義済みです

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユー ザーの追加やロールの設定を行うことができます。このユーザーの最初の名前と「スワードは root-root です。ノスワードは地時変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウトで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスにアクセス します。このユーザーは、最初の・スワードがは、サーダ、トップレベンルのWeb UI はコログインすることができま せん。

▼ 特権に関して
特権はコーザーが実行を許可されたアクティビティです。 MobileTogether Server 特権はコよ定数が防火 ゆーざーははせから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。 ですが、ユーザーム直接特権を割り当てるより、ローリの川に特権を割り当てることができます。 ですが、ユーザーム直接特権を割り当てるより、ローリの川に特権を割り当てるよう、 が推奨されます、以下のセクション参照)。 特権とローリの割り当ては最初にこの特権を割り当てられたユーザームより実行されます。 最初はユーザーがこの特権を有します。

以下のスクレーシンコントにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権
□ユーザー、ロール、特権の管理
□ セキュリティの制限を無視
☑ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
□ フィルター処理なしのログの表示
✓ 概要のキャッシュの表示
☑ューザーライセンス概要の表示
□ユーザーとロールの読み取り
☑ サーバー設定の管理
□ ワークフローのトレース (<i>"ファイルへログ" オプションが有効化されている場合,ファイルへ(作業中 XML ファイルを含む) の詳細ワークフロー実行ログを有効化する</i>)
 ☑ 統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)
 □データベース構造の読み取り □ グローバルリソースの読み取り □ グローバルリソースの書き込み □ デザイナーからワークフローを開く □ デザイナーからのワークフローの保存 □ サーバー シミュレーションの実行

タブ<u>ユーザーとロール/レポート/特権レポート⁸³ですべての</u>特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユー ザー/ローリと共にリストされています。

▼ ロール/潤して

ロールは特権のセトです。ロールは他のロールはオオユーザー「割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールはオオ そのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーゴはくつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、 割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです

- authenticated はanonymous 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とペワードを 持つユーザーゴはauthenticated ロールは割り当てられます。
- all はanonymous を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- workflow-designer はMobileTogether Designer 内のフークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。
 このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。

- workflow-user はモンドルデンドイスでフークフローを実行しているユーザー(書)(当てられます。このロールによりユーザーは、サーンドーコングイム、クライアト・でノリューションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- admin は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

5.2.1 ユーザー

ユーザーとコール/ユーザータブ(下部スクノーシンヨオ)では(ユーザー名をクリックすることによりすべてのユーザーを表示、新しいユーザー 作成、ユーザーのプロ/ ティニアクセス、ユーザーの削除が行えます。

ユーザー
■ 名前 🗢
E TechWriter-01
A anonymous
Revealed the second sec
ユーザーの作成 ドメイン ユーザーのインボート 選択されたユーザーの削除

▼ ユーザー 潤して

ユーザーは名前とマワードの組み合わせにとに定義されます。 Mobile Together Server のユーザーアクセスコは2 つの方法があります:

- Web UI アクセス·Web UI はMobileTogether Server の管理インターフェイスです。Web UI にコグオンするによ 名前と マワードの組み合わせが必要です。このため、ユーザーとして実行されます。
- サービス インターフェイス・HTTP サービスインターフェイスにより、Mobile Together Server のサービス 通常も イルデ バイスの Mobile Together Client アプト、が公開されます。ユーザーは 名前と マワードを使用してサービスインターフェイ スピアクセスします。公開されるサービスは通常Mobile Together のノリューションと関連したデータへのアクセスです。

2 つの特別なユーザーは定義済みです:

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユー ザーの追加やロールの設定を行うことができます。 このユーザーの最初の名前と タワードは root-root です。/ タワードは地時変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウトで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスニアクセス します。このユーザーは、最初の・ペワードがえいすっな、トップレベルのWeb UI はコエウインすることができま せん。

▼ 特権は関して

特権はユーザーが実行を許可されたアクティビティです。 Mobile Together Server 特権はコは定数があり、ゆーざーゴはゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。 ですが、ユーザーム直接特権を割り当てるよりに、ローリ別に特権を割り当てること

か推奨されます、以下のセクション参照。特権とロールの割り当ては最初にこの特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。 最初はユーザーかごの特権を有します。

以下のスクレーンショナにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権
□□−ザー、□−ル、特権の管理
✓セキュリティの制限を無視
☑ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
□ フィルター処理なしのログの表示
☑ 概要のキャッシュの表示
☑ ユーザーライセンス概要の表示
☑ユーザーとロールの読み取り
☑ サーバー設定の管理
 ワークフローのトレース ("ファイルヘログ"オブションが有効化されている場合,ファイルへ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)
 ✓ 統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)
 ✓ データベース構造の読み取り ✓ グローバルリソースの読み取り
☑グローバルリソースの書き込み
☑ デザイナーからワークフローを開く
☑デザイナーからのワークフローの保存
☑ サーバー シミュレーションの実行

タブ<u>ユーザーとロール/レポート/特権レポート⁸³ですべての</u>特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユー ザー/ロールと共にリストされています。

▼ ローノル潤して

ロールは特権のセナです。ロールは他のロールおけはユーザー「書い当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールはけよ そのロールを書い当てられたユーザーに与えられます。ユーザーゴはくつでもロールを書い当てることができます。その結果、ユーザーは、 割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです

- authenticated はanonymous 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前と マワードを 持つユーザーゴはauthenticated ロールは割り当てられます。
- all はanonymous を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- workflow-designer はMobileTogether Designer 内のフークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。
 このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、おっサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- workflow-userはモンドルデンドスでフークフローを実行しているユーザーに書い当てられます。このロールによりユーザー

は、サーバーコリケイし、クライアトでリューションを開始することなく、サービスクレターフェイスにアクセスできます。

• admin は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

▼ ユーザーの作成

新しいユーザーはroot ユーザーおけよ、管理ユーザー、ロールおよび特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザーは以下の手順で作成されます:

1. *ユーザーとロール/ユーザータブでユーザーの作成をクトパし*ます。(下部スクノーンショオ参照)。これによりユーザーの 作成ページが表示されます。

ユーザー
■ 名前 🗢
TechWriter-01
anonymous
C 2 root
ユーザーの作成 ドメイン ユーザーのインボート 選択されたユーザーの削除

- 2. ユーザーの作成ページで、ユーザー名とペワードを入力します。
- 3. ユーザーは特権を割り当てる場合、特権を、チェックボックスをチェックして)直接、およびがおはユーザー、コロールを割り当てる ことができます。(次のセクションを参照)。ユーザーは直接割り当てられた特権と割り当てられたロールから継承された特権を 有することができます。ロールを使用して特権をユーザー、「書り当てることが奨励されます。(次のセクションを参照)
- 4. 「保存」をクリックして終了します。ユーザーがユーザーリストに表示されます。(上部スクレーンショント参照)。ユーザーのプロ ノティをユーザーのリストのユーザー名をクリックすることで編集できます。
- ▼ ドメインユーザーのインポート

<u>アウティブ ディノオリログイン⁶³³</u>が全てのユーザーを自動的にインポートすることなく、ドメイノニ対して有効化されている場合、有効化されている場合、有効化されている場合、有効化されている場合、すながた、アクロンボート」をクリックします。(下部スクリーンショント参照)。ユーザーのインポートダイアログが表示されますので、インポートしたいドメインユーザを検索し、ユーザーを選択した後「選択をインポート」をクリックします。

ユーザー	
■ 名前 ◆	
LechWriter-01	
anonymous	
S root	
ユーザーの作成 ドメイン ユーザーのインボート	選択されたユーザーの削除

このユーザーがインポートされたのち、他のロールと同様ユーザートエロールを割り当てることができます。新しいユーザーは、ユーザーのドメイン特有のユーザー名と、アワードでMobileTogether Serverlエログインすることができます。

▼ ユーザーへのロールの割り当て

ロールはプロ・ティページでユーザーに割り当てることができます。ユーザーのプロ・ティページにアクセスするコよ ユーザーとロール / ユー ザー タブ のユーザー名をクトックします。ユーザーのプロ・ティページの下部に割り当てられたロールペインがあります。(下部スクノーシ ショント)。

割り当てられたロール	'Tech-01'		
利用可能なロール			ユーザー Tech-Orに書り当てられたロール
■ 名前 ◆			■ 名前 ◆
🔽 🟖 workflow-designer	1	割り当て >>	🔽 🤱 all
A workflow-user	_		A authenticated
		< < 韵除	

ユーザーの特権のリストを閲覧するコはユーザーとロール/レポート/ユーザーの特権
⁸³に移動してくたとい。

▼ ユーザーの削除

ユーザーはroot おはユーザー、ロール、および特権の管理の特権を有するユーザーにより削除することができます。以下の手順でユーザーを削除します: ユーザーとロール/ ユーザータブから、削除したいユーザーを選択して、下部スクレーシショナ参照、選択されたユーザーの削除をクリックします。

ユーザー
■ 名前 ◆
C & TechWriter-01
anonymous
Second Se
ユーザーの作成 ドメイン ユーザーのインボート 選択されたユーザーの削除

5.2.2 ロール

ロールは特権のセトです。ロールは他のロールおけはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールおけよそのロ ールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーゴは、くつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられ たロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです

• authenticated はanonymous 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前と、スワードを持つユ

ーザーゴはauthenticated ロールの割り当てられます。

- all はanonymous を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- workflow-designer はMobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このコールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- workflow-user はモッドルデッドスでフークフローを実行しているユーザー(書)(当てられます。このロールによりユーザーは、サーバー)コングイレ、クライアト・でノリューションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- admin は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

ロール	
■ 名前 ◆	
🔲 🧟 all	
A authenticated	
A workflow-designer	
A workflow-user	
ロールの作成 ドメイン ロールのインボート	選択されたロールの削除

ユーザーとロール/ロールタブから新しいロールの作成、ロールのプロノティの編集、ユーザへのロールおよび、おけま地のロールの割り当てかできます。特権の選択/選択解除およびユーザーおよび/おけま地のロールへのロールの割り当てかできる、ロールのプロノティページへアクセスするために、ロールの名前をクリックしてください。

▼ ロールの作成と特権の定義

新しいユーザーはroot ユーザーおけま、ユーザー、ロールおよび特権の管理の特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユー ザーは以下の手順で作成されます:

1. ユーザーとロール/ロール タブのロールの作成をクリックすると(下部スクリーンショント参照)ロールの作成ページが表示 されます。

ロール	
名前 🗘	
🔲 🤽 all	
A authenticated	
A workflow-designer	
A workflow-user	
ロールの作成 ドメイン ロールのインボート	選択されたロールの削除

- 2. ロールの作成ページでロールに名前を与えます。
- 3. ロールの特権を定義するために、チェックボックスをチェックして特権を選択します。

特権

```
☑ ユーザー、ロール、特権の管理
✓ セキュリティの制限を無視
□ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
✓ フィルター処理なしのログの表示
☑ 概要のキャッシュの表示
□ ユーザーライセンス概要の表示
☑ユーザーとロールの読み取り
☑サーバー設定の管理
ワークフローのトレース
("ファイルヘログ"オプションが有効化されている場合,ファイルヘ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)
☑ 統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)
✓データベース構造の読み取り
☑グローバルリソースの読み取り
☑グローバルリソースの書き込み
☑ デザイナーからワークフローを開く
☑ デザイナーからのワークフローの保存
☑ サーバー シミュレーションの実行
```

4. 「保存」をクリックして完了します。

ロールを保存した後、ページ下部のメンバーペインのメンバーコールを割り当てることができます。(次のセクションを参照)。メンバーは ユーザーおけまれのロールであることができます。その後、ロールのプロパティをユーザーとロール/ロールタブのロールのリストのロール名 をクリックして編集することができます。

ロールの全ての特権のリストを閲覧するコは、ユーザーとロール/レポート/ユーザー83の特権タブン移動してくたさい。

メン、←のロールへの割り当て(ユーザーま)」は他のローリ ユーザーま)」は他のロールであるロールはメン、←を持つことができます。親ロールからメン、「ー」は特権を継承します。

ロールにメンバーを割り当てるは、ロールのプロ、ティページの下部にあるメンバーペインに移動してくたさい、下部スクリーンショント)。

メンバー			
利用可能なユーザー/ロール			
検索:			ロールのメンバー 'workflow-designer'
検索: MobileTogether Server		•	■ 名前 ◆
🔲 名前 🗢	說明		🔽 🐣 deploy
🔲 🤽 all	MobileTogether Server		
A authenticated	MobileTogether Server	副り当(>>	
A workflow-user	MobileTogether Server	- 101 BA	
Z TechWriter-01	MobileTogether Server	<< 81.0%	
anonymous	MobileTogether Server		
🔲 🙎 root	MobileTogether Server		

- すべての利用可能なユーザー/ロールは左側こしひされています。
- (Mobile Together Server おさま Directory Service をエンボボックスからそれぞれ選択して) エンボボックスの 検索 で Mobile Together Server おさますべての有効化済みのドメインのために定義済みの ユーザー ⁷⁴ と ロール ⁷⁷ を選 択することができます。ドメインユーザーとロールはドメインの管理者によに定義されます。<u>Active Directory Login 設</u> 定¹⁰¹ が<u>設定タブ</u>³³ 内で有効化されている場合のみ使用が可能です。
- 検索フィールド内で名前をテキスト検索することによりユーザークロールと検索することができます。
- ロールのすべてのユーザー/ロールは右側にしたされています。
- メンバーとて割り当てたい、左側コストされたシューザー、ロールを選択して、「割り当て」をクリックしてくたさい。
- 割り当てられたユーザー/ロールを削除するコよ右側のノストから選択して、「削除」をクリックしてくたさい。

上部のスクノーシショナは、例えば、workflow-designer ロールのメンバーペインを表示しています。Deploy とら単一のメンバーが存在し、workflow-designer ロールの全ての特権を継承します。

ユーザーおけコロールに複数の特権セトを与えることができることに注意してください。もしユーザークロールな数のロールのメンバーとして追加された場合、すべての親ロールの特権を継承します。ユーザーおけコロールの全ての特権のリストを閲覧するココュ<u>ューザーとロー</u> <u>ルレレポート / ユーザー</u>
³³の特権へ移動してください。

▼ ドメインローノルのインポート

<u>アウティブディレケーリログイン</u>¹⁰⁰⁰がドメインのために有効化されている場合、有効化されたドメインの個別のロールをインポートすることができます。「ドメインロールのインポート」をクリックしてくたさい。(アのスクリーンショント参照)。表示されるドメインロールのインポートダイアログ内でインポートするロールを検索して、「インポートの選択」をクリックします。

ロール	
■ 名前 ◆	
A all	
A authenticated	
A workflow-designer	
A workflow-user	
ロールの作成 ドメイン ロールのインボート	選択されたロールの削除

このロールのインポート後、他のロールとしてロールに特権を与えることができます。新しい特権はこれらのドメイン固有のロールに許可されます。

5.2.3 パスワードポリシー

ノマワードポトンーはそのポトシーを使用する、マワードの強さを定義します。自身の、マワードおよび異なるユーザーへの異なるポトシーの適用 を定義することができます。「ユーザーとロール/ノマワードポトシー」タブ(ア部スクリーンショント)ですべての定義された。マワードポトシー か表示されており、新し、ポトシーの作成、ポトシーのユーザーへ割り当て、ポトシーの削除を行うことができます。

パスワード ポリシー			
■ 名前 ◆			
🔲 🕯 デフォルトのボリシー			
🔲 📴 中度セキュリティ			
ポリシーの作成 ポリシーの削除:			

- メモ デフォルトでは、新しいユーザーはは、制約を定義しなく変更のできない、デフォルトの、マワードポルシー・割与えられています。デフォルトポルシーによに定義された。マワードより上通し、マワードをユーザーに与えたい場合、強いポルシーを作成し、各ユーザーに割り当てます。
- ▼ パマワード ポパーの作成

新しい マワードポパシー laoot ユーザーまけま、ユーザー、ロールおよび特権の管理の特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザー は以下の手順で作成されます:

1. ユーザーとロール/ パワードポパシータブの「ポパシーの作成」(下部スクノーシショナ参照)をクトクします。これにより パマワードポパシーの作成ページが表示されます。

パスワード ポリシー				
名前 \$				
ポリシーの作成 ポリシーの削除:				

- 2. パマワードポトシーの作成ページで、ポトシーに名前を与えます。
- 3. パマワードの制約を定義するためコよ制約(合計の長さ、英字、数字)の横のプラスアイエンをクリックして、制約の値を入力します(下部スクリーンショント参照)。

パスワード ポリシーの作成					
ポリシー名: MediumSecurity					
パスワード ポリシー					
合計の長さ:少なくとも以下の数量が必要です 8 文字 💼					
英字: 少なくとも以下の数量が必要です 4 英字 💼					
数字: +					
保存					

4. 「保存」をクリックして終了します。

ポパシーを保存した後、ページ下部のメンバーペインから次のセグションを参照)からユーザーを割り当てることができます。後に、ユーザ ーとロール/ポパシーのプロ・ティリストの中の名前をクリックしてポパシーのプロ・ティを編集することができます。

▼ メンバー(ユーザー)への タワードポターの割り当て

ポパシーのプロノティページ下部のメンバーペインでユーザーをポパシーのメンバーとして追加することにより、ノマワードポパシーはユーザーに 適用することができます(下部スクノーンショナを照)。

メンバー			
利用可能なユーザー			ポリシーのメンバー 'MediumSecurity'
■ 名前 \$	現在のポリシー		名前
▼ ▲ 新しいユーザーのデフォルト	<i>☞ デフォルトのポリシー</i>	del liste ar	TechWriter-01
C & root	©== デフォルトのボリシー	副9当(>>	
		<< 削除	

すべての利用可能なユーザーは左側コノストされています。ポトシーのメンバーであるすべてのユーザーは右側コノストされています。左側のノストカらメンバーとして割り当てけ、ローザーを選択して、「割り当て」をクトックします。割り当てられたユーザーを削除するコよ 右側のノストから選択して、「削除」をクトックします。上部のスクレージョナトは、MediumSecurity ポトシーのメンバーペークを表示しています。単一メンバー、ユーザーTechWriter-01、が存在します。

5.2.4 レポート

ユーザーとロール/レポートタブユポートと特権へのレンカあります。これらのレポートはユーザー/ロールの使用する特権の役に立つサマリーがレポートされています。

▼ 特権レポート

特権レポート(ア部スクリーンショント) には各特権とこの特権を使用するすべてのユーザーとコールがリストされています。また、総承も表示されています。

特権レポート						
特権	プリンシバル	与えられた、またはプリンシバルにより継承				
保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	 <u>TechWriter-01</u> <u>authenticated</u> <u>root</u> <u>workflow-user</u> 	以下より継承された & <u>authenticated</u> 以下に与えられた & <u>authenticated</u> 以下に与えられた <mark>& <u>root</u> 以下に与えられた & <u>workflow-user</u></mark>				
ユーザー、ロール、特権の管理	<u>TechWriter-01</u> <u>authenticated</u> <u>root</u>	以下より継承された & <u>authenticated</u> 以下に与えられた & <u>authenticated</u> 以下に与えられた & <u>root</u>				
サーバー設定の管理	 <u>TechWriter-01</u> <u>authenticated</u> <u>root</u> 	以下より継承された & <u>authenticated</u> 以下に与えられた & <u>authenticated</u> 以下に与えられた & <u>root</u>				
デザイナーからワークフローを開く	 deploy root workflow-designer 	以下より継承された & <u>workflow-designer</u> 以下に与えられた & <u>root</u> 以下に与えられた & <u>workflow-designer</u>				

▼ ユーザーレポートの特権

ユーザーレポートの特権 (ア部スクリーンショナ) には各ユーザーロールが特権のサマレーと共にリストされています。また、継承も表示されています。

ユーザーレポートの特権

プリンシバル	特権	与えられた、またはプリンシバルにより継承。
<u> TechWriter-01</u>	保存されたバスワードのクライアントでの使用を許可する。	以下から維承 🤽 authenticated
	ユーザー、ロール、特権の管理	以下から維承 🤽 authenticated
	サーバー設定の管理	以下から維承 🤽 authenticated
	セキュリティの上書き	以下から維承 🤽 <u>authenticated</u>
	ユーザーとロールの読み取り	以下から維承 🤽 authenticated
	独自のパスワードをセット	以下から維承 🤽 <u>authenticated</u>
	概要のキャッシュの表示	以下から維承 🤽 authenticated
	ユーザーライセンス概要の表示	以下から維承 🤽 authenticated
	フィルター処理なしのログの表示	以下から維承 🤽 authenticated
& authenticated	保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	以下に許可 & <u>authenticated</u>
	ユーザー、ロール、特権の管理	以下に許可 🤽 <u>authenticated</u>

5.3 ユーザーライセンス

ユーザーライセンス タブ(ア部スクリーンションナ)では現在接続されており Mobile Together Server とライセンスされてい るデバイスの精報を表示し、ライセンスのアクティブ化および非アクティブ化をすることができます。

ユーザー ライセンス

使用されているライセンス:7(最大数8)

ライセン	スモード	◎ 自動					
	ID 🜩	ユーザー名	デバイス	バージョン	リクエスト日時	アクティブ	アクティベーション日時
	27	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; nv:46.0) Gecko/20100101 Fire		2016-05-18 09:53:08	v	2016-05-18 09:53:08
	26	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:45.0) Gecko/20100101 Fire		2016-02-22 10:10:27	\checkmark	2016-02-22 10:10:27
	25	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:41.0) Gecko/20100101 Fire		2015-10-20 15:46:01	\checkmark	2015-10-20 15:46:01
	24	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64) AppleWebKit/537.36 (KHTML		2015-06-12 12:55:42	\checkmark	2015-06-12 12:55:42
	23	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64) AppleWebKit/537.36 (KHTML		2015-06-12 12:52:20	\checkmark	2015-06-12 12:52:20
	22	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; nv:38.0) Gecko/20100101 Fire		2015-06-12 12:50:59	\checkmark	2015-06-12 12:50:59
	21	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:38.0) Gecko/20100101 Fire		2015-06-12 12:38:45	\checkmark	2015-06-12 12:38:45
₽ 検索	φ		···································	> > 25 🔻			7件中1-7を表示

保存 選択項目の削除

- Mobile Together Server ライセンスは特定数のデ・ゲスとMobile Together Server の通信を指定された時間で許可します。この数は使用されているライセンスフィーリドに与えられています。例えば、上部のスクレージョントでは、サー・トーは8つのディゲスと通信できるようにライセンスされています。2つのディゲスが接続されており、両方がライセンを持っています、アクティブチェンクボックスが選択されていることによい示されています。)。使用されているライセンスフィーリドに8つ中5つのライセンスが使用されていることが表示されています。)。
- ケライアトデ・イスがサーバーは接続されると、ライセンスモードのオプションが自動(上部スクリーンショナ参照)に設定されて いる場合、自動的にライセンスに割り当てられます。手動に設定されている場合、新しく接続されるモ・イルデ・イスは接続された デ・イスのノストに表示されます。管理者がデ・イスのアクティブチェックボックスをチェックして「保存」をクリックするとライセンスが 与えられます。
- ユーザーライセノスの制限に達すると、これ以上のデ・イストライセノスを与えることはできません。追加デ・イストライセノスを与える ためには、既存のライセノスを非アクティブかしなければなりません。管理者はデ・イスのアクティブ化および非アクティブ化をいつでも 行うことができ、ユーザーライセノス制限を超えることなく新し、デ・イストライセノスをあけえることができます。

ユーザーライセンスのフィールド

以下にユーザーライセンスタブのフィーリドの詳細が説明されています。

- ライセンスモード: 自動は自動的に新しく接続されたデバイスをアクティブ化します。手動は管理者が手動でデバイスをアクティブ化して保存した後にアクティブ化設定の効果が実行されます。
- ID: ライセンスを与えられたデバイスの内部番号
- ユーザー名: クライアント デバイスが接続しログインしたユーザー名。ユーザー名により、クライアント デバイスに与えられる特権が決定されます。
- クライアント IP: クライアント デバイスのIP アドレス
- デバイス・ライセンスをリクエストしたモレイルデバイスまたはブラウザー。
- ノビージョン、クライア・トーデッドイス上のMobile Together Client アプリのレージョン。クライア・トーデッドイス上で発生するデッシグと ラブルシューティングエラーのオータリニクライア・トレージョンを確認することは重要です。
- リクエストの時刻: クライアトかライセンスをリクエストした時刻。
- アクティブ化: アクティブチェックボックスによりライセンスのアクティブ化/非アクティブ化が行われます。「保存」をクリックして変更を 確定します。
- アクティベーション日時: ライセンスがリクエストされたおよびアクティブ化された日時。

検索

「検索」ボタンをクリックして検索ダイアログを開き(下のスクリーンショント)1つ以上のライセンスフィールドを検索します。

快索					×
すべての 🔻 +					
ID	▼ 次	に等しい	•	4	-
ID	• 次	に等しい	•	Samsung	-
ID					
ューザー名 デバイス クライアントのバージョン					検索の
リクエスト日時 アクティブ アクティベーション日時					

- しずれかの/すべてのコンボボックスは、定義されるルールがすべてませましつのルールを満たすかを指定します。
- しずれかの/すべてのすコンボボックスの横「ルールの追加」アイコンは、検索の定義のルールを追加します。
- 各ルールはつのパトか構成されています:(i)ユーザーライセノスフィールド、(ii)リレーションシップの定義、(iii)値。
- 提出された値は、一致を返すために指定されたフィールドの値と同じである必要があります。
- 空白の値のペトは、フィールドの提出された値として空の文字列を使用します。
- 各ルールの横の「値の削除」アイエレオルールを削除します。
- 「検索」は検索を開始します。
- 「リセット」は、すべてのユーザーライセンズを表示します。

5.4 ログ

ログ タブはサーバー設定(誰か何を行ってか)への変更を含むログ済みのアクションを表示します。ブは、ログはダブの上にある選択されたフィル ターゴ従い 表示されます(アのスクリーンショント参照)。(警告とエラーのみでけない)全てのログされたアクションを確認するコゴ<u>設定|ロ</u> ク」⁰⁰⁰ タブご移動して、ログのレベリの詳細がInfo に設定されていることを確認してくたさい。各デザインアクションは関連するログカラム は、以下にすれて表示します:ユーザー名、(関連した詳細をユーザライセンスタブで確認することのできるID によ)職別されている) クライ アントデバイス、デバイス上のMobileTogether Client アプリの、デジョン、デザインが作成されたMobileTogether Designer の、 ジョン、およびシッセージの重要度 (情報、警告、エラー)。

ログビュー	_					
 前回から 7 日を 以下を表示 6 20 	表示 15-10-07 ▼ から(2015-10-14	● 最小重大度: 悟報 ● 表示 す	べて削除	解除: 開始 @ 2015-10-07 = 終7 @ 2015-10-14 =	
₽ 検索 φ				14	<= 3 ページ中 1 ページ目 ➡ ➡ 10 ▼	28 件中 1 - 10 を表
日付 🜩	ユーザー	デバイス	デザイン	重大度	メッセージ	
2015-10-14 10:13:38	root			6	コンテナー // を作成する.	
2015-10-14 10:13:17	root			3	オブジェクト '/a', '/b', '/c'を削除する.	
2015-10-14 10:13:12	root			3	コンテナー「/rを作成する。	
2015-10-14 10:13:06	root			6	コンテナー '/hを作成する.	
2015-10-14 10:12:58	root			()	コンテナー '/gを作成する.	
2015-10-14 10:12:29	root			•	コンテナー //e を作成する.	
2015-10-14 10:12:24	root			6	コンテナー /dを作成する.	
2015-10-14 10:12:19	root			()	コンテナー '/(を作成する.	
2015-10-14 10:12:15	root			•	コンテナー 'ルを作成する.	
2015-10-14 10:12:09	root			6	コンテナー '/aを作成する.	
₽ 検索 φ				14	<< 3 ページ中 1 ページ目 → ► 10 ▼	28 件中 1 - 10 を表

ビューは以下によりフィルターすることができます

- 日付:範囲お台、特定の日付か設定できます。
- *最小重大度:* エラーは最高の重大度です(エラーのみ表示); 警告は次に高い重大度です(エラーと警告のみ表示)。情報は最い重大度で、エラー、警告および情報が表示されます。
- 検索条件: ログテーブルの上部おけて下部の左側の「検索」ボタンをクリックして、(以下に説明される)検索ダイアログを開きます。検索条件により定義されるフィルターを削除するけは「検索」ボタン横「再ロード」アイコンをクリックします。

ログはタブ下部の「全て削除」ボタンをクリックすることまけは、日付範囲を定義して「削除」をクリックすることで削除できます。

ログメッセージの検索

検索ダイアログ(下部スクリーンションナ)にアクセスするコまログテーブル上部ませま下部の左の「検索」ボタンをクリックします(上部スクリーンショント参照)。

検索		×
すべての	▼ +	
日付	▼ 次を含む ▼ 20014-0610 -	
ユーザー	▼ 次に等しい ▼ system -	
• Utor		検索 ク

各検索ルールコよ、検索する 日付 まけま ユーザーなどのフィールド、(含むまた等しいなどの演算子、および植を選択します。新しい 検索ルールを追加するコよ「ルールの追加」 ボタンをクリックします。検索ルールを削除するコよ「ルールの削除」 ボタンをクリックします。 「すべての」セノクター」お指定の上部にあり、全ての検索ルールが個別に満たされた場合のみ検索条件が満たされます。「いずれかの」セノクタ ーは、検索ルールが1 つても満たされているかにより検索条件が満たされたかを指定します。「検索」は検索を開始します。「リセット」をクリックして検索フィルターを削除します。

5.5 キャッシュ

キャッシュは(通常 XML ファイル、おけよ、データベースである) デザインのページノースから生成されたデータファイルです。MobileTogether Designer 内でキャッシュは定義され、 MobileTogether Server 内に保存されます。 キャッシュ内のデータはページノース内にあります。 キャッシュのプロ・ティ内でキャッシュ更新の頻度と時刻は定義されています。

「キャッシュ」タブは現在サーバー上に存在するキャッシュに関する情報を表示し、個別のキャッシュのプロレティを変更することができ、キャッシュの有効化/無効化およびキャッシュの削除を実行することができます。

メモ Mobile Together Designer 内で最初のキャッシュは作成され、Mobile Together Server 上で作成することはできません。 キャッシュの作成に関する情報に関しては、Mobile Together Designer ドキュメノト を参照してください。

メモ キャッシュ(キャッシュディレクトリ、ログミットなど)のためのサーバー設定は設定|キャッシュ⁽¹⁰⁴⁾ タブ内で使用することができます。

説明の表示と利用可能なアクション

サーバー上で現在使用することができるキャッシュ」は名前別にキャッシュに関する情報と共にリストされています(アのスクリーンショットを参照)。キャッシュのリストを展開/折りけませことができます。展開されている場合、キャッシュ」は接続されているページノースがリストされます(データ構造が他のページノースと互換性がある場合、キャッシュ」は複数のページノースは接続することができます)。

++	ッシュの概要			
	名前 🗣	最大キャッ シュエント リ	キャッシュ のサイズの 合計	アクティブ
V •	NEW_CACHE	1	0 KB	V
保存	選択対象の削除			

表示された詳細

次のキャッシュの情報が表示されます

- 名前: Mobile Together Designer 内でキャッシュカ定義される際に名前は与えられ、Mobile Together Server 内で変更 することはできません。
- 最大キャッシュエントリクエリ・ラメータを使用してDBページノースからのデータがキャッシュ」に含まれている場合、キャッシュのための複数のエントリを同時にここで指定される最高キャッシュエントリまで保存することができます。ここで表示される数は、最初のキャッシュエントリの削除される前に、保管されるキャッシュエントリの数値を指定します。この機能は最高値が、おけたきページノースのこの型のみのために使用されます。この数値は、キャッシュの構成、ポタンをクリックした増に表示されるスクリーン内で編集することができます(上のスクリーンショントを参照).
- 最も長い更新:各キャッシュ」は複数回更新することができます。この列は最も長くかかった更新の時間を表示しています。
- キャッシュのサイズの合計:ディスク(おは、他のメディア)上のキャッシュに割り当てられているキャッシュサイズ(すべてのキャッシュ エトリ)です。キャッシュのサイズは自動的に割り当てられます。
- アクティブ キャッシュか現在アクティブかどうかを表示しています。

使用可能のアクション 次のアグションを実行することができます:

- キャッシュの有効化/無効化: アクティブな列内のボックスのチェック/チェックの解除を選択し有効化/無効化します。キャッシュか無効化されていると、サーバー上にメタデータ(プロパティ)が封む存在しますが、キャッシュか削除されると、使用することはできなくなります。設定を確認するために「保存」をクリックします。
- 1つまたは複数を削除する、削除するキャッシュを選択し、「選択項目を削除」をクリックします。キャッシュカ定期的に更新されるように定義されている場合、新規のキャッシュカ次の更新の際に生成されます。
- 最大キャッシュエイリの変更:「構成」をクリックして、表示されるスクリーンの数を変更し、「保存」をクリックします。このオプ ションは、クエリッテメーターを使用してフィリターされているページノースのためにのみ使用することができます。
- キャッシュの更新の頻度と時刻を変更する「構成」をクリックして、頻度を更新し、「保存」をクリックします。
- キャッシュエントリのログのビュー・ログを確認するためにキャッシュエトリを展開します。

5.6 バックアップと復元

ノジックアップと復元 タブコよ、次のMobileTogether Server ファイルを*ノジクアップ、復元*する設定とコントロールを提供する2つのサブタ ブ、バックアップと復元、が含まれています:(i)サーバーデータベースファイル(常にンジクアップされます)、(ii)サーバー構成ファイル、(iii)ソ リューション ファイル (iv) 統計 データベース および(v) サーバーログデータベース。通常の ジクアップのカックスタイムトリガーを設定すること もができます。各バックアップは ジノアップの日時により名前が付けられ個別のフォルダーに保管されます。

バックアップ(フォルダー)からいつでもバックアップされたファイルの河れか、おとよ、全てを復元することができます。

バックアップ設定

ノバックアップタブ(下のスクリーンショット)はバックアップの構成と実行を行う設定とエトロールを提供します。設定を構成した後、バックアップを実行する前に、「保存」クリックします。

バックアップ 復元	
設定のバックアップ	
ディレクトリ: C:\MTBackup	今すぐバックアップ
バックアップファイルを保存することのできるサーバー側のディレクトリを指定します。	
バックアップのカウント: 0 ≑	
保管するバックアップの最大数を指定してください。 '0' は無限を意味します。	
☑ サーバー構成ファイルのバックアップ	
□ ソリューションのバックアップ	
□ 統計データベースのバックアップ	
□ ログデータベースのバックアップ	
ЬШ	
ド ウ ガー	最後のバックアップ 2018-07-18 13:25:00
新しいタイマー	
保存	

次のシシケアソプ設定を構成することができます

- サーバー上のフォルダーコンジクアップされたファイルが含まれています。
- 補完される、シケアップの数量。この数量に達すると、最も古し、シケアップが削除されます。無制限の数の、シケアップを補完するには、、シケアップの数量を0に設定します。、シケアップ フォルダーのサイズを確認して、補完する、シケアップの最大数を決定してくたさい。

- サーバーデータベースファイル(mobiletogether.db)は常に、シグアップされます。追加ファイルをバックアップするコよ型を 確認んしてください。上のスクレーンショナでは、例えば、サーバー構成ファイルは追加でバックアップされます。バックアップを復元す る場合、バックアップ内に存在するすべてのファイルが復元されます。。
- 1つ、おけよ、複数のバックアップのためにタイムトリガーを設定することができます。これを行うには、「新しいトリガー」をクトックして、バックアップのための時刻を設定します。一時的にトリガーを有効化することができ、複数のトリガーを作成することもできます。
- バックアップを構成した後、「保存」をクリックして、設定を保存します。
- 今すく設定されている設定を使用していックアップするコよ「今すぐい、ックアップ」をクリックします。

復元

復元 タブ(下のスクリーンショット)は現在保存されているバックアップを表示します。各バックアップに関してはバックアップされたファイルは チェックマークと共に表示されます(下のスクリーンションケ参照)。

バックアップ 復元						
/后一						
· 假兀 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
เกิด/การณา ว ี่ ≜	サーバー構成ファイ	メインデータ	ログデータベー	統計データベー	ソリューション	
	JL	ベース	ス	ス	ファイル	
2018-07-18 13:25:00						復元
2018-07-18 13:17:00	\checkmark					復元

特定のバックアップを復元するコよバックアップの「復元」ボタンをクリックします。復元するファイルを選択することのできるダイアログが表示されます。選択されたファイルを復元するためにダイアログ内の「復元」をクリックします。サーバー上の他のファイルは影響を受けません。

5.7 設定

「設定」タブにより、MobileTogether Server が作動する多種のアスペクトを構成することができます。キャッシュの設定を含む「キャッシュ」タブは下のスクレーンショントに表示されています。設定を変更する場合、設定を必要に応じて変更してくたさい。変更された設定を反映するためにタブの下にある「保存」ボタンをクリックします。

一般設	定							
ネットワーク	ログ中	LDAP	JWT	キャッシュ	ソース	その他	ライセンスサーバ	-
キャッシ ュ キャッシュ C:\Program キャッシュ キャッシュ 各キャッシュ キャッシュ	ユ 設定: - ディレク nData\Alto .が置かれる - オペレー: /ュ操作のだ - ログリミ	トリ: va\Mobile 5サーバー ション タ こめのタイ ット: 7	Togethe 側ソリコ マイムア ムアウト	erServer\cache\ ユーション作業 うト: 0	ディレクト 秒 限を意味し	リの指定. /ます。		
10.77								
保仔								

このセクションのサブセクションで各タブ内の設定にていて説明されています

- <u>ネトワーク⁹⁴: モゾルクライアトポート、管理者ポート、およびSSL 証明書のナックの</u>設定。
- <u>ログ中</u>¹⁰⁰: ログ中の設定。
- LDAP¹⁰¹:ディレオリサービスログインのオメの設定。
- 認証⁽¹⁰²⁾:他のMobileTogether Server からのユーザーの認証を有効化する設定です。ユーザーの2番目の MobileTogether Server ログインを保存します。
- <u>JWT</u>¹⁰³: JSON Web トーケン(JWT) 認証の設定。
- <u>キャッシュ¹⁰⁰: キャッシュ設定</u>
- その他¹ サーバー統計、サーバーシミュレーション、サーバー上でのワークフローの実行、セッションのタイムアナ、更新のアップグレード、電子メールの設定。
- ソース¹⁰⁰: サーバー側のデータフォルダーのロケーション、サーバー側のデータベース接続の管理。
- LicenseServer¹¹: Altova LicenseServer を使用した登録とライセンス供与。
- 非-WebUI設定:他の設定はMobileTogether Server構成ファイル内で編集可能です。

5.7.1 ネットワーク

「ネットワーク」 タブによりサーバー こアクセスする方法を定義するネットワーク設定を構成することができます(i) クライア・トデバイスによりア クセス(ii)管理者によりアクセス。 クライア・トアクセスにより、デバイスはサーバー こアクセスすることができ、サーバー こデプロイされているノリュー ションを使用することができます。 設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。 す。

▼ も イルクライア・トポート

サードーは接続するためにもドイルデバイスが使用するポート。HTTP ポートはセキュレティ保護なしポート。HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用するははSSL 暗号化 ³³をセットアップする必要があります。サードーが特定のIP アドレス、ませよ 全ての インターフェイスとIP アドレスを使用するかを指定することができます。単一のIP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの2番目の フィールドに入力してください。

モバイル クライアント ポート:		
モバイル クライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択し てください. これらのポートは管理のために使用できません!		
 ✓ HTTP バインドアドレスを有効化する ● 全てのインターフェイス ○ □ HTTPS バインドアドレスを有効化する 	ポート: 8082 🚖	
 ● 全てのインターフェイス ○ ✓ 匿名で自動的にログイン 	ボート: <u>8084</u>	
 □ カスタム化されたログインとインデックスページを値 □ /mt-login を使用して MobileTogether のログインを計 	吏用 午可する	

<u> 匿名として自動的にログインする</u>

選択された場合、ケライアトに自動的にanonymous ⁴⁴ としてログインされます。ログインページがスキップされると、サーバーの最初のページが直接表示されます。最初のページはレートフォルダーを表示する基準のページ、ませま定義されたカスタムページを表示します、次の点参照)。このオプションが選択されていてい場合、ケライアトは適切な資格情報必要とするデフォルトのログインページからログインします。もし、匿名のログインが選択されている場合、対応する特権⁴⁴をanonymous ⁴⁴ のために設定してくたさい。

ユーザーによりカスタム化されたログインとインデックスページ

カスタム化されたログインページと最初のページが使用される場合このオプションを選択します。これにより、自身のエトリポイントをクライアトのためにデザインすることができます。カスタム化されたページを以下のようにセルアップします

- 1. 2つのHTML ページを作成します。それぞれ login.html とindex.html 名前をつけます。
- 2. MobileTogether Server アプリケーションデータフォルダー内にある、インデックス フォルダーにれる2つのファイルを保存します(アのテーブル参照))。イメージファイルとCSS ファイルなどの追加ファイルは、インデックス、フォルダーのサブフォルダーコ保存することがは、でしょう(例えば、static と呼ばれる仮定しましょう)。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
-------	--------------------------------------

Мас	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サンプルログインページとサンプルの最初(index)のページのコードのノストは以下に表示されています。リストは、基本的かつ変更する事が可能です。

```
■ login.html
<!DOCTYPE html>
<html>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store"/>
    <title>Customized Login</title>
  </head>
  <body>
    <div>
      <h1>Sign in</h1>
      A bare-basics custom page for client logins to MobileTogether
Server. Modify this page as required, and use the Static sub-folder to save
CSS stylesheets, images, etc.
      <form method="post" action="/do_login" name="loginform">
        <!-- The user to login -->
         <label for="username">Username:</label>
           <input type="text" name="username" id="username" size="30"/>
           <!-- The password of the user -->
         >
           <label for="password">Password:</label>
           <input type="password" name="password" id="password"</pre>
size="30"/>
           <!-- The Active Directory domain details -->
        <h2>Active Directory Login:</h2>
        >
           <label for="providernameprefix">Domain prefix:</label>
           <input type="text" name="providernameprefix"</pre>
id="providernameprefix" value=""/>
           <label for="providernamesuffix">Domain suffix:</label>
```

```
<input type="text" name="providernamesuffix"</pre>
 id="providernamesuffix" value=""/>
            <!-- The Sign-In button -->
        <input type="submit" value="Sign in"/>
        <!-- The page to redirect to after a successful login. -->
        <input type="hidden" name="from page" value="/index"/>
      </form>
    </div>
  </body>
</html>
index.html 
<html>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
    <title>Custom Index</title>
  </head>
  <body>
    <img alt="Logo" src="/index/static/logo.png"></img>
    <hr/>
    <a href="/do logout">Logout</a>
    <h1>MobileTogether Custom Login</h1>
    <a href='/run?d=/public/About'>Start the About app</a>
    <a href='/run?d=/public/DateCalc'>Start the Date Calculator
 app</a>
    <a href='/run?d=/public/WorldPopulation'>Start the World Population
Statistics app</a>
  </body>
</html>
```

メモ ユーザーがドメインユーザーの場合、ログインの資格情報は以下のような書式になります: domainPrefix@domainSuffix。例:ドメインユーザがsomeUserName@somedomain.altova.comの場合、ドメイン プレフィックスはsomeUserNameでドメインサフィックスは@somedomain.altova.comです。

/mt-login を使用してログインすることを許可する

このオプションは、ログインが、カスタム化されケログインとインデックスページを使用せずに、デフォルトのログインページと最初のページを使用して行われることを指定します。このオプションにより、login.html とindex.html ファイルを保存先に保管しつス、デフォルト ページを使用することができます。クライアントまけはブラウザー設定は、この設定の効果を有効にするケッカに、ブラウザーのキャッシュを削除することを必要とするかもしれないてとに注意してくたさい。

```
▼ 管理者ポート
```

管理者ポートは以下の目的のためこアクセスを提供します

- サーバーのWeb UI は接続して、ユーザーとロール 22などの設定などの管理機能を実行します。
- Mobile Together デザインを(Mobile Together ソリューションとして) サーイにデプロイレます。Mobile Together Designer はデザインをデプロイするオックのMobile Together Server のアドレスとポートを指定する設定があります。

管理者ポート:	
管理者が使用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュ! い。 サーバー構成、ユーザー、ロール、ユーザーライセンスの フローのシミュレーションのためにこれらのポートを使用	リティ保護付き (HTTPS) ポートを選択してくださ 管理、ワークフローのデプロイ、およびワーク することができます。
 ✓ HTTPS バインドアドレスの有効化 ● 全てのインターフェイス ○ 	ポート: 8085 争
 ✓ HTTPS バインドアドレスの有効化 ● 全てのインターフェイス ○ ホストタ・ 	ポート: 8086 🖨
バストム: Altova ServiceController から管理者ページを開く際にホス 明書が一致しない際に表示されるブラウザー警告を回避す	ト名を指定してください。これにより、URL に証 ることができます。

HTTP ポートはセキュリテイ保護なしポート; HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用するコは<u>SSL 暗号化</u>330をセルアップする必要があります。HTTPS ポートを設定し、URL に一致しないSSL 証明書に関する警告を回避するコよ Mobile Together Server 構成ページが開かれるエンピューターのホスト名を指定します。

サードーが特定のIP アドレス、おけよ、全てのインターフェイスとIP アドレスを使用するかを指定することができます。単一のIP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの2番目のフィールドに入力してください。

▼ SSL 証明書

SSL エミュニケーションのオンガニ使用される秘密キーの証明書と公開キーの証明書を指定します。「参照」をクトックして、証明書を含むファイルを選択します(秘密キーのオンガニ 秘密キーを、公開キーのオンガニ証明書を選択します)。詳細に関しては、<u>SSL 暗号のセントア・ブ</u>33 を参照してください。

SSL 証明書:
セキュリティ保護付き (SSL) 通信に必要な秘密キーと証明書を選択してください. セキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを使用するため有効な秘密キーと証明書が必要です. 秘密キー/証明書は PEM フォーマットでなければなりません.
秘密丰一:
参照 ファイルが選択されていません。
証明書:
参照 ファイルが選択されていません。
第三者パーティ <u>Let's Encrypt</u> サービスを使用して安全な (SSL) 通信に必要な自動的に無料の証明書を取 得することができます。 Encrypt サービスを使用するには、HTTP ポート 80 を使用する必要があります。
Let's Encrypt 証明書

Let's Encrypt サービスの無料の証明書を使用するコよ以下の条件を満たす必要がみます。

- MobileTogether Server がポト 80 の外部で表示されている必要があります。これはLet's Encrypt がID を検証するためご使用中のドメイノコンプエンを送信するためです。
- altova.com などの有効なドメイン名の使用は登録のためこ必要です。IP アドレスは許可されていません。
- 使用中のドメインオストがCertification Authority Authorization (CAA) レコードをサポートしている必要が対応す。

HTTP ケライアントポーが80 に設定されると「Let's Encrypt 証明書」ボタン(上のスクリーンションオ参照)が有効化されます。Let's Encrypt 証明書を取得するための詳細を入力する Let's Encrypt 証明書ダイアログをクリックして開きます(下のスクリーンショント)。

Let's E	incrypt 証明書	×
<u>Let's End</u> 取得する す。さら	<u>crypt</u> は無料な第三者パーティのサービスであることに注意してください。週ごとに最高5つの証明書を ることができます。 Let's Encrypt 証明書は 90 日間有効で、2 カ月ごとに自動的に更新することができま 5なる詳細に関しては、Let's Encrypt <u>レート制限</u> を参照してください。	
ドメ イ ン:		
(m 国 名:	nobiletogether.com のように惨かされている下メイン名です。 ドアトレスは計可されていません。)	
(L) 州:	√下のような2文字から構成される国名コード: US, DE, FR, ES, JP, etc)	
市 名: 機		
関: 機関		
ー ニッ ト:		
电子 メー ル:		
 □ 以下 自動更新 これを行 	で自動的に証明書を更新する 00:00 😂 所を有効化することにより、証明書は2カ月ごとに更新されます。 テうことにより、指定された時刻にサービスが再起動されます。	
Let's E	incrypt サービスの <u>利用規約</u> に同意します。	
	無料の証明書の取得 OK キャンセル	

ダイアログ内に、必要とされる詳細を入力し、契約条件ステートメーをチェックします。Let's Encrypt 証明書は20日間有効ですので、Mobile Together Server は証明書を、証明書を取得した日付と同じ日付から2カ月ごとこ自動的に更新するオプションを オファーしています。使用可能にする場合このオプションをチェックしてください。サーバーは証明書の更新が実行されている数秒間使用 できなくなるため、更新の日付の更新時間を選択することもできます。ダイアログが完了すると、「OK」をクリックします。

設定を保存し、変更か反映さえるようゴ保存」ネットワークタブの下のをクルクします。

5.7.2 ログ

ログ タブは Mobile Together Server のログ機能のための設定を提供します。設定を変更する場合、タブの下の保存 をクトックして効果を反映させます。

ログ

Web UI のログ¹⁶² タブに表示されるログはフーケフローのアクティビティのレポートを含みます。ログペインの設定はログのパラメーターを定義します。

ログ中
ログレベルの詳細: エラー ワークフロー実行に使用するログ詳細を選択してください。ログはデフォルトではデータベースに保存さ れ、 <u>ログ</u> ページでアクセス可能です。
ログリミット: 7 🗦 日
ログメモリのリミット: 1024 뵺 MB ログデータベースへ書き込む前に使用することのできるメモリログメカニズム。メモリの最小は 256MB で す。
☑ ファイルにログ ワークフロー トレース特権を持つユーザーにファイルへのワークフロー実行ログを有効化します。 ログファイルは詳細ワークフロー実行情報(作業中 XML を含む)を含んでいます。
C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer\logs
ロクファイルが直がれるサーバー1別のデイレクトリを指定します。

- ログレベルの詳細:詳細は以下により異なります:(I)ログのみのエラー、(ii)ログエラーを警告(iii)(最も詳細な)ログエラー、 警告と情報。
- ログミット:ログの保管期間を指定します。
- ログメモノのノミッナ:ログ DB へのシッセージの書き込みは、ワークフローの実行よりも低い優先順位か与えられています。この結果、ログ DB に直接メッセージは書き込まれませんが、ログ DB にメッセージを書き込むためにワークグローの実行内のギャップが プロセッサー時間を開放するまでメモリ内に保管されます。しかしなから以下の点に注意してください(i)ログ DB に書き込む時

間はありません、(ii) ログコーようされるメモリの量かログメモリミットに達すると、メモリ内の全てのログメッセージは消去されます。 単一のログメッセージは破棄されたメッセージと置き換えられます。ログメモルがアされたことを記録します。(メモルらメッセージを 破棄するタイミングを指定することにより、ログメモリミットのオデンコイによりメモリスペースを作成することができます。それ以外の場 合、処理ロードとメモリロードは、Mobile Together Server 処理を停止する可能性かあります。」ミット値の選択を影響する 要素は以下のとおりです:(i) マンン上のメモリの容量、(ii) ログレベルの詳細。許可されているログメモリミットの最小値は256 MB です。

ログファイル、ファイルへのログオアションが選択されている場合、ワークフローのトレース特権を与えられているユーザーはファイルのログを保存することができます。ログが保存されているディレクトリはファイルディレクトリへのログオプションで指定されています。

5.7.3 LDAP

ディレクトリサービスログイン が有効化されている場合、ドメイン固有のユーザー名と マワードを持つサーバーニューザーかログインすることが できます(アのスクリーンショナを参照してください)。ディレオトリサービスログインの有効化後、ディレオトリサービスからログインのオメス Active Directory ログイン、おけよ ライトウェイト ディレクトリアクセスプロトコル(LDAP)を選択することができます。Microsoft Active Directory はActive Directory ログインを使用します。LDAP オプンコンは、LDAP をサポートする他のディレクトリサービスプ ロッドイダーと共に使用することができます。

ディレクトリサービスログイン:		
☑ 有効化 ディレクトリサービスログインを有効化し	します。	
○ Active Directory ◉ ライトウェイトディレクトリアクセ	スプロトコル クエリ	(LDAP)
ホスト:		
ユーザー:		
パスワード: 変更	••••	
 すべてのドメイン ユーザーにログイン チェックされていない場合[ユーザー ライ メインユーザーのログインを許可する。 注意: ドメイン ユーザーがログインした場 ローへのアクセスを管理することができま 	[,] を許可する (センス]ページの[ド> 給、ワークフロー バ ます。	〈イン ユーザーのインポート]により特定のド ペーミッションを使用して特定のワークフ
デフォルトのログインドメイン: solution サーバーへのログインのためにドメイン名 してください。	ns.mt.altova.com 名のリスト内で最初の	✓)ドメインとして表示されるドメインを選択
 デフォルトとして設定 プロバイダーリストの最初に Active Direct 	tory ログインプロバイ	イダーを強制的にリストする。

<u>LDAP 設定</u>

「変更」をクックして構成し LDAP 設定を編集します。

- (Mobile Together Serverをオストするマンである)ホストの名前とIP アドレスを入力し、ユーザー名と マワードを入力します。
- ユーザー名は、ユーザープレシッツ名(UPN)、おさま、識別名(DN)の書式である必要がみます。UPN はActive Directoryのためにのみ使用することができます。他のLDAP サーバーのために、識別名を使用する必要がみます。
- (LDAP サーバーがサポートする場合) LDAP サーバーへの安全な接続を使用する場合は、SSL チェックボックスを選択します。証明書の使用に関しては<u>SSL 暗号化のセルアップ 33 とネルワークの設定 34 を参照してくたさい。</u>
- メモ 無効な ペワードが 回入力されると、 Active Directory ログインはロックされ、 アカウトをアンロックするためにIT 部署に連絡を 取る必要が 設ます。 Directory Service ログイン設定

<u>Directory Service שלאצ</u>

既存のドメインユーザーコングインを許可するがチェックされていると、既存のユーザーはログインすることができます。チェックされていない場合、 どのドメインユーザーがドメインユーザー機能のインポート¹¹⁰を使用してログインすることができるかを指定することができます。「ユーザーとユー ル|ユーザー」¹¹⁰タブニ移動して、特定のユーザーを Mobile Together Server ユーザーとしてインポートすることができます。許可されて いるドメインユーザーは、通常のロールは対は特権¹¹²⁰に書い当てられることができます。これらの設定が完了すると、許可されているユーザー は Mobile Together Server にコングインするさがゴンメイン固有のログイン情報を使用することができます。

- 既存のドメインユーザー(コウインを許可する Mobile Together Server コロヴインすることのできるドメイン内のすべてのユー ザーです。チェックされていない場合、Mobile Together Server ユーザーとしてドメインユーザーを個別にインポートする必要かあいます。ユーザー¹⁰ タブの「ドメインユーザーのインポート」ボタンを使用してこのインポートを行います。
- デンォルトのログインドメイン:使用することのできるドメインから、最初にリストされるドメインを選択します。このドメインがデンォルトのドメインコンはます。
- デフォルトとして設定する設定されている場合、デルノトリサービスログインのプロレイダーがドメインのドロップダウンリストの最初にリストされます。

新規の設定の効果を反映するために、設定ペインの下の「保存」を押します。

5.7.4 認証

これらの設定によれのMobileTogether Server からのそのサーバーでの認証済みのユーザーはこのMobileTogether Server から 番目のMobileTogether Server にコングインする必要なくソリューションの使用を開始することができます。

MobileTogether Authentication Server:				
Let another MobileTogether server perform the user authentication of web solutions.				
Enable Enable Leader authentication for mobile client port.				
Authentication Host:	127.0.0.10			
Authentication Mobile Client Port:	443			
Audience:	AltovaMTSGroup			

認証をMobile Together Server か現在のものに安全に移動する場合、有効化を選択し、認証設定に移動します:

- 認証ホスン:認証が実行されている Mobile Together Server をホストしているマシンのIP アドレスです。
- 認証モンドノルクライアントポート: これはクライアントデンドイスがサーンドーは接続されているポートです。注意点:(i)両方のサーバーがSSL暗号化³³(HTTPS 接続)を使用しており、(ii)両方のノリューション(呼び出し元、呼び出し先)が匿名のユーザーであること。
- オーディエンス・認証が許可されて、るノリューションのオーディエンスを定義する文字列です。ユーザーを現在の MobileTogether Server (MobileTogether Designer) 上のノリューションに送るノリューションは同じ オーディエンス 文字 列を送信するようこ(MobileTogether Designer 内で) デザインされている必要があます。

5.7.5 JWT

JW T 認証 この設定は埋め込まれたW eb ページノリューションのJSON W eb Token (JW T) 認証を有効化します (アのスクノーン ショメノ)。W eb ページ こノリューションが埋め込まれており、JW T 認証がサーバー上で有効化されていると、ユーザーが Mobile Together Server (コウインせず) ゴ埋め込まれたW eb ページ内にノリューションがロードされます。<u>Mobile Together Designer ドキュメント</u>内の埋 め込まれたW eb ページノリューションの詳細を参照してくたさい。

JWT 認証:	
iframe に埋め込	まれたソリューションのために JWT 認証パラメーターを構成します。
☑ 有効化 JWT 認証をモバ	イルクライアントポートのために有効化します。
秘密:	gQkhVQPKkNYts3CraUsmmF6RyEvTCFnt
オーディエンス	K: www.altova.com
保存	

JW T 認証を有効化した後、2つの設定を定義する必要がみます:

- 秘密:対称キー(共有された秘密)を使用して JW T を作成した場合、共有された秘密キーをここに入力してくたさい。非対称 暗号化(公開、秘密キー暗号化)を使用した場合、公開キーをここに入力してくたさい。この情報により、サーバーは埋め込まれた ソリューションからの最初のGET リクエストから送信された JW T を検証することができます。
- オーディエンス・JWTの作成時にオーディエンスのために入力された文字列と同じ文字列を入力してくたさい(詳細に関して は、the <u>Mobile Together Designer ドキュメント</u>を参照してくたさい)。

設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

5.7.6 キャッシュ

キャッシュ設定は次を指定します:(i)キャッシュファイルが保存されているディレクトリ、(ii)各キャッシュオペレーションのタイムアウト、および (iii)キャッシュログアイテムの表示期間日数。詳細に関しては<u>キャッシュタブ</u>³³⁹を参照してくたさい。

キャッシュ設定:	
キャッシュ ディレクトリ:	
C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer\cache\	
キャッシュファイルが置かれるサーバー側のディレクトリを指定します。	
キャッシュ オペレーション タイムアウト: 0 🗦 秒	
各キャッシュ操作のためのタイムアウト(秒)。 '0' は無限を意味します。	
ログリミットのキャッシュ: 7 🖨 日	

設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

5.7.7 ソース

「ソース」タブにより、以下を行うことができます:(i) ソリューションのデータファイルが保存されるフォルダーを指定する。設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

▼ サーバー側ソリューションの作業ディレクトリ

ソリューションがサーバで実行される場合、この設定は以下を指定します:

- このデザイン内の全ての相対パンのベースURI。デザイン内で、サーバーニデプロイされていないすべてのファイルのパンはこの設定で指定されているディレクトリニ相対して解決されます。例えば、デザイン内のファイルがMTSData\Test.xmlの相対パンマオレスされていて、ファイルがデプロイされていない場合、ファイルはWorking-Directory-Setting-Of-Server>MTSData\Test.xml「ある必要があります。(ファイルがサーバーニデプロイされている場合は、デザインは内部メカニズムを使用してファイルニアクセスします。)
- デザイン内で、ファイルの場所に絶対、なかある場合、この、なは、この設定で指定されている作業ディレトリのサブディレトリであるディレケーリの内部をポイントしていなければなりません。例えば、ファイルは絶対、なC: \MTSData\Test.xml に対してアドレスされている場合、ファイルは、作業ディレケー」がE: \ おさはC: \MTSData.の場合のみアクセスすることができます。

サーバー側ソリューション作業ディレクトリ:

ディレクトリ:

C:\

ソリューションが保存できるサーバー側ディレクトリを指定してください。ソリューションの相対パスの 解決ベースとしても使用されています。

この設定は、ソリューションの実行中のコーカルファイルへのすべての読み込み/書き込みアクセスの制限をします。このディレクトリ内のファ イルのみ、おゴはサブディレクトリのみ、ソリューションの実行のためMobile Together Server からアクセスすることができます。 ▼ サーバー側データベース接続

この設定(アのスクレーンショント)によりデータベース(DB)接続をサーイ、上のDB接続XMLファイルに保存することができます。 サーイー側のDB接続を作成し、ソリューションのDB構造の読み取りアケンコンによりDB内のデータを読み取るために使用することができます(このアクションを定義する方法に関しては、Mobile Together Designer ユーザーマニュアルを参照してくたさい)。

- メモ この設定は次の特権が有効化されている場合のみ表示されます: <u>データベース構造の読み取り</u>51 と<u>サーバー設定の管</u> 理⁵¹。
- メモ この機能(サーバー側 DB 接続)はWindows 固有であるため、Linux ベース おけよ macOS ベースの MobileTogether Server で使用することはできません。

サーバー側のデータベース接続: サーバー側のデータベース接続の定義 サーバー側データベース接続のためのツールを開始します。

新規のサードー側 DB 接続の作成、おけよ、既存の接続を管理するけよ「サーバー側のデータベース接続」をクリックしてくたさい (上のスクリーンショント参照)。表示されるダイアログ内で、「Altova Define Server Side DB Connections」を選択し、「リ ンクを開く」をクリックします。サードーへのアクセスをプロンプトされた場合、入力して、「OK」をクリックします。サードー側のデータベー ス接続の定義 ダイアログが表示されます(アのスクリーンショント)。



サー、・側 DB 接続を作成するコよ 以下を行います:

- 1. 左上名のソールレー内の「DB の追加」ボタンをクリックします(上のスクリーンショント参照)。
- 2. 表示される<u>DB 接続ウィザード</u>内でウィザードのステップに従い新規のDB 選接続を追加します。
- 3. DB 接続が作成されると、ダイアログ内に表示されます。名前をダブルクトグして名前変更を行うことができます。上のスクリ ーシンヨナは、companySales とう名前の接続が作成されたことを表示しています。
- 4. 「サーバーに保存」をクリックして、接続をサーバーに保存します、上のスクリーンショント参照)。接続はすべての定義済 みのDB接続が保存される(サーバー上の) XML ファイルに追加されます。

次の追加アクションが「サーバー側のデータベース接続の定義」ダイアログから実行することができます

- ダイアログ内で選択し、接続を削除し、左上のソール、一内で「削除」ボタンをクトックします。「サーバー」に保存」をクトックして、接続ファイルに変更を保存します。
- 「サーバーからロード」をクリックして、DB 接続ファイルに現在保管されている接続をダイアログリコロードします。
- DB 接続をテストするコよ 選択して「テスト接続」をクリックします。テストの成功と失敗はメッセージウィドウ内に報告されます。
- 「全ての接続のテスト」をクリックして、現在ウインドウトリニ存在するすべての接続をテストすることができます。メッセージン ンドウよ それぞれのテスト結果と共にすべての接続のノストを表示します。

5.7.8 その他

「その他」 タブによりサーバー機能の広範囲の設定が提供されています。 設定を変更した場合、 タブの下の「保存」をクリックして、 変更された設定の効果を反映させることができます。

▼ 統計

サーバーの使用に関する統計は内部 Mobile Together データベースに保管されます。public/admin コンテナー内の新規 Mobile Together Server インストール(バージョン 4.0 ませお以降) 内にある statistics.mtd ファイルを開きこれらの統計を 確認することができます。統計設定(アのスクリーンションイ)により補完される統計の期間を指定することができます。デフォルトの設 定は、統計がトラックされないにとを示す 0 です。

統計	
統計が保存される期間(日数)。統計の収集を無効化するには、 '0' を指定します。	
統計のリミット: 60 🔶 日	
□ タイミングの統計 (これによりサーバーのパフォーマンスが若干落ちる可能性があります)。	

以下の点に注意してくたさい

- MobileTogether Server の新規のインストールの際に、public/admin コンテナーは自動的に作成されます。
 MobileTogether Server のドンシンをアップデートすると、statistics.mtd ワークフローをサーバーに明示的にデプロイする必要があります。全てのコンテナーにデプロイすることができますが、public/admin コンテナーを作成し、そこにデプロイすることが奨励されます。
- statistics.mtd デザインを明示的にデプロイする必要がある場合、MobileTogether Designer インストールの MobileTogetherDesignerExamples/SimpleApps フォルダー内で使用することができます。
- ソリューションを実行すると、内部 Mobile Together Server 統計データベースからデータが読み取られ、データベース内の 統計のグランを買う任することができ、オプションをフィルターし選択することのできるインターフェイスが表示されます。
- ・ ソリューションはデータの4つの主なカテゴを表示しています:(i)サーバーは接続しているユーザ 数。(ii)サーバーは接続されている異なるデバイスの数。(iii)サーバーは送信されるソクエストの数。(iv)サーバー上発生するノリューションの開始数(各ソリューションは複数回開始することができ、各開始は個別の開始として数えられます)。(例えば、特定のノリューション、おけは、デバイズで)追加のフィリターも使用することができます。ソリューションの実行のみかトラックされ、管理リクエストはホラックされないことに注意してくたさい。
- ユーザーカ統計を読み取るためコよそのユーザーのために統計の読み取り⁶⁰⁰特権かチェックされている必要があります。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Мас	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

<u>異なるオペレーティングシステム上でのMobile Together Server AppData フォルダーのロケーション</u>

ソリューションを使用してセオアップする方法に関する詳細は、ソリューションを使用する統計 55 を参照してくたさい。
▼ サーバーでのワークフローのシミュレーション

チェックボックスをチェックすることにより、サーバーでのシミュレーションの実行の特権を与えられているユーザーがサーバーでのフークフロ 一のシミュレーションを行う許可をアクティブ化します。

サーバー上のシミュレーション:

サーバーシミュレーションの実行特権を与えられたユーザーのためのサーバーでのワークフローシミュレーションを有効化する。

☑ サーバー上のシミュレーション

▼ ワークフローの実行

チェックボックスをアクティブ化することには、Webブラウザーからワークフローの実行が行われます。

ワークフローの実行:

Web ブラウザーからのワークフロー有効化

✓ Web ブラウザーからのワークフローの実行

• セッション

新しいログオンが行われるまでのタイムアナ期間を設定します。このタイムアナは管理者アクセスとクライア・トアクセスに適用されます。

セッション:
保管されているセッションデータのための有効期限タイムアウト (分)。
セッションがタイムアウトしました: 15 🔶 分

▼ アップグレードの設定

この設定(アのスクリーンショント)はMobileTogether Server のある、トジョンから高し、トンションへのアップクレードに関連する手順について関連しています。新しいMobileTogether Server バージョンがインストールされるとデフォルトでは全ての重要なサーバ ーファイルとフォルダーが含まれる、シックアップフォルダーが作成されます。
¹⁰。MobileTogether Server インストールをアンインストール すると、これらのMobileTogether Server ファイルとフォルダーイおンステム内に保管されます。後に新規のMobileTogether Server パッケージがインストールされると、<u>MobileTogether Server アプリケーションフォルダー</u>のの作成されたバックアップフォ ルダー内にデータがビーされます。



この設定は、次のアップグレードのオメの自動手なバックアップを無効化します。バックアップフォルダーをいつでも手動で作成することができます。詳細についてはMobile Together Serverをバックアップし復元する方法⁶¹を参照してくたさい。

▼ 電子メールの設定

これらの設定によりサードを介してエドューザーご電子メールを送信することができます。通常、ソリューションは、サードーから電子メー ールを送信する「電子メールの送信」アウションをトリガーするイベトを提供します。サードーから電子メールを送信するコは、電子メ ールサービスプロドイダー(通常使用中のISP)のSMTPサードーへのアクセスが必要しています。SMTPサードーの設定はこの ペインに入力されます(下のスクリーンションチ)

送信のための設定を構成する	5.	
smtp.gmail.com		
587	-	
\checkmark		
altovauser		
••••••		
,		
	送信のための設定を構成する smtp.gmail.com 587 シ altovauser •••••••	送信のための設定を構成する。 smtp.gmail.com 587 マ altovauser •••••••

- SMTP ホスト とSMTP ポーナ: ISP のSMTP サーメーのSMTP ホスト名とSMTP ポートです。詳細は使用中の ISP に以提供されます。
- SSL の使用: SSL が使用されるかを指定します。
- ユーザー名となワード:電子メールサービスプロバダーに登録されているアカウトのユーザー名となワードです。

5.7.9 LicenseServer

Mobile Together Server はネトワーク上で Altova License Server に登録されている必要があります。License Server 設定は 接続する License Server マンを指定し、Mobile Together Server を License Server に登録することができます。ライセンスの供 与に関しては、Mobile Together Server セトアップ ¹³ のセクションを参照してくたさい。設定を変更した場合、タブの下の「保存」を クトックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

icenseServer		
localhost		
LicenseServer により登録	ライセンスの取得	
✔ サーバーは LicenseServer(こ登	縁されており、ライセ	こンスが取得されています。

- ネットワークでLicenseServersを検索するコよ「検索」ボタンをクリックしてください。検出されたLicenseServersがドロップダウンリストとしてコンボボックスに表示されます。このリストから接続を希望するLicenseServerを選択します。
- サーバーアドレスを入力するコは「アドレスを手動で入力」ポタンをクリックして、サーバーのアドレスを入力してくたさい。

LicenseServer が後出されると、「LicenseServer への登録」が有効化されます。LicenseServer にMobileTogether サーバ ーを登録するポタンをクリックします。「ライセンスの取得」をクリックして、LicenseServer へ移動し、MobileTogether Server にライ セノを与えます。

5.7.10 構成ファイル設定

効果を理解している場合のみ変更されない、おさよ、変更される必要があるさめ、設定の一部はWebUI(前のセクション参照)内で行う ことはできません。これらの設定はデフォルトでアプリケーションデータフォルダー内にあるmobiletogetherserver.cfgとう名前の構成ファイル内に保管されています(以下参照)。.cfg構成ファイルをテキストエディター内で編集することができます。このセクションには構成 ファイル内で追加/編集するために安全な重要な設定に関する情報が含まれています。

アプリケーションデータフォルダーのロケーションはオペレーティングシステムとプラオ・フォームにより異なりますが、デフォルトでは以下のようしな ります。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Мас	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サーバーを介して送信されるデータファイルのサイズ「ミット

サードーはデフォルトで100 MB までの大きさのファイルを受け入れるように設定されています。これより大きなファイルは拒否されます。100 MB よりも大きなファイルが期待される場合、構成ファイル内のリッズンとListenSSL セクション内のmax_request_body_size 設 定を指定してサイズトミットを増量することができます。 下のノスティング内では、サーインが200 MB までの大きさのファイルを受け入れられる ようにサイズが増量されています。

[Listen] host=0.0.0.0 port=8084 active=1 ssl=0 admin=0 max_request_body_size=209715200

[ListenSSL] host=0.0.0.0 port=8084 active=1 ssl=1 admin=0 max_request_body_size=209715200

メモ max_request_body_size のデフォルトの値は構成ファイル内で設定がリストされていない場合でも104857600(100 MB)です。

<u>サーバータイムアオ</u> サーバーのデフォルトのタイムアナトは10秒です。これが低すぎる場合、timeout設定を使用して更に高いタイムアナ値を秒で設定する ことができます。 timeout設定が不足している場合、ませまく 1の場合、デフォルトのタイムアナである10秒が使用されます。

[Listen] host=0.0.0.0 port=8084 active=1 ssl=0 admin=0 max_request_body_size=209715200 timeout=300

[ListenSSL] host=0.0.0.0 port=8084 active=1 ssl=1 admin=0 max_request_body_size=209715200 timeout=300

6 MobileTogether Server コマンドライン

実行可能ファイルのロケーション

このセクションで説明されているコマンド呼び出し実行する Mobile Together Server 実行可能ファイルのデフォルトの場所は以下の通りです。

Linux	/opt/Altova/MobileTogetherServer/bin/mobiletogetherserver
Мас	/usr/local/Altova/MobileTogetherServer/bin/mobiletogetherserver
Windows	<programfilesfolder>\Altova\MobileTogetherServer\bin\MobileTogetherServer.exe</programfilesfolder>

使用方法

コマボライン構文は以下の通りです

mobiletogetherserver --h | --help | --version | <command> [options] [arguments]

- --help(短縮形 --h)は与えられたコマボのソルプラキストを表示します。コマボに名前がは、場合、実行可能ファイルの全てのコマボカロマボの短い説明と共にリストされます。
- --version はMobileTogether Server の ージョン番号を表示します。
- <command> は実行されるコマドです。このセクションのサブセクション内でコマドについて説明されています(のリストを参照してくたさい)。
- [options] はマイのオブランです。これらのコマイははストされ、対応するコマイと共に説明されています。
- [arguments] はコマドの別数です。これらのコマドはおしてされ、対応するコマドと共に説明されています。
- ▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上のMobileTogetherServer Windows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、 すが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では ジックスラッシュを使用します。

CLI コマンド

使用可能なコマイは下にリストされており、このセグタンのサブセクションで説明されています。

- <u>addtorole</u>⁽¹¹⁵: <u>Mobile Together Server ロールプレシッ りを追加します。</u>
- <u>applicationid</u>¹¹⁶:アプリケーションID を返します。
- assignlicense
 LicenseServer にライセンスをアップロードし、MobileTogether Server にライセンスを割り当てます。
- <u>createcontainer</u>¹¹⁹: ルートまけま既存のコンテナー内に新規のコンテナーを作成します。
- <u>createrole</u>²:新規のMobileTogether Server ロールを作成します。
- <u>createuser</u>⁽¹²²⁾:新規のMobileTogether Server ユーザーを作成します。
- <u>debug</u>⁽²²⁾: MobileTogether パッケージを(.mtp ファイル)をMobileTogether Server にデプロイレます。
- <u>deploy</u>²²³: MobileTogether パッケージ(.mtp ファイル) を MobileTogether Serverにデプロイレます。
- <u>exportresourcestrings</u> ²²: XML ファイルに全てのリノース文字列をエクスポートします。

- help⁽¹⁰⁾: 引数内に送信されたコマンドに関する情報(おける)|数が送信されていない場合すべてのコマンドに関する情報)を表示します。
- install⁽³³⁾: Mobile Together Server をサービスとしてインストールます。
- <u>licenseserver</u>¹¹: ローカルネトワーク上のLicenseServer にMobileTogether Server を登録します。
- resetpassword¹²³: Mobile Together Server の管理者インターフェイスのマワードを地上ます。
- <u>setdeflang</u>⁽¹⁵⁾: MobileTogether Serverのデフォルトの言語を設定します。
- <u>start</u>¹³³: Mobile Together Server をサービスとて開始します。
- <u>uninstall</u>⁽¹³⁾: Mobile Together Server をサービスとてアンインストールます。
- upgradedb⁽⁴⁰⁾:内部MobileTogether Server データベースを新規のMobileTogether Server バージョンに更新し正し しデンオルの値を挿入します。
- <u>verifylicense</u>¹¹¹:現在のMobileTogether Server にライセンスが供与されているかをチェックし、任意で、与えられたライセンスキーと共にライセンス供与されているかを確認します。
- version⁽¹⁴²⁾: MobileTogether Server の ージョン番号を表示します。

6.1 addtorole

構文と説明

addtorole コマドは送信されたプレンハッル(ユーザーおけコロール)を指定されたロールに追加します。ロールに対するプレンハッルのノル ーションシップのオメックトピック <u>ロールのの</u>を参照してくたさい。

mobiletogetherserver addtorole [options] Role Principal

- Role 引数は必須で、送信されるプレシッツは追加される Mobile Together Server ロールの名前を指定します。
- Principal 引数は必須で、指定されるロールに追加されるプレシットの名前を送信します。
- --h, --help
 オブシンを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字(mobiletogetherserver) はすべてのプラオフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では、シクスラッシュを使用します。

サンプル

addtorole コマドのサンプル

mobiletogetherserver addtorole Legal Tech-01

• コマドはとLegal い名前のロールにTech-01 とら名前のプレシッ 別を追加します。

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.2 applicationid

構文と説明

applicationid コマドはMobileTogether アプケーションのID を表示します。

mobiletogetherserver applicationid [options]

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラオフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではオックスラッシュを使用します。

サンプル

applicationid コマドのサンプル

mobiletogetherserver applicationid

• アプケーションid を返します。

オプション --h, --help オプションを使用してコマイドに関する情報を表示します。

6.3 assignlicense (Windoows のみ)

構文と説明

assignlicense コマドはWindows 上のみで使用することができます(Linux おされac システム上では使用することができません)。MobileTogether Server が登録されている Altova LicenseServer にライセンスアイルをアップロードし、MobileTogether Server にライセンズを割り当てます(licenseserver コマドを参照してくたさい)。ライセンスの びを引数として取ります。コマドによりライ センスの有効性をテストすることができます。

mobiletogetherserver assignlicense [options] FILE

- FILE 引数はライセノスファイルの ひを取ります。
- --test-only オプローイは License Server にライセスをアップロードし、ライセスを検証しますが、 Mobile Together Server にライセスを割り当てません。

ライセンス 関する詳細は LicenseServer ドキュメトを確認してくたさい (https://www.altova.com/manual/ja/AltovaLicenseServer/)。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字(mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではメックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内で スペース おけば特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合かあります。これは シクスラッシュ文字がエスケーデンーケンスの 開始を示すためであり、エスケーデンーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前につ シクスラッシュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースおけお シクスラッシュを含むファイル ひを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

例

assignlicense コマドのサンプル

mobiletogetherserver assignlicense C:\licensepool\mylicensekey.altova_licenses
mobiletogetherserver assignlicense --test-only=true C:
\licensepool\mylicensekey.altova_licenses

- 上記の最初のコマドはLicenseServer に指定されたライセンをアップロードし、MobileTogether Server に割り当てます。
- 最後のコマドはLicenseServerに指定されたライセンスアップロードし、MobileTogether Serverに割り当てることに検 証します。

オプション

(使用できる場合)オプションは短いおよび長い書式でリストされています。短いおよび長い書式のカックコークまけよりつびッシュを使用することができます。オプションは植を取る、おけよ、取らよい場合があります。値をとる場合、以下のようしています: --option=value。値は引用符無して2つの場合で指定することができます: (i)値文字列にスペースが含まれる場合。おけよ、(ii)引用符が必要とするオプションの説

明内で明示的に指示されている場合。オプションがブール値の値を取り、ブールの値が指定されていたい場合、オプションのデフォルトの値は TRUE です。 --h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

test-only [t]

--t, --test-only = <mark>true|false</mark>

値はtrue false です。true の場合、License Server にライセンスアイルがアップロードされ、検証されますが、割り当てられることはありません。

6.4 createcontainer

構文と説明

createcontainer コマドは関め内で名前の付けられた場所にコンテナーを作成します。

mobiletogetherserver createcontainer [options] Path

- Path 引数は作成されるコンテナーへのレトコンテナーから開始する、やです。例、/public/contacts/personal。全ての祖先コンテナーが存在する必要があります。例、前の、や内で与えられたpersonal コンテナーを作成するは、コンテナー/public/contacts/か存在する必要があります。
- --h, --help オプションを使用してコマンドロ必要な情報を表示します。
- ▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字(mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではメックスラッシュを使用します。

サンプル

createcontainer コマドのサンプル

mobiletogetherserver createcontainer /public/contacts/personal

• コマイはpersonal コンテナーをコンテナー/public/contacts の子とて追加します。

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.5 createrole

構文と説明

createrole コマイはMobileTogether Server ロール でを作成し、Privileges 引数で指定されている特権をこのロールに割り当てます。

mobiletogetherserver createrole [options] Role [Privileges]

- Role 引数は作成される Mobile Together Server ロールの名前です。
- Privileges 引数はロールに与えられる特権のエンマで区切られたりていてす。
- --h, --help オブシンを使用してコマドに関する情報を表示します。

▼ 特権の/スト

ロールは割り当てる特権を入力します。これらの特権に関する詳細は、ロールでを参照してくたさい。

- maintain-users
- set-own-password
- override-security
- allow-store-password
- view-log
- view-cache
- view-licenses
- read-users
- manage-settings
- trace-workflow
- read-statistics
- read-dbstructures
- read-globalresource
- write-globalresource
- open-workflow-from-designer
- save-workflow-from-designer
- run-server-simulation

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラオフォーム(Windows、Linux、およびMac) で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では、シクスラッシュを使用します。

サンプル

createrole コマボのサンプル

mobiletogetherserver createrole MyNewRole maintain-users, set-own-password, override-security

• コマドは maintain-users, set-own-password, override-security 特権を持つMyNewRole とら名前 の新規のコールを追加します。

オプション

--h, --help オブィンを使用してコマドに関する情報を表示します。

6.6 createuser

構文と説明

createuser コマドは Mobile Together Server ユーザー²⁰を作成し、このユーザーに初期の マワードと特権を割り当てます。

mobiletogetherserver createuser [options] User Password [Privileges]

- User 引数は作成される Mobile Together Server ユーザーの名前です。
- Password 引数はこのユーザーの最初の タワードを設定します。この引数は必須です。
- Privileges 引数は任意です。ユーザーに与えられる特権のカンマで区切られたリストです。
- --h, --help オブシンを使用してコマイに関する情報を表示します。

▼ 特権のスト

ロールは割り当てる特権を入力します。これらの特権に関する詳細は、ロールでを参照してくたさい。

- maintain-users
- set-own-password
- override-security
- allow-store-password
- view-log
- view-cache
- view-licenses
- read-users
- manage-settings
- trace-workflow
- read-statistics
- read-dbstructures
- read-globalresource
- write-globalresource
- open-workflow-from-designer
- save-workflow-from-designer
- run-server-simulation

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

*小文字(mobiletogetherserver)はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer)はWindowsとMacのみで使用することができます。 *LinuxとMac 上ではスラッシュを使用し、Windows上ではメックスラッシュを使用します。

サンプル

createuser コマドのサンプル

mobiletogetherserver createuser NewUser NewUserPwd
mobiletogetherserver createuser NewUser NewUserPwd maintain-users,set-ownpassword,override-security
mobiletogetherserver createuser --change_password_on_next_login=true NewUser
NewUserPwd

mobiletogetherserver createuser --passwordpolicy=PolicyName NewUser NewUserPwd

- 最初のコマドは最初のマワードを持つ新規のユーザーを作成します。
- 2番目のコマドは最初のマワードを持つ新規のユーザーを作成し、このユーザーコンの特権を割り当てます。
- 3番目のコマドは最初の マワードを持つ新規のユーザーを作成します。最初の マワードはユーザーがログインする際に変更される必要があります。
- 4番目のコマイは最初の マワードを持つ新規のユーザーを作成します。<u>パマワードポルシー⁽³¹⁾</u>を使用してこのユーザーの マワードを変更します。

オプション

(使用できる場合) オプロンは短いおよび長い書式でリストされています。短いおよび長い書式のためコークおけお つのがシュを使用すること かできます。オプロンは値を取る、おけよ、取らない場合かあります。値をとる場合、以下のようしています: --option=value。値は月 用符無して2つの場合で指定することができます: (i) 値文字列にスペースが含まれる場合。おけよ (ii) 引用符が必要とするオプロンの説 明内で明示的に指示されている場合。オプロングブール値の値を取り、ブールの値が指定されていない場合、オプロンのデフォルトの値は TRUE です。 --h, --help オプロンを使用してコマンドに関する情報を表示します。

change_password_on_next_login

--change_password_on_next_login = true | false このオプタイオユーザーが、回のログインで、ペワードを変更するかを決めます。デフォルトは、すなオキオプションが指定されていない false です。

passwordpolicy

--passwordpolicy = Policy このユーザーの マワードのかりご従う必要のある マワードポルシーを設定します。 パマワードポルシーの作成に関する詳細は、トピックパ スワードポルシー⁸¹を参照してくたさい。

6.7 debug

構文と説明

debug コマナドはデバッグのオメの Mobile Together Server をサービスとしてではよく開始します。このモードでの Mobile Together Server を停止する コよ「Ctrl+C」を押します。

mobiletogetherserver debug [options]

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラオフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではオックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での シクスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内 でスペース おけお特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合がおります。これは シクスラシュ文字がエスケープノーケンスの 開始を示すためであり、エスケープノーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前につ シクスラジュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースおけお シクスラジュを含むファイル ジを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

サンプル

debug コマドのサノプル

mobiletogetherserver debug

6.8 deploy

構文と説明

deploy コマンドはMobileTogether パッケージ(.mtp ファイル)をMobileTogether Server にデプロイレます。MobileTogether パッケージがMobileTogether Designer 内で作成されるとパッケージ内でデプロイパタを作成することができます。これは必須ではありません。デプロイコマンドの引数はこの点を考慮します。

mobiletogetherserver deploy [options] Package [Path]

- Package はデプロイする Mobile Together パッケージへの 欠を指定します。
- Path (任意) は ッケージをデプロイするサーバーの場所を指定します。 引数が指定され、 パッケージ こデプロイパンか 含まれている 場合、 コマンドライン は提供されている いか 使用されます。 引数が 与えられてい なく、 パッケージ こデプロイパンか 含まれてい ない 場合、 関連したエラーシッセージ が 表示されます。
- デプロイ先に同じ名前を持つパッケージが既存で、上書きする場合 force オプションを使用します(下を参照)。デプロイ先で パッケージが既存で force 引数が指定されていない場合、関連するエラーメッセージが表示されます。

メモニのコマドが実行される前にサーバーを停止する必要があります。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では シックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内でスペース おけお特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合かおります。これは シクスラシュ文字がエスケープノーケンスの 開始を示すためであり、エスケープノーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前に ジクスラシュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースおけま シクスラッシュを含むファイル ジを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

サンプル

deploy コマイのサノプル

```
mobiletogetherserver deploy "C:\temp\ParcelDelivery.mtp"
mobiletogetherserver deploy --force "C:\temp\ParcelDelivery.mtp"
mobiletogetherserver deploy "C:\temp\ParcelDelivery.mtp" "/public/ParcelDelivery"
"/public/ParcelDelivery"
```

オプション

--h, --help オプィンを使用してコマンドに関する情報を表示します。

datadir

--datadir = PathToDatabaseDirectory

データベースディレクトリクの少を指定します。

force

--force

このオプランの指定されていると(deploy コマイドにより) デプロイされる Mobile Together パッケージが deploy コマイドにより使用されているデプロイパンにより指定されている場所にある同じ名前のパッケージを上書きします。デプロイパンはパッケージから取られる、 おける Path 引数内で指定されています(上記参照)。forceをこのシチュエーションで使用しない場合、パッケージが指定されるデプロイ場所に既存であることを示すエラーが表示されます。

6.9 exportresourcestrings

構文と説明

exportresourcestrings コマドは特定の言語内のMobileTogether Server アプケーシュンのリノース文字列を含むXML ファイルを出力します。使用することのできる言語は英語(en)、ドイン語(de)、スペイン語(es)、フランス語(fr)、と日本語(ja) で す。

mobiletogetherserver exportresourcestrings [options] LanguageCode XMLOutputFile

- LanguageCode 引数は出力 XML ファイル内のノース言語の言語を与えます。これはエクスポート言語です。許可されてしるエクスポート言語は以下の通りです(それぞれの言語コードがかって囲まれてします):英語(en)、ドイン語(de)、スペイン語(es)、フランス語(fr)、と日本語(ja)。
- XMLOutputFile 引数は出力 XML ファイルの なと名前を指定します

ローカルビーションの作成方法は以下のとおりです。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字(mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではメックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内で スペース おけお特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合かおります。これは シクスラシュ文字がエスケープシーケンスの 開始を示すけっかであり、エスケープシーケンス ¥ は二重引用符文字を示すけっかです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前に ジクスラシュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースおけま シクスラッシュを含むファイル ジを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

例

exportresourcestrings コマドのサノプル

mobiletogetherserver exportresourcestrings de c:\Strings.xml

• 上ののコマド はMobile Together Server のドイン語リソース文字列を含む Strings.xml と呼ばれるファイルを c: \ に 作成します。

MobileTogether Server のローカライズされたシージョンの作成

選択された言語でMobileTogether Server のローカライズされたシーンシンを作成することができます。5つのローカライズされたシーンシン (英語、ドイン語、スペイン語、フランス語、および日本語) はC:\Program Files (x86) \Altova\MobileTogetherServer\bin フォルダー内で使用することができなけな、作成する必要はありません。

ローカライズされたバージョンを以下のように作成します

1. export resourcestrings コマボを使用してリノース文字列を含むXML ファイルを作成します(上記のコマンド構文を 参照してくたさい)。このXML ファイル内のリノース文字列はサポートされる以下の5つの言語のひとつです:コマンドと共に使用 されるLanguageCode 引数に従い英語(en)、ドイン語(de)、スペイン語(es)、フランス語(fr)、おけは本語 (ja)。

- 2. 5つのサポトされる言語の「つからのリノース文字列からターゲト言語に翻訳します。リノース文字列はXML ファイル内の <string>要素のエンテンツです。{option} おは{product} などの、中から二内の変数は翻訳しないでたきい。
- 3. ローカライズされた Mobile Together Server DLL ファイルを翻訳された XMLファイルから生成するために、Altova サポート に連絡してくたさい。
- 4. <u>Altova サポー</u>からローカライズされたDLLファイルを受信すると、DLLをC:\Program Files (x86)\Altova\<% APPFOLDER\bin フォルダー内に保存します。DLLファイルはフォームMobileTogetherServer2021_1c.dllの名 前を持ちます。名前の_1c部分には、言語コードが含まれています。例えば、MobileTogetherServer2021_de.dll では、de の部分はドイン語(Deutsch)のための言語コードです。
- 5. setdeflang コマボを実行し、使用する Mobile Together Server アプリケーションと同様 コーカライズされた DLL ファイ ルを設定します。setdeflang コマボの引数のために、 DLL 名の一部である言語コードを使用してください。
- メモ Altova MobileTogether Server はっつ言語のナダのサポーを提供しています:英語、ドイン語、スペイン語、フランス語、および 日本語。これらの言語のユーカライズされナット・ジョンを作成する必要はありません。これらの言語をデフォリトの言語とて設定す るコよ、MobileTogether Server のsetdeflang コマイドを使用します。

6.10 grant

構文と説明

Grant コマドは特定のコンテナーのためにどの、トミッションカプレシットリ(ユーザーおけコロール)を持つかを設定します。このコマドが実行される前にサート、を停止する必要があります。

mobiletogetherserver grant [options] Principal Path Container Workflow Security

- 5個の引数は必須です。
- プリンシッパルはパーミッションの割り当てられるユーザーおけコロールを指定します。サーバー上でプレンンりを定義する必要があります。
- パーミッションカ割り当てられるパスはエンテナーへのパンを指定します。コンテナーへのパンはディレクトリのルートから開始する絶対 パンである必要があります。
- コンテナーはコンテナーのトミッションレベルを指定します(読み込み-書き込み | 読み取り | 継承 | 無し)。
- ワークフローはワークフローのトミッションレベルを指定します(読み込み-書き込み-使用 | 読み込み-使用 | 継承 | 無し)。
- セキュリティはプレシハ りはコンテナーのセキュー」「ティ設定に対して持つアクセスのレベルを指定します(読み込み 書き込み | 読 み込み | 継承 | 無し)。

メモ パーミッションの値の説明に関してはワークフロー パーミッション」 600を参照してくたさい。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

*小文字(mobiletogetherserver)はすべてのプラオフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer)はWindowsとMacのみで使用することができます。 *LinuxとMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内でスペース おけお特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合がおります。これは シクスラシュ文字がエスケープノーケンスの 開始を示すためであり、エスケープノーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前に シクスラシュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースおけお シクスラッシュを含むファイル やを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

サンプル

grant コマイのサンプル

mobiletogetherserver grant tech-01 /public/contact read-write read-write write mobiletogetherserver grant tech-02 /public/contact inherit inherit inherit mobiletogetherserver grant tech-03 /public/contact read read-use none

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.11 help

構文と説明

```
help コマイは、ヘルプを必要とするコマイの名前である単一の引数(command)を取ります。コマイの構文、オプション、および他の関連する情報を表示します。Command引数が指定されていない場合、説明と共に実行可能ファイルのすべてのコマイがリストされます。
```

mobiletogetherserver help Command

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではオックスラッシュを使用します。

例

help コマドのサノプルはlicenserver コマドに関する情報を表示します:

mobiletogetherserver help licenseserver

-help オプション

へにプ情報が必要とされるコマドの--help オプションを使用してへいプ情報を使用することもできます。下の2つのコマドは同じ結果を生成します:

mobiletogetherserver licenseserver --help

上記のコマドはlicenseserver コマドの--help オプションを使用します。

mobiletogetherserver help licenseserver

help コマドは関とてlicenseserverを取ります。

両方のコマドはlicenseserverコマドに関するへいプ情報を表示します。

6.12 install

構文と説明

install コマドはMobileTogether Server をサービスとしてサーバーマシンにインストールします。

mobiletogetherserver install [options]

- Mobile Together Server をサービスとしてインストールしても、サービスは自動的に開始されないことに注意してください。サービスを開始するけない、start コマンドを使用します。
- MobileTogether Server をサービスとしてアンインストールするコよ uninstall コマンドを使用します。
- --h, --help オプロンを使用してコマンドの情報を表示します。
- ▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

*小文字(mobiletogetherserver)はすべてのプラオフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer)はWindowsとMacのみで使用することができます。 *LinuxとMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では、シックスラッシュを使用します。

サンプル

install コマイのサンプル

mobiletogetherserver install

6.13 licenseserver

構文と説明

1icenseserver コマイはMobileTogether Server をServer-Or-IP-Address 引数によ指定されているAltova LicenseServer を使用して登録します。1icenseserver コマイド実行されるけよ、2つのサーバー(MobileTogether Server と LicenseServer)が同じネルワーク上で作動しておりLicenseServer が作動している必要があります。MobileTogether Server を LicenseServer と登録する管理特権が必要になります。

mobiletogetherserver licenseserver [options] Server-Or-IP-Address

Server-Or-IP-Address 引数は、LicenseServer マンの名前、おけま IP アドレスを取ります。

MobileTogether Server がLicenseServer へ登録されると、この件は関連するメッセージを受け取ります。メッセージは LicenseServer のURL も表示します。LicenseServer に移動して、MobileTogether Server にライセンスを割り当てることもでき ます。ライセンスに関する詳細は LicenseServer ドキュメーを確認してくたさい (https://www.altova.com/manual/ja/AltovaLicenseServer/)。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラオフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができます。 すが、小文字 (Mobile TogetherServer) はWindows と Mac のみで使用することができます。 * Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では ジクスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル、およし フォルダー名、企業名、およし、個人、およし、製品名内で スペース およば特別文 字がう文字列内で発生すると引用符を使用してください 例えば "My File"。しかしながら、二重引用符の後の ジクスラジュ (例えば、 "C: \My directory\") は正確に読み取られない場合がおります。これは ジクスラジュ文字がエスケープンーケンスの 開始を示すためであり、エスケープンーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、 以下のようご前につ ジクスラジュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースまけまか ジクスラジュを含むファイル ひを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C: \My Directory\"。

例

licenseserver コマイのサノプル

mobiletogetherserver licenseserver DOC.altova.com
mobiletogetherserver licenseserver localhost
mobiletogetherserver licenseserver 127.0.0.1

上記のコマドは、それそれ DOC.altova.com とう名前のマシンとユーザーのマシン(localhost と127.0.0.1)を Altova License Server を作動するマシンとて指定します。双方の場合、指定されているマシン上の License Server を使用してコマドは Mobile Together Server を登録します。最後のコマドは、コマドを実行するためにサード実行可能ファイルを呼び出します。

オプション

(使用できる場合)オプションは短いおよび長い書式でリストされています。短いおよび長い書式のためコークおうおつのダッシュを使用すること ができます。オプションは値を取る、おうよ、取らない場合かあります。値をとる場合、以下のようしています:--option=value。値は引 用符無して2つの場合で指定することができます:(i)値文字列にスペースが含まれる場合。おうよ、(ii)引用符が必要とするオプションの説 明内で明示的に指示されている場合。オプションカザール値の値を取り、ブールの値が指定されていない場合、オプションのデフォルトの値は TRUE です。--h, --help オプシンを使用してコマイに関する情報を表示します。

🔹 json [j]

--j, --json = true false 値はtrue false です。true の場合、マシン解読可能な JSON オブジェクトとて登録の結果を出力します。

6.14 resetpassword

構文と説明

resetpassword コマンドはのシワードをデフォルの値(ルート)にルケルし、root ユーザーに全ての特権を与えます。 MobileTogether Server の作動中のインスタンスはこの操作を行う前に停止される必要がおります。

mobiletogetherserver resetpassword [options]

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラオフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では シックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内でスペース おけお特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合がおります。これは シクスラシュ文字がエスケープノーケンスの 開始を示すためであり、エスケープノーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前に シクスラシュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースおけお シクスラッシュを含むファイル ジを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

サンプル

resetpassword コマンドのサンプル

mobiletogetherserver resetpassword --datadir=C:
 \ProgramData\Altova\MobileTogetherServer\mobiletogether.db

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

datadir

--datadir = PathToDatabaseDirectory データベースディレクトリトの 父を指定します。

6.15 setdeflang

構文と説明

setdeflang コマボ (sdl と略される) は MobileTogether Server. のデフォルトの言語を設定します。英語 (en)、ドイン語 (de)、スペイン語 (es)、フランス語 (fr)、および日本語 (ja)を使用することができます。コマンドは必須の LanguageCode 引数を取り ます。

mobiletogetherserver setdeflang [options] LanguageCode

- LanguageCode 引数が必須で、MobileTogether Server のデフォルトの言語を設定します。対応する値は以下の通りで す:en, de, es, fr, ja.
- --h, --help オプションを使用してコマンドの情報を表示します。
- ワークフロー内のサーバーソリューションの言語設定⁶⁶⁰ タブを使用して個別のサービスソリューションの言語を指定します。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では ジックスラッシュを使用します。

例

setdeflang (sdl) コマトのサノプル

mobiletogetherserver sdl de mobiletogetherserver setdeflang es

- 最初のコマナ Mobile Together Server のデフォルの言語をディン語に設定します。
- 2番目のコマドはMobileTogether Server のデフォルの言語をスペイン語に設定します。

オプション <mark>--h, --help</mark> オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.16 setpassword

構文と説明

setpassword コマイはユーザーの マワードを設定おけませんします。このコマイカ実行される前にサーバーを停止する必要がみます。

mobiletogetherserver setpassword [options] User Password

- 両方の引数は必須です。
- ユーザーは、マワードが割り当てられるユーザーを指定します。サーバー上でユーザーを定義する必要があります。
- Password は前の引数で名前の付けられているユーザーに割り当てる新規のマワードを設定します。
- ▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

*小文字(mobiletogetherserver)はすべてのプラオフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer)はWindowsとMacのみで使用することができます。 *LinuxとMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では、ジクスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内 でスペース おけは特別文 字かり文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラジュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合がおります。これは シクスラジュ文字がエスケープノーケンスの 開始を示すためであり、エスケープノーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前に ジクスラジュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースまけま ジクスラジュを含むファイル ジを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

サンプル

setpassword コマドのサンプル

mobiletogetherserver setpassword "tech-01" myNewPassword mobiletogetherserver setpassword tech01 myNewPassword

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

datadir

--datadir = PathToDatabaseDirectory データベースディレクトリークの マを指定します。

6.17 setsmtp

構文と説明

setsmtp コマイドには雇子メールのサードー設定を構成することができます。コマイドの引数は<u>設定ページのその他のタブ¹⁰³⁰内の</u>値セイト と同じです。このコマイドが実行される前にサードーを停止する必要があります。

mobiletogetherserver setsmtp [options] --host=StringValue --port=StringValue -ssl=true|false [--user=StringValue] [--password=StringValue]

- --host、--port、と--ssl 引数は必須です。
- host とport はSMTP ホスト名とISP のSMTP のSMTP ポートを指定します。詳細は使用中のISP には提供されます。
- ss1はSSLが使用されるかを指定します。
- user は電子メールサービスプロバイダーに登録されているアカウトのユーザー名を指定します。
- password はユーザーの マワードを指定します。
- ▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではオックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内でスペース おけお特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合かあります。これは シクスラシュ文字がエスケープレーケンスの 開始を示すためであり、エスケープレーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のレーケンスをエスケープする場合は、 以下のように前に ジクスラシュを次のように使用します: \\"。要約すると スペースおけま シクスラッシュを含むファイル 父を作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

サンプル

setsmtp コマボのサンプル

mobiletogetherserver setsmtp --host=mySMTPServer --port=25 --ssl=false mobiletogetherserver setsmtp --host=mySMTPServer --port=25 --ssl=false -user=AltovaMT --password=MyPassword

オプション

--h, --help オプシンを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.18 start

構文と説明

start コマイはMobileTogether Server をサービスとてサーバーマンン上で開始します。

mobiletogetherserver start [options]

- If Mobile Together Server はサービスとしてインストールされませんinstall コマドとて(起動する前に)最初にインストールしてください。
- To uninstall Mobile Together Server をサービスとしてアンインストールするコよ uninstall コマドを使用します。
- --h, --help オプシンを使用してコマドの情報を表示します。
- ▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字(mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では、シックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上での ックスラッシュ、スペース および特別文字

W indows システム (例えば ファイル おけよ フォルダー名、企業名、おけよ 個人、おけよ 製品名内でスペース おけお特別文 字かめ文字列内で発生すると引用符を使用してくたさい 例えば "My File"。しかしなから、二重引用符の後の シクスラシュ (例えば、 "C:\My directory\") は正確に読み取られない場合がおります。これは シクスラシュ文字がエスケープノーケンスの 開始を示すためであり、エスケープノーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は 以下のようご前に シクスラシュを次のようご使用します: \\"。要約すると スペースおけお シクスラッシュを含むファイル ジを作成 する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\"。

サンプル

start コマボのサンプル

mobiletogetherserver start

6.19 uninstall

構文と説明

uninstall コマイはサーバーマシン上でMobileTogether Server をサービスとしてアンインストールます。

mobiletogetherserver uninstall [options]

MobileTogether Server をサービスとて再度インストールするコよ install コマイを使用します。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

*小文字(mobiletogetherserver)はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer)はWindowsとMacのみで使用することができます。 *LinuxとMac 上ではズラッシュを使用し、Windows上ではアッシュを使用します。

例

uninstall コマドのサンプル?

mobiletogetherserver uninstall

6.20 upgradedb

構文と説明

upgradedb コマイは新規のMobileTogether Server バージョンの内部 MobileTogether Server データベースの構造をアップデ ートし、正確なデフォルトの値を入力します。これはDBの構造がMobileTogether Server のバージョンを次のバージョンに変更すると 必要になります。DB構造は新規のバージョンが既存のデータと作業するために更新される必要があります。古いデータベース内に既存のノ リューションは更新されたデータベースで使用することができます。

--nosamples オプノョンにより Altova サンプルンリューションを含まれ、新規のデータベースをインストールすることができます。これはデプロ イを希望するノリューションのみか含まれるクリーンな Mobile Together Server をインストールする場合役はさちます。

mobiletogetherserver upgradedb [options]

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、 すが、小文字(MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではオックスラッシュを使用します。

サンプル

upgradedb コマイのサンプル

mobiletogetherserver upgradedb

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

datadir

--datadir = PathToDatabaseDirectory データベースディレクトリークの 父を指定します。

nosamples

--nosamples

指定されると、(標準のインストールでデプロイされる、おけまupgradedb コマイトかこのオプション無して使用される) Altova サンプル ソリューションを含まれ、新規のデータベースが作成されます。

6.21 verifylicense (Windows のみ)

構文と説明

verifylicense コマドは、使用中の製品がライセス供与を受けているかチェックします。更に、--license-key オプランにより 特定のライセンスキーが製品に既に割り当て済みかをチェックします。このコマドはWindows 上でのみサポートされています。Linux おけよ Mac システム上ではサポートされていません。

mobiletogetherserver verifylicense [options]

• MobileTogether Server に割り当てられた特定のライセンスが、--license-key オプロンの植とてライセンスキーを与え るかをチェックします。

ライセンス 関する詳細は LicenseServer ドキュメイを確認してけさい (https://www.altova.com/manual/ja/AltovaLicenseServer/)。

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

```
*小文字(mobiletogetherserver)はすべてのプラナフォーム(Windows、Linux、およびMac)で使用することができますが、小文字(MobileTogetherServer)はWindowsとMacのみで使用することができます。
*LinuxとMac 上ではスラッシュを使用し、Windows上では、シクスラッシュを使用します。
```

例

verifylicense コマドのサンプル

```
mobiletogetherserver verifylicenseserver
mobiletogetherserver verifylicenseserver --license-key=ABCD123-ABCD123-ABCD123-
ABCD123-ABCD123-ABCD123
```

- 最初のコマドはMobileTogether Server かうイセンス供与されているかをチェックします。
- 2番目のコマドはMobileTogether Server が--license-key オプロンで指定されているライセスキーと共にライセス 供与されているかをチェックします。

オプション

(使用できる場合)オプションお豆におよび長い書式でノストされています。短いおよび長い書式のオークオフォオオンログダッシュを使用すること ができます。オプションは植を取る、おけよ、取られ、場合かあります。値をとる場合、以下のようプンドます: --option=value。値は月 用符無して2つの場合で指定することができます: (i) 値文字列にスペースが含まれる場合。おけよ (ii) 引用符が必要とするオプションの説 明内で明示的に指示されている場合。オプションがブール値の値を取り、ブールの値が指定されていない場合、オプションのデフォルトの値は TRUE です。 --h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

license-key [l]

```
--I, --license-key = <u>Value</u>
MobileTogether Server がのオプションの値とてライセンスキーと共にライセンス供与されているか確認します。
```

6.22 version

構文と説明

version コマイはMobileTogether Server のージョンを表示します。

mobiletogetherserver version

▼ コマボライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

W indows 上のMobileTogetherServer W indows とUnix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラオフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、 すが、小文字 (MobileTogetherServer) はWindows とMac のみで使用することができます。 * Linux とMac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上では ジンスラッシュを使用します。

例

version コマドのサンプル

mobiletogetherserver version



Α

Active Directory, 101 Active Directory ログイン, 93 Altova LicenseServer, 以下で登録, 93 開始, 35 接続設定, 93

D

Directory Service ログイン, 101

Η

HTTP と HTTPS ポート, サーバー管理者のための, 93, 94 モバイルクライアントのための, 93, 94

J

JWT 認証, 103

L

LDAP 設定, 101 LicenseServer, Altova LicenseServer を参照してください, 35 以下で登録, 93 接続設定, 93 LicenseServer 設定, 111 Linux, でのライセンス, 24 へのインストール, 21 Linux でのライセンス, 24 Linux へのインストール, 21

Μ

```
macOS,
でのライセンス, 30
へのインストール, 28
macOS でのライセンス, 30
macOS へのインストール, 28
MobileTogether Server, 6
インストール, 13
セットアップ, 13
ライセンス, 13
開始, 37
使用, 11
MobileTogether Server のバックアップ, 61
MobileTogether Server の復元, 61
```

S

SSL 暗号化, 39 SSL 証明書, 93, 94 Syslog サーバー設定, 111

W

Web ブラウザー, ソリューションの実行の有効化, 93 Windows, でのライセンス, 17 へのインストール, 15 Windows でのライセンス, 17 Windows へのインストール, 15

Ζ

アップグレードの設定, 108 キャッシュ, の設定, 89 作成, 89 キャッシュの設定,93,104 クライアントポート, 93, 94 クライアントユーザーリスト,85 コア, 14 コマンドライン命令. addtorole, 115 applicationid, 116 assignlicense (Windowsのみ), 117 createcontainer, 119 createrole. 120 createuser, 122 debug, 124 deploy, 125 exportresourcestrings, 127 grant, 129 help, 130 install, 131 licensserver, 132 resetpassword, 134 setdeflang, 135 setpassword, 136 setsmtp, 137 start, 138 uninstall, 139 upgradedb, 140 verfiylicense (Windows のみ), 141 version, 142 コマンドライン命令 (CLI), 113 サーバーアクションのログ,87 サーバーアドレス, 93, 94 サーバーセッションのタイムアウト,93 サーバーのアドレス, 93, 94 サーバーの統計,55 サーバーフォルダー. 管理.66 構造,66 サーバーへのデータファイル, サイズリミットの設定,111 サーバー管理者ポート,93,94 サーバー側 DB 接続,105 サーバー側ソリューションの作業ディレクトリ、93、105 サーバー側データベース接続,93 サーバー側のソリューションディレクトリ,93 サーバー側のデータベース接続,105 セットアップ. Linux での, 21 Mac OS X での, 28 ソリューションの設定,93

データファイルのサイズリミット, 111 パーミッション,66 パスワード. ドメインの有効化,93 パスワードポリシー, メンバーの割り当て,81 作成,81 ファイルサイズリミット, 111 ブラウザー. ソリューションの実行の有効化,93 プロセッサーコア,14 ポート. サーバー管理者、http と https のための, 93, 94 モバイルクライアント、http と https のための, 93, 94 ホスト設定,93,94 モバイルクライアント. の情報,60 モバイルクライアントポート,44,93,94 ユーザー,48 ロールの割り当て,74 管理,74 削除,74 新規作成,74 ユーザーライセンス, の管理.85 ユーザーログイン. ドメイン特有のパスワード,93 ユーザードメインのインポート,93 ユーザー認証,102 ライセンスとプロセッサーコア, 14 レポート. ユーザーの特権の,83 特権の,83 ロール.48 メンバーの割り当て,77 作成.77 特権の定義,77 ログ設定,93,100 ワークフロー,66 ワークフローシミュレーション設定,108 ワークフロー実行設定,108 暗号化.39 管理者ポート、44、93、94 作業ディレクトリ,93,105 実行アクション. のログ,87 設定.93 JWT 認証, 103
設定,93 LDAP, 101 LicenseServer, 111 Windows 上, 15 キャッシュ, 104 ソース, 105 その他,108 ログ,100 大きなファイルのためのサイズリミット, 111 認証, 102 単ースレッド実行,14 電子メールの設定,108 電子メール設定,108 統計, ソリューションの使用,55 統計設定, 108 特権,48 詳細リスト,51 認証設定, 102